

公園

林學博士
田村
剛

第二十編 庭園と公園

第一章 序 説

庭園と謂ひ、公園と謂ふ、それは如何なるものであるか。庭園は厳密にいへば公園 (Public park, Public garden) に對する用語ではない。

庭園 (Court, Yard, Garden) は先づ建築を圍繞する土地で、多く觀賞植物や戸外の休養娛樂設備を有するもの、總稱である。そこで庭園のうちには、住宅又は別荘の庭園を始め學校、公會堂、病院等の公館附屬の庭園や、數家族又は俱樂部員等で所有する共同庭園もある。これは必ずしも建築に附屬するものではないが、性質上住宅に匹敵する様な建築は無くとも、庭園の一種と見るのを至當とする。

公園とは、公衆のために公共團體又は政府により施設せられたる造園である。公園の分化は最近愈々進み、市内に於ては廣場、逍遙道路、運動場等寧ろ特殊なものに發達し、その最も公園らしい公園は、森林公園又は天然公園として郊外その他非凡な風景地に設けらるゝこととなつた。

之等造園は、大氣や日光や植物や土や水等の自然を享有せしめる爲の施設であつて、自然を遠ざけ、著しく物質的機械的に偏し、健康上大なる缺陷を有する近代都市の生活に、特に尊重さるべき凡ゆる特色を認めらるゝに至つた。

上述の如く、造園は、住宅や都市の單なる修飾ではなく、都市生活の欠陥を補ふに必要缺くべからざるものとなり、各國競つて之が實現にとめてゐる。我が國に於いても過去十年間、目覚しい進歩をなし、既に論議の時代は去り、私園より、大自然公園に至るまで、急激な發展を遂げつゝある。

さて本文に於ては最も單純な原始的のものより之等發達の徑路を辿りつゝ、東西各國の造園を比較し、漸次現代の複雑なるものに及び、あらゆる方面より造園を觀察して、現代造園の本質を明かにしやうとした。

尙終りに一章を設け、造園を構成する最も重要な自然材料のうちで、特に植物材料につき説述することとした。

造園の二様式

造園は各國で夫々異つた特色をもつてゐるが、その發生時代に於ては略同様の型をもつてゐるたやうである。住居の周圍には戸外の仕事場

としての平坦な空地や家畜、果樹を栽培する場所が設けられ、必要に応じて綠蔭樹や防風林等が植出されてゐた。かうした原始庭園は氣候、地理、植物等の天然條件に支配せられてはゐるが、庭園として最も本質的なものを有つてゐるのである。

然るに人類が一定の地に土着して、部落を作り、やがてそれが都市となるに至ると、大いにその種族的乃至は民族的特色を發揮するやうになり、一方文化の進展に伴つて、政治、社會、交通、戰爭、文藝、科學等の複雑なる人為的環境に支配せられ、種々の自然的環境と相俟つて、その國特有の庭園となつて來るのである。又同一國に於ても時代の經過につれてその環境の變化によつて著しく推移するものであつて、決して一定の型で止まるものでない。かうして造園は地理的に時代的に複雑なる環境に支配せられて、特色ある様式 (Style) を出す事となつてゐる。

これを實際に就いて、東西造園發達の徑路を比較して見ると、その發生時代には略その軌を一にしてゐる。然しながら文化の發展に伴ひ、環境の複雑な相違によつて、東洋の造園は風景式 (Landscape style) で一貫し、歐米は建築式 (Architectural style) に發達し、東西二大樣式の對立を見るに至つた。

けれども風景式と建築式との發達の可能性に

何れの國に於ても見られるので、理に支那では院子或は天井(中庭)に建築式の地割を見るのが普通であつて、庭園として建物と獨立する場合は、殆んど風景式である。

歐洲に於ても、一度イギリスに自然式庭園が提唱されると、忽ち全歐洲の造園界はこれによつて風靡され、その後兩様式の得失可論は最近まで造園界の中心問題であつたが、結局兩様式を綜合したものが今日の造園である。

然し又一口に建築式庭園といつても、エヂプト式のやうに、平面的なものがあつて、イタリヤ式のやうに立體的なものがあつて、オランダ式のやうに幾何學的な特色をもつたものがあつて、近代ドイツやイギリスのやうに費用を主にした内容本位のものがあつて、又風景式といふうちに、イギリス風景式のやうに、繪畫的手法を主とした浪漫的なものがあり、ドイツのやうに植物觀科學的の見地に據る寫實的なものがあり、アメリカの一部に唱へられる理想主義的のものがあり、我國のやうに縮景的のものや象徴的なものもあつて、決して一様でない。

されば、茲に造園が如何なるものであるかを觀念しやうとするには、是非其の兩様式を包括せしめて對象とせねばならぬ。然るに兩様式の對立は單なる外形の上にあるのではない。風景式が鑑賞を主とするに反し、建築式は實用殊に居住の生活に於て家と共に内と外との生活をなすに、かなり享樂分子を加へ、鑑賞的となり更に信仰の意味の伴つた庭園の發達してゐた事は、當時の遺跡で發見される、壁畫によつて明にされてゐる。

住宅は周圍に部屋を有し、中央に矩形の中庭を設け、中庭の四圍には柱廊が並んでゐる。中庭は方形の池泉を中央にして、綠蔭樹を並植し左右均齊に地割せられた整式園である。

酷烈なる日射と、ナイル河岸の輝いた黄色の砂漠とは、自ら人々をして綠樹と日陰とを慕はしめるに至つた。そして椰子やブラタナスやサイプレスやアカシヤやイチヂク等の樹木が好んで庭に植ゑられた。又古圖には槽植の樹木が裝飾用に採用せられてゐるのが見える。これは恐らく、當時盛に輸入した珍貴な外來樹であらう。又一方炎熱の上に雨量の少い地方のことであるから、綠樹と共に水は缺くべからざるものであつて、ナイル河から引かれた運河の水は、邸内に導かれ池に堪へられて、庭園に涼味を添へ、灌水にも使用せられた。

建築と共に中庭が大きくなると、比例して池も大となり、水鳥や魚を放ち、スケレンやハスやカハホネ等を好んで植ゑたらしく、又池畔に涼亭を建てたり、池中に濃く色どつた小舟を浮べたり水浴を樂んだりした様子がある。兎に角この頃の庭園では實用の目的他に宗教の目的を以てなされた裝飾の始まつてゐた事や、享樂

分けて、庭園は戸外の住む場所であるといふ點を強調してゐる。

そこで學者によれば、この二つの造園型は様式的區別でなくして種類の別となす者もあるが、私はこれをやはり様式的別として取扱ふのを正當とする者の一人である。



エヂプトの庭園の圖

第二章 歐米の庭園

第一節 上代の庭園

一 エヂプトの庭園

今から五六千年前エヂプトには既に驚嘆すべき文化の跡を見る。第三王朝の頃には既にピラミッドを始め有像彫刻等種の素晴らしい藝術を残してゐる。庭園に於てもこの頃は既に原始的なものから一歩を進め、實用以外

的分子が十分加味せられてゐた事は、疑ふ餘地はない。第十二王朝(約四千年前)當時の都テラベより發掘された壁畫は、當時の庭園の平面を具體的に説明する好資料である。(第一圖参照)

二 西方アジアの庭園

西方アジアのチグリス、ユーフラチス兩大河沿岸一帯の地にエヂプトに匹敵する古文明が起つた。それはバビロニア王國である。當時既に兩國は互に交通し文化の交換も行はれてゐた。由來バビロンの地はユーフラチス河の氾濫によつて毎年破壊的洪水に見舞はれ、住宅殊に宮殿や寺院などは、階を重ねて、立體的發達をなし、各階の周圍には多少テレースが取り残されて屋上庭園となつてゐる。

西曆紀元前六百年以新バビロニア王ネブカドネザルは、その愛妃のために、殺風景なバビロンの市に、各地よりの珍花奇木を集めて、後に世界七不思議の一つに數へらるゝ有名な架空園(Hanging Garden)を經營することゝなつた。王妃は北方山國たるメディアに生れ、露壇式庭園に馴れ、郷國の庭園を慕つて止まなかつたので、この大工事を思ひ立つたのである。その大きさは底の幅が三百米と四百米で、高さは五〇米に達したといふ、實に驚くべき大規模なもので、煉瓦アーチ構造のテレースを幾段にも重

ねて、各階と階との間に土を盛つて斜面を作り、之に植栽したもので、全體は珍奇の草木の叢生した大丘阜の如くであつたといふ。之が灌水にはユーフラチス河より、ポンプ仕掛で頂上まで汲み上げ溝と水道とによつて全園に給配せられ、又暖國に好ましい浴池は壁を穿つて洞窟様の室として設けられた。

この架空園は一説に今より三千數百年前古バビロニアの女王セミラミスの經營したものとも傳へられてゐるが、ギリシヤ歴史家の記述する所によると、ネブカドネザル王がその愛妃のために起した事になつてゐる。

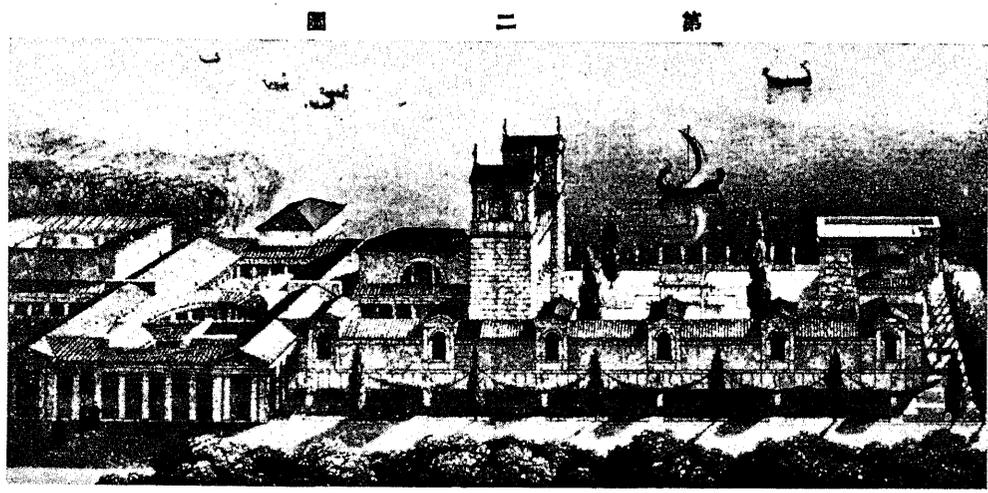
其後幾許もなく新バビロニア王國はバビロニアに亡ぼさるゝに至つた。バビロニアにはバラダイス(Babylonia)といふのがあつたが、これは王侯、貴族の占有なる、天然の狩獵苑で、支那でいふ園であり、後のイギリスでいふ Park 又は Forest の類であつたであらう。

元來バビロニアやメディアは山國であつて、その庭園は之等天然の地形を利用して、傾斜地を數段に均して露壇を設け、各露壇を階段や坂路で聯絡し、山地では自然の流を利用して、人工瀑布や噴泉や水盤等も設けられ、美しいバラ其地の花卉で埋められてゐたとの事である。かゝる庭園は城や邸宅と密接に結合して、自ら建築式なものとなつてゐたやうである。

三 キリシヤの庭園

ギリシヤ人は平和と美と自然とを無上にあつて、藝術的天分の豊かな國民であつて、優秀な建築や彫刻を残してゐるが、其の初期に於ては庭園は単に果樹蔬菜等を栽培する實用的なものに過ぎず、藝術的な莊麗な庭園に就いては何等記すべきものもなかつた。

當時のギリシヤ人は社交、政治、競技等を好み、男子は多く家庭を外に働いた爲に、家庭生活の裝飾として庭園はあまり發達しなかつた。然し一方都市には必ず運動競技場や野外集會場等の立派なものが設けられ、オリムパスの競技場の周囲には優勝者の像が立ち並び、並木がこれを守り青年の血を沸かしてゐたものである。尚ギリシヤでは天神地祇を祭るために清浄なる地を下して祠堂を設ける習ひがあつた。萬能の天神ジュピターの社は、かうして最初に創められた。智の神ミネルバは月桂樹を創造した神として、その祠堂をば月桂樹で纏らした、月と狩の女神ダイアナのために殊に林間の美はしい祭場が選ばれた。愛と美との女神ビーナスは、花園の女神であつたから、その祠堂は群花に埋もれて祭られた。



射を遮るために綠蔭樹が爽涼な蔭を添へてゐたであらう。

さて之等の素晴らしい藝術的寒氣に於て庭園も何時までも單なる實用園であるわけはない。後には美はしい彫刻と、芳香を放つ花卉と清涼を漲らせる泉と綠蔭を造る樹木を有する庭園が發生してゐた。それは彼等の殖民地たるポンペイの發掘によつて具體的に研究する事が出来る。住宅は普通開口五六間で奥行深く、周圍には塀を繞らして一つ乃至三つの中庭が設けられてゐる。第一の中庭は應接間の庭であり、第二は家族の居間の庭であり、最も奥に來る第三の中庭は、實用園である、時としてそれは神々を祀る神苑となつてゐることもある。かゝる小而積の中庭は、建築の一部といつてもよく、自ら建築的な特徴を備へることとなり、隨つて地割も建築に支配せられて左右均齊であつた。中庭の中央には、屢々規則正しい泉が穿たれ、その周圍にはギリシヤ彫刻が列べられた。そしてそれは勿論花卉で埋められ、花壇の縁取りとして列送物なども盛に使用せられた。庭園を繞る柱廊や其の壁畫などは庭園に欠くべからざる裝飾となつた。後園などには、綠蔭樹も植へ出された。又ポンペイには庭園の外、都市計畫や、市内公園等に關する興味ある資料が残されてゐる。

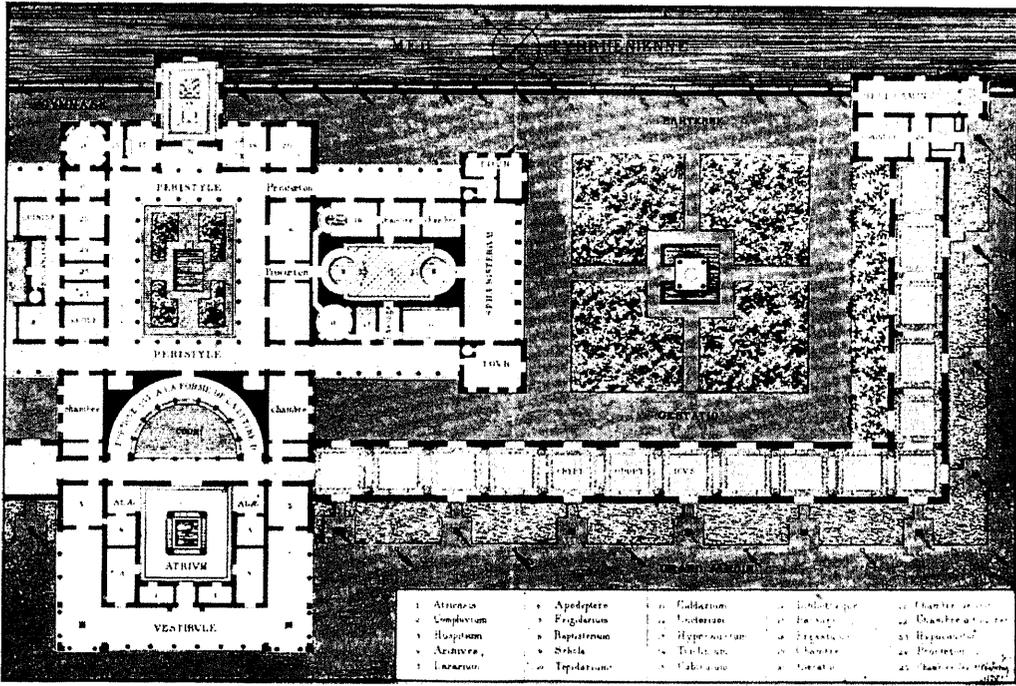
四 古ローマの庭園

ローマは丘陵地であつて、眺望に富み、加へて造園材料として特色ある笠松やサイプレスや、橄欖等盛に成育し、一方大理石等の美材が豊富であつて、之等相俟つて特色ある庭園を生むに至つた。

ローマの住宅は前記ギリシヤの夫と略同様であつたが、住宅が追々大規模となるにつれて、庭園もその平面と共に複雑となり、又地形に隨つて地下室や屋上庭園なども設けられた。要するにローマ時代の庭園は中庭式のものであつて、自ら建築的な取扱ひとなり、その材料も凡て建築的乃至彫刻的なものである。その平面は極めて規則正しく、一つの軸線によつて左右均齊に保たれ、幾何學的な發達を遂げた事は、中庭の發達から見て極めて自然の事である。

ローマ大帝國が全盛時代に入ると、東洋諸國の宮苑の雄大さをとり入れて、その規模は大となり、山といはず、海といはず、美はしい風景地を物色して隨所に大面積の莊麗な莊園(Villa)が起つた。莊園は自由な地所を選んだので、土地の高低に順應して種々な建物が配置せられ、之に應じて中庭が設けられ多少不規則なものとなり、附近の風景との調和を計つたのである。又園内には、池泉、噴水、溝渠を始め望廊、浴場、野外劇場等も現はれるやうになつた。(第二圖參照)

之等莊園中著名なものは、ローマ附近の丘陵



羅馬時代の別荘庭園圖

羅馬時代の別荘庭園圖。第一、庭園の中心に噴水が設けられ、その周囲に柱廊が廻らされ、その外側に歩廊が設けられてゐる。また、庭園の一角には、彫刻が陳列されてゐる。この庭園は、古ローマ時代の別荘の典型的なものである。

地或はナポリ附近の海に面する、高臺に多く、その中でもローマ郊外のアドリアナ莊(Villa Adriana)は、ローマ時代の最大の規模と云はれたものである。その遺蹟は今日よくその舊構を辿りうるものであるが、その建築と庭園の結構の雄大無比なるは空前といつてもよろしい。

尚ほ他にもローマ時代の庭園遺蹟として現存するものもあつて、文献と相俟つて、當時の庭園をやや具體的に研究することも出来、且つそれが後世イタリ復活した徑路をもかなり追及する事も出来るのである。

又この時代には庭

園師としても既に専門的に分れてアクワリウス (Aquarius) と傳へらる、噴水や水細工に秀でた水工師がたり、又庭木を種々な型に刈り込む専門の庭師がたりして、その技術の發達の程度を想像する事が出来る。

第二節 中世の庭園

ローマが東西に分裂し、戦亂相次ぎ、一切の藝術は下火となり、一つに暗黒時代と呼ばれた中世はキリスト教の發展時代でもあつて、その末期十三世紀に至りゴシック建築も起つて獨特の趣味を誇るやうになり、キリスト教藝術の最高潮に達した。

一 イタリア中世の庭園

紀元三三〇年コンスタンチン大帝は首府を東方コンスタンチノープルに遷すに至り、之によりローマ帝國は東西に分裂する事となり、文化の中心は東部に移ることとなつた。同時にローマの藝術は衰滅しキリスト教藝術が勃興し之に代るに到つた。

當時西ローマは殆んど戰亂の巻と化し、市民は防備を主とする關係上城壁内に蟄居し、住宅は空地を制限せられて、庭園は自ら取拂はざるを得ない有様にあつた。然し東ローマでは西ローマの絶間なき戰亂の

間にあつて僅に造園術の命脈を保ち、比較的古い様式を維持し、公園風のものも發達を遂げてゐたやうである。その庭園は規則正しい花壇式のものでローマ風に東洋風を取り入れた型のものであつた。

さてこの中世を通じて暗黒時代に於ける文明の支持者は僧侶であつた。僧侶のうちには立派な藝術家も出て庭園藝術を繼承したのもやはりこれ等の僧侶であつて、その僧院内には、最も完全な中庭式の庭園が造られた。

僧院の庭はローマの中庭のやうに矩形の平面をもち、その周囲はアーチの天井を有する廊下で圍まれ、庭面は直交する二つの通路によつて四つの區劃に分たれ、道の交又點には噴水をもつた水盤が置かれた。時として水盤は庭の一隅に或はその外縁の中央に置かれ壁泉のやうに取扱はれたものもある。庭園の周囲にはバラ、ブドウ、キヅタ等を纏はせた柵のやうなものも造られて美觀を添へると同時に綠蔭を造つた。庭の各區劃は芝生となり茶園となり、時としては果樹や花卉も植ゑ出され、その花は寺院の祭祀用として利用せられたのである。

十世紀の頃は全歐洲最も不況に陥り獨に造園も振はなかつた。十一世紀の初めになつて宗教の復興と十字軍の勃發によつて造園術は他の藝術と共に進歩した。其後科學の發達に伴ひ庭園は急足の發達をなし特に火藥の發明は城廓

防備の徹廢となり、住宅はのつたりとした土地を得られることとなり、意義ある發展を遂げる事が出来るやうになつた。イタリアは中世を通じて何等特筆すべき庭園を残さなかつた。唯十三世紀の後半クレモンジ氏 (Pietro Crescenzo) の大著述があつたために當時の造園設計上大いに参考になる資料を得る事が出来た。この書は植物材料、土壤等について述べ尙庭園の地割に關する議論をも述べてゐる。

地割は方形を推賞し、周囲には芳香植物を植ゑ、通路を芝生とし、塀には腰掛となる土壇を築き、美しい花の蔓性植物を纏はした縁廊を作ること等を奨勵してゐる。植物は風透をよくする様に散植する事や庭の中央には心地よき芝生を残し通風をよくすること、そして庭の面積は二乃至三エーカーを以て適當とする等を主張してゐる。尙彼は帝王と造園に就いて野獸苑、果樹園、養魚池など、その設計論に於て附け加へてゐる。

之等の論説は古ローマ時代の造園に關する著述による處多く、之を以て見ても、イタリアは中世を通じてあまり古典趣味を失はなかつたことを想像することが出来る。其後十四世紀より十五世紀へかけてのイタリアの庭園は全く彼の造園論に順つてゐた。かくしてこの國は全歐洲で最も早く文藝復興期 (Renaissance) に入る

のであつて再びローマ趣味謳歌の時代となる。

二 フランス中世の庭園

中世紀初期に於けるフランスの造園界は甚だ幼稚であつて、殆んど原始時代の造園から新に發達したかの感があつた。宮庭の庭も九世紀に到るまで何等見るべきものもなかつた。然るにシャルレマン大帝は、サラセン、サクソン等と戦つて勝ち、次第に國力盛となり、廣大な宮殿を造營するやうになつた。かくして漸く造園の芽を吹きはじめたのである。大帝は自ら植物を栽培する事に興味を持ち、園藝、庭園の實地に關する著述をなすに至つた。當時彼の宮殿の庭には果樹や藥草や裝飾用樹種等集められ、又珍らしい動物を集めた動物園等も設けられたが、庭園發達上から見ると、未だ幼稚なものであつた。

當時一般の市民は濠を繞らした城廓内に蟄居してゐたので住宅は空地を制限せられて、上方に發展することとなり、隨つて庭園は最少限度に狭められ僅かに光線と風とを入れることが出来る位のものであつた。

稀に庭園が設けられても、蔬菜や、藥草や果樹等に限り居たことは、貴族も平民も一樣であつた。又當時の繪畫によると沐浴のための泉が設けられ、腰掛や卓がもち出されたやうな、多少住宅の庭園として、體裁を備へたもの

もあつたやうである。(第三圖参照)

要するに當時の庭園は一種の坪庭に過ぎなかつた。たまたぐ十字軍が東方より齎した、バラやユリやスマイレやチューリップやヒヤシンスの類は、當時頗る珍重されたもので、かゝる園藝植物はこれを瓶や鉢や壺に植ゑ或は刈込みの中に植ゑ出して特に愛玩してゐたのである。

ある。

十五世紀の頃にはパリを中心として、相當の庭園を有する住宅が現はれるやうになつて來た。就中チャールス五世は、パリに有名な迷園を造り、當時非常に珍重された月桂樹を蒐集してゐた。

十五世紀末より十六世紀初頭にかけてフラン



沐浴池のあの中世の庭園

住宅の一部に中庭が設けられ彫像をもつた噴泉などで装はれたのは、ギリシヤ、ローマの名残とも見られやう。この時代には又、城砦を頂ぐ丘陵の麓や塹濠の内側には共同庭園があつて、後世の公園の如く市民によつて利用せられ、之を公衆の宴會場としたり、或は武術を練る場所としたので

左右均齊な區劃を持ち、その規則正しい區劃の中には種々な水細工や刈込物で造られた迷園があり、又今日の意味での毛氈花壇に似たものもあり、古代造園の復興の跡を思ふ事が出来るが、未だ建物と庭園とが完全に融合し統一されてゐなかつた。

三 ス페인中世の庭園

中世紀の淋しい造園界にあつて、特殊な發達をなし、獨り氣を吐いてゐるのはスペインである。

七世紀の始め、教典と劍とを以て立つた回教がシリア、北アフリカを撃ち從へ勢に乗じてジブラルタル海峡より南歐スペインに侵入し、此處にその居を占めてより、スペインの文化は著しくベルシヤ、シリシヤの色彩を帯びるに至つた。

中世紀初頭に於ける西方アジアは東ローマの勢力範圍にあつたのでその文化の影響を受け庭園もやはり、泉水を中心とする中庭式であつたが、その意匠技巧は、明らかに東洋的なものをもつてゐた。

元來南方スペインの氣候は、頗る暖熱にして乾燥を極め、恰もシリアの天と酷似してゐたので侵入者はその生活方法を變へる必要もなかつた。スペインのコルドバに起つた最初の回教式庭園は、その移植民によつて、シリアのダマスカスの庭園を粉本として設計せられた。以來コルドバを初め、セビヤ、トレド、グラナダ等に回教藝術が移され、庭園は住宅と共に東洋的色彩をもつに至つた。

この國の住宅は外敵に對する防備を固くした城廓然たるもので、ローマの住宅に見る様な

中庭本位のものである。その床や壁や柱は東洋趣味の色彩の豊かな織細な意匠を施され、獨特な外觀を持ち藝術的にも秀れたものである。

庭園は豊麗な列柱を繞らし、多くは中央に噴水を設け、それから溢れ落ちる水は大石の鋪床の上を細く流れたり、或はバラやカーネーションやユリ等の薫の中を細い溝によつて、美しく導かれて、他の泉に引き入れられるといふ風なものであつた。

これ等水の溢れ落ちる泉、細長い溝、鋪床の間から噴出する細い噴泉、建築の側方より奔出する側泉等はスペインの如き酷熱な乾燥せる地方では無上の美と快感とを興へるのであつた。かうした珍らしい當時の庭園は、今日尙各地に見られ、就中十三世紀頃に現はれたグラナダのアルハンブラ(Alhambra)(第四圖参照)やヘネラリーフェ(Generife)等は代表的のものである。

因みに、この國の庭園は中世以後イタリア、フランス、イギリス等の影響を蒙つて、獨特の様式は次第にその勢力を失つた。然るにこの造園様式は遠く海を渡つて彼等の殖民地たるメキシコやカリフォルニアの土地に移り、そこで本國に酷似した氣候を見出し再び榮えた。

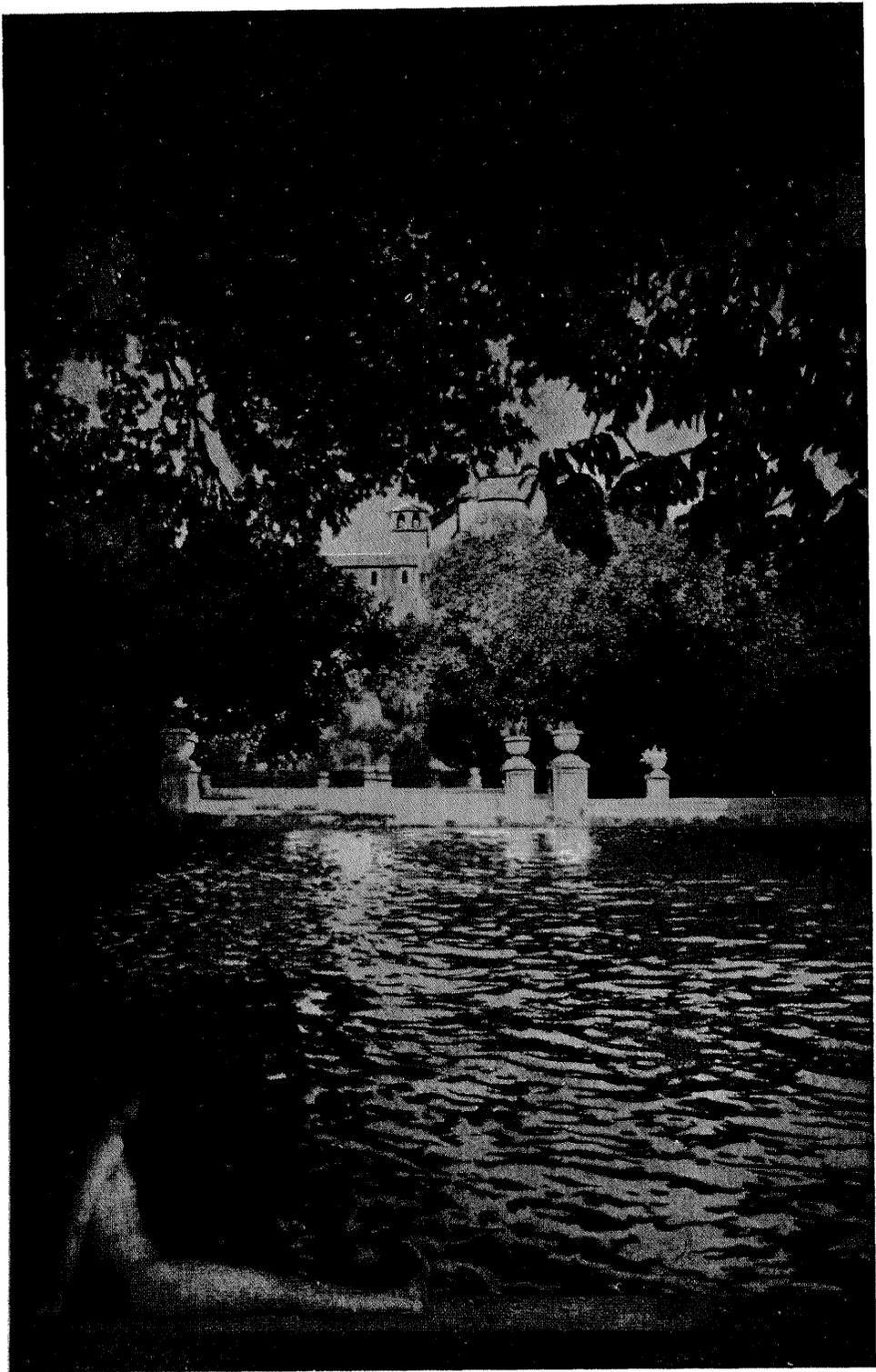
第三節 イタリアの庭園

ローマ時代の盛大な庭園は、中世に於てすたれローマネスク、ゴシックと移つて來たが、元來イタリアは古典の根深く早くも十四世紀より再び古典藝術憧憬の傾向が起つて復興運動に先鞭をつけることゝなつた。

當時宗教界は甚しく墮落し、その權威は地に落ち、人間の自覺運動盛となり、宗教から開放された自由なる美を求め、個人の權利を主張する等、凡そ近代思想のあらゆる萌芽をこゝに發した。

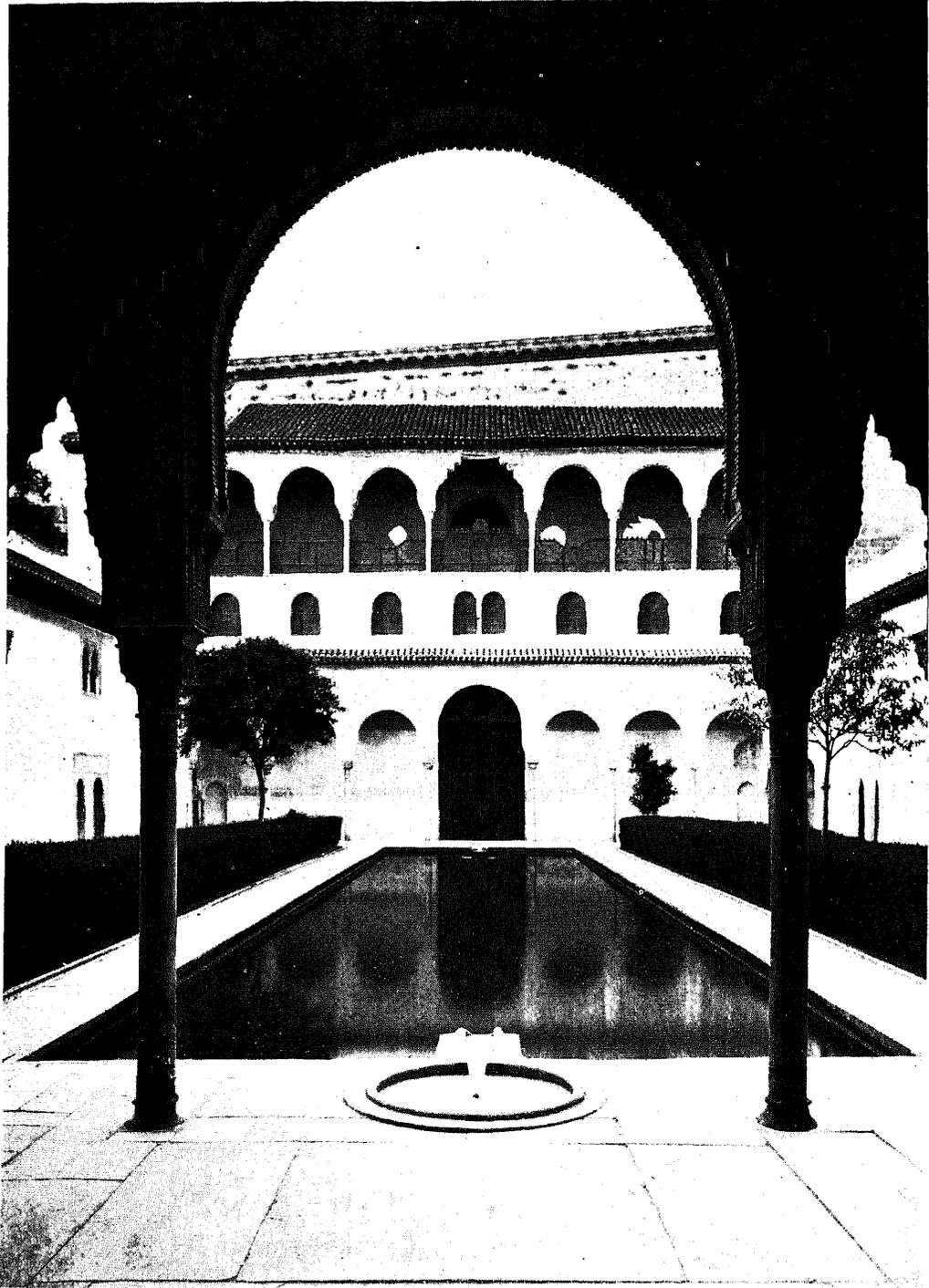
文藝復興は單に近代思想の先驅であつた許りでなく、科學の進歩も目覚ましく、有名な印刷術、火藥、新大陸の三大發見は實にこの時であつた。印刷術の發明により知識界は急にその舞臺を擴め、殊に火藥の發明は從來の戰術を一變せしめ、從つて中世都市の防備は無効となり、城郭的都市を開放して自由に田園へと擴がらしめ、別荘や庭園の發達を促すやうになつた。尙古典復活の直接の動機は東ローマの滅亡によつて文化は再びイタリアに返り諸都市が大繁榮を致したことである。

當時の貴族は豪奢を極め、趣味生活として、多く古ローマの王侯のそれを慕ひ、幾多の藝術家を養ひ、古記録を漁り傳説を質し、或は親しくその遺跡を探究し、古典藝術の復活を鼓吹し、新しい庭園の實現にも大いに貢獻したのである。



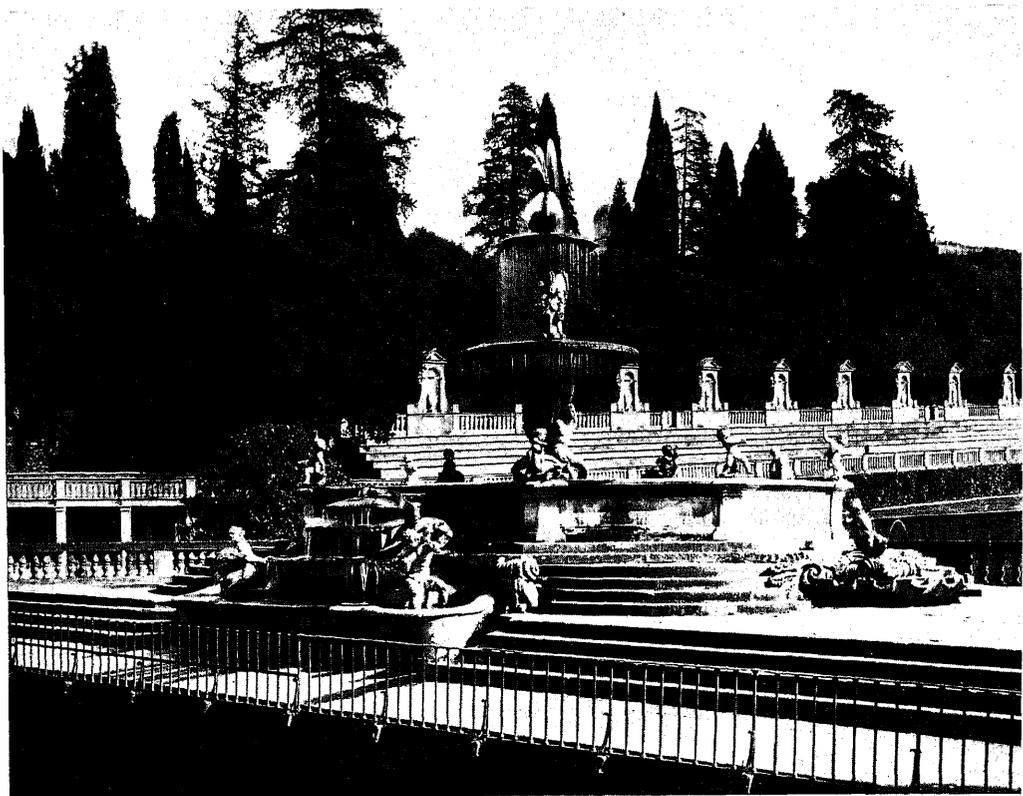
泉池の莊テスエド

を帯び、あでやかな並が瓶花はに上のそしら縞を垣壁い低に園周は泉る土き湧と々沸のつ四
にこれ比し純草に、一はさしは美の部局のこゝるゑ、く立引を景水層一は森の樹線常ら蔽く暗
るあてらやるゑての係



庭中の殿宮ラプンハルア

評賞が術藝の味趣洋東いしら珍、どな築建の匠意な細緻む圍り取をれこ、や泉いしは美の形るも落にか静らか端剛てしと心中を泉い長細
「たれき殘」に的異奇に角一の隆大



ホボリ苑の野外劇場場

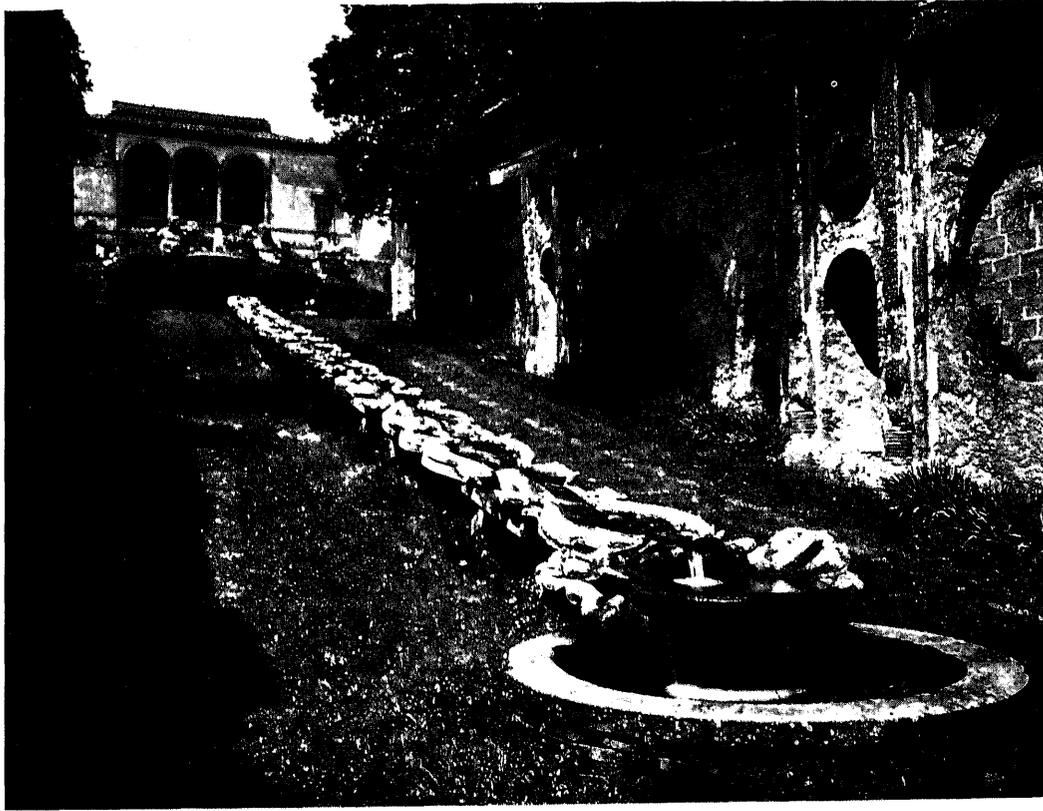
これら使用に所隨なるげし借が彫影な派立もて於に揚劇外野のす對相に彫宮のこ。たせか咲を華のそてつ至に苑り、ホボリ園庭ーリタイ
るあが觀の館術美外野

園内に、
利用せ
巧みに
通線が
り、見
に擴が
水平的
なく、
著しく
高低は
上地の
苑で、
大の宮
ツエ最
イレン
園はフ
ボ、リ
る。又
點があ
通つた
どに似
ナ莊な
ドリ
で、ア

園内に、
利用せ
巧みに
通線が
り、見
に擴が
水平的
なく、
著しく
高低は
上地の
苑で、
大の宮
ツエ最
イレン
園はフ
ボ、リ
る。又
點があ
通つた
どに似
ナ莊な
ドリ
で、ア
に交叉する園路があつて、各所に大規模な裝飾が行はれ、就中宮殿に直面する野外劇場(第八圖参照)と植込みの間に介在する大きな圓い池泉とは最も有名である。上述の如くボ、リ園はイタリア中最大の傑作である許りでなく、それが後にフランス式に重大な影響を與へた事は注意すべきである。
かうして全盛を誇つたイタリアの庭園も十六世紀末より十七期に入るに従ひ、次第に悪趣味に陥り、裝飾過剰となり、統一を失ひ、所謂バロック式の墮落した藝術となつた。
從來イタリアの庭園の特色であつた建築的地割構造を棄て、當時の自由な空想的な趣味によつて一切を支配し、繪の様な架空的な形を表現し、局部には自然と人工の不快感な對比を見せ、單に材料や細部の鑑賞のために統一を失し、意匠の自由奔放は却つてどくどくしさを増した。
水の用法に就いては次第に墮落し、種々な水魔術が喜ばれ、例ば洞窟に向つて進むと、忽ちあたりの空氣は暗澹となり、名も知れぬ鳥や獸の聲さへ聞えるかと思ふ間もなく、暴風雨を起し、雷を作つて、殺氣が溢れて来る。又岸に腰を下すとすれば忽ち四方から水が噴き出して人を驚かさず。之等の不思議は、悉く水仕掛によつてなされてゐた。まだこれに類したものに水風琴や水演劇といふやうな怪異なものもあつた。

第四節 フランスの庭園

十五世紀から十六世紀にかけてイタリアがその全盛を誇つてゐた頃、フランスはまだ政治上から見ても、又社會上から見てもイタリア庭園をうけ入れるだけの準備が出来てゐなかつた。尙、イタリアの様に古ローマの藝術に對する強い憧憬がなく、その遺物も残つて居らず、却つて中世の生活や藝術の方が根深く、之等の傳統をふり棄て、一氣に古典復興のイタリア庭園を取り入れるのは容易でなかつた。やうやく十六世紀末あたりよりバロ外に復興式庭園の影響が現れるやうになつて來た。その頃はイタリア藝術は最盛期を超えて既にバロック時代に一步を踏み入れているが、それは却つて、豪奢輕佻を極めてゐた當時の王侯貴族の生活に相應はしかつた。之等王侯の權力の下に豪華なるイタリア藝術は次第に纖弱となり、遂に本質的な



アパルネーセ莊

みてし揮發的な感遺を觀美の水活等面斜水・盆水・卓水・龍小・泉噴に的創圖てめ願、てつあて色特しい著も最の園庭ーリタイは水的飾
るあて雅優てめ傾り匠意の築建の面正る

園内に、
利用せ
巧みに
通線が
り、見
に擴が
水平的
なく、
著しく
高低は
上地の
苑で、
大の宮
ツエ最
イレン
園はフ
ボ、リ
る。又
點があ
通つた
どに似
ナ莊な
ドリ
で、ア

園内に、
利用せ
巧みに
通線が
り、見
に擴が
水平的
なく、
著しく
高低は
上地の
苑で、
大の宮
ツエ最
イレン
園はフ
ボ、リ
る。又
點があ
通つた
どに似
ナ莊な
ドリ
で、ア
に交叉する園路があつて、各所に大規模な裝飾が行はれ、就中宮殿に直面する野外劇場(第八圖参照)と植込みの間に介在する大きな圓い池泉とは最も有名である。上述の如くボ、リ園はイタリア中最大の傑作である許りでなく、それが後にフランス式に重大な影響を與へた事は注意すべきである。
かうして全盛を誇つたイタリアの庭園も十六世紀末より十七期に入るに従ひ、次第に悪趣味に陥り、裝飾過剰となり、統一を失ひ、所謂バロック式の墮落した藝術となつた。
從來イタリアの庭園の特色であつた建築的地割構造を棄て、當時の自由な空想的な趣味によつて一切を支配し、繪の様な架空的な形を表現し、局部には自然と人工の不快感な對比を見せ、單に材料や細部の鑑賞のために統一を失し、意匠の自由奔放は却つてどくどくしさを増した。
水の用法に就いては次第に墮落し、種々な水魔術が喜ばれ、例ば洞窟に向つて進むと、忽ちあたりの空氣は暗澹となり、名も知れぬ鳥や獸の聲さへ聞えるかと思ふ間もなく、暴風雨を起し、雷を作つて、殺氣が溢れて来る。又岸に腰を下すとすれば忽ち四方から水が噴き出して人を驚かさず。之等の不思議は、悉く水仕掛によつてなされてゐた。まだこれに類したものに水風琴や水演劇といふやうな怪異なものもあつた。

美しさを失ひ、形式的な貴族趣味に陥つてしまつた。この佛蘭西趣味の時代をロココ、時代といふのである。

この時に當つて獨り造園界は不出の天才才アンドレ・ル・ノートル (André le Nôtre) (一六一三—一七〇〇) を得て偉大なる發達を遂げ、立派な一様式を出し、全歐洲造園界を風靡するに至つた。

元來フランスは平坦地であつて、その風景も耕地や森林等の單調なもので、イタリーのやうに變化に富む地況を利用して、テレースや噴泉、瀑布等を縱横に使ひ分ける事は不可能であつた。植物の如きも、イタリーに於ける糸杉も余松もなく、カシ類やオレングの類もなく、温帶特有のナラやブナやトチを用ひねばならなかつた。かうした自然の條件からしても、イタリー式を直ちにこの國に移すわけには行かなかつた。

尙當時フランスの造園界は、後節に述べるやうに、歐洲中最も幾何學的な地割を有するオランダの庭園の影響を受けてゐたことを見逃してはならない。

イタリーの影響以前に於けるフランスの庭園は、曩に中世の所で述べたやうに、チャールス八世後急足の進歩をしたが、まだ建物と庭園とが統一ある聯絡を缺いてゐた。

フランソワ一世は文學や美術に興味を有する

數寄者であつて、イタリーの藝術家及び職工を招聘し、盛に宮殿を營み、フォンテンブロー (Fontainebleau) やサン・ジェルマン (Saint Germain) 等の大名園も造られ、茲に始めて、豪華な初期復興式を始めることゝなつた。

フォンテンブローはバリの郊外にあつて、宮殿の壯麗はベルサイユに匹敵し、庭園はベルサイユの如く繊細ではないが、よくイタリー風に成功した大花壇、掘割、並木、噴泉等に驚くべきものがある。

サンゼルマンの宮殿は傾斜地に據り、數段のテレスが重ねられ、並木、彫刻、噴水等均整を破つて大體に主軸線上に發展させていったものである。こゝにはフランス中最大といはれてゐる噴水がある。

十六世紀に於けるフランスはシャトー (Château) 建築が最も盛んであつた。随つて夫々立派な庭園が營まれる様な氣運が向いて來た。

このシャトー建築は、平面が均整的でなかつたので、イタリー式の均整的な平面を取り入れるには非常な無理があつた。かくて均整を破つて變化をつくる必要を認め、次等にフランス式を形成するに至るのである。

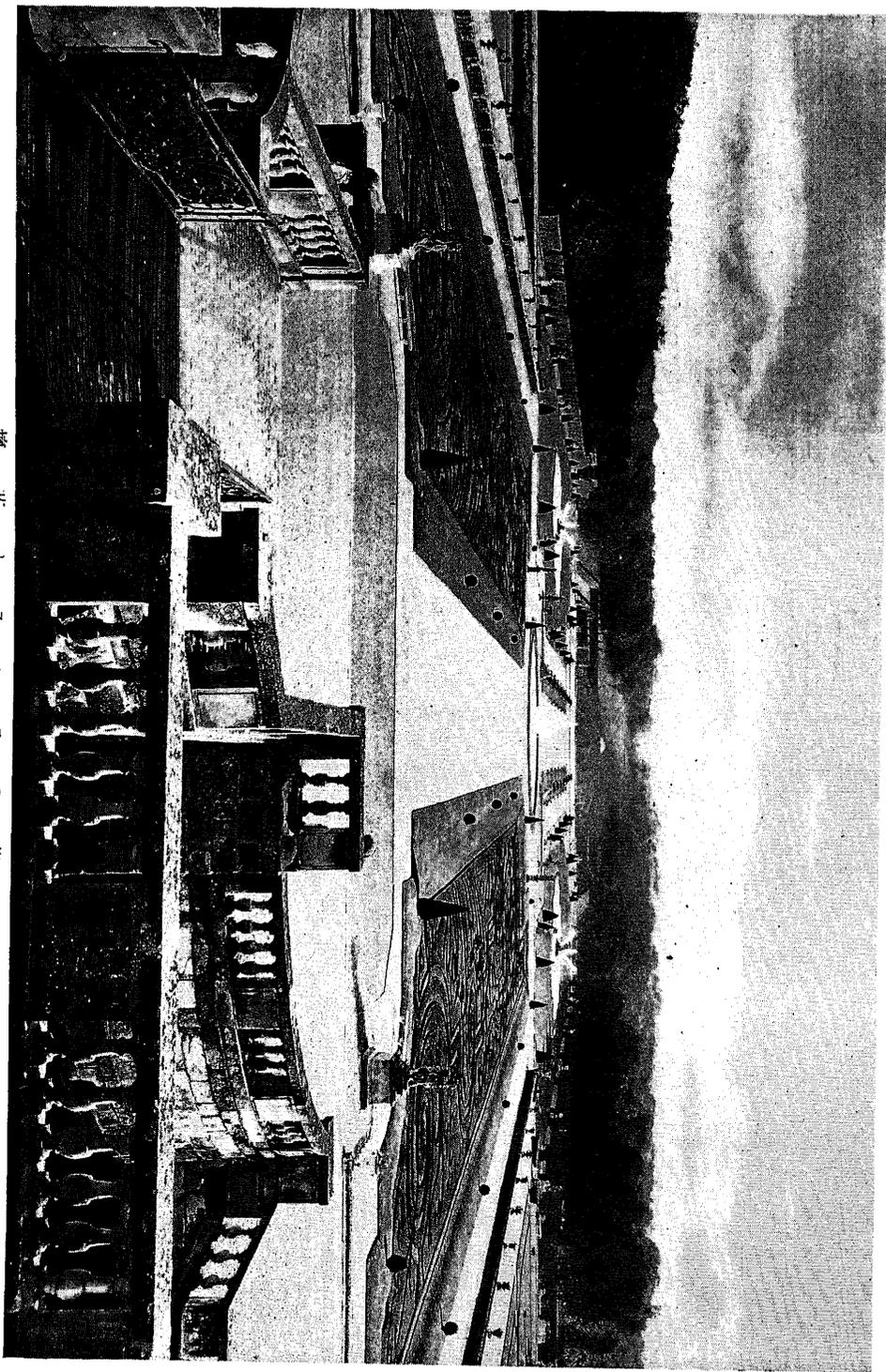
當時既に造園に關する著述あり、殊にパリシイ・パリス (I. Paris) の著書は有名なものである。彼は當時盛であつた水細工や、あまりに人工的な刈込みを排斥した。然し刈込もので綠亭を作るこ

とを奨めてゐる。又著名な庭師も出で、就中モレー (Mollet) はサンゼルマン、フォンテンブロー等の設計に關與してゐる。このモレーは代々庭師を出し、その中でもアンドレ・モレー (André Mollet) は著述を有し、特に並木を主張した人で、フランス造園界に大なる影響を與へてゐる。

十五世紀より十六世紀にかけてのバリの庭園は多くは亡んでゐるが、チュイルリー宮 (Tuileries) とルクサンブルの宮苑 (Luxembourg) は現存してゐる。前者は十六世紀後半カチン皇后 (Catherine de Medicis) により、後者は前者に次いでマリー皇后 (Marie de Medicis) によつて造られた。この二人は共に庭園の數寄者であつて、自らその設計にも關係した。又兩人共イタリーから嫁いで來たのであつて、幼時からフイレンツエ附近のプラトリノとカステロの別荘に成長したのであつて、特にボ、リ園に親んで居たのであるから、イタリー式の影響の深かつたのが想像せられる。殊にルクサンブル宮苑はボ、リ苑を模範せしめ、今日尙當時の姿を保存してゐるが、チュイルリーの庭園は後にル・ノートルにより、佛式に改作されて今日に及んでゐる。

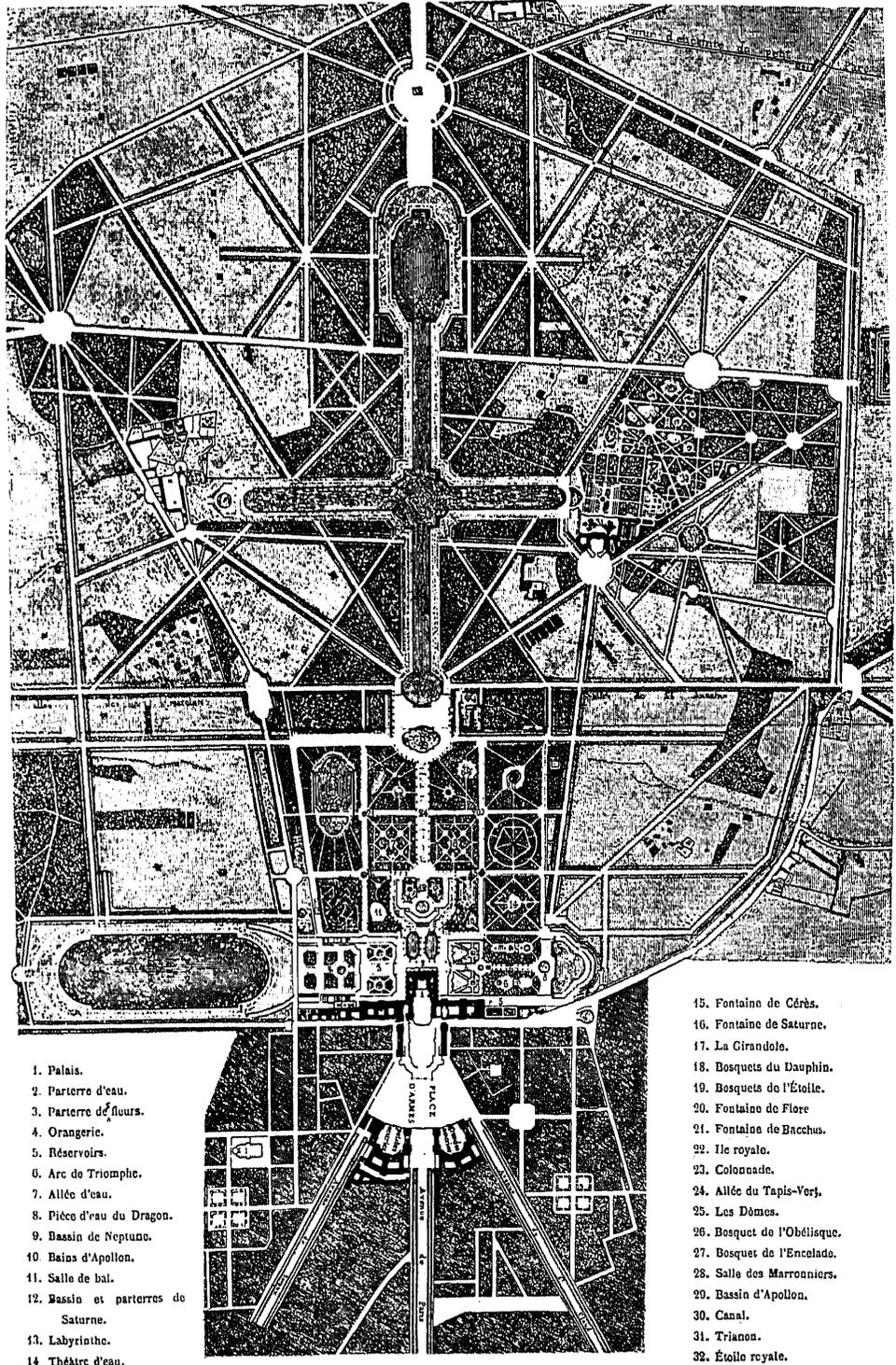
かうして十七世紀になると、最早フランスはイタリー其他より學ぶ必要がなく、自國獨特のものを産み出しうるまでに發達して來た。そし

圖 九 第



城 花 と ス レ テ の 苑 サ ハ

明を色時の式スワフな地面年。るえ見てつ立引第一とし園園にと森と木並、透列の園園が泉池、置けるな大雄の聖約右左はに下のヌーレテ大。るあで作陳のてつ園に塔ニイサルベカトノノル。るあてしは界にか



- 15. Fontaine de Cérés.
- 16. Fontaine de Saturne.
- 17. La Girandole.
- 18. Bosquets du Dauphin.
- 19. Bosquets de l'Étoile.
- 20. Fontaine de Flore.
- 21. Fontaine de Bacchus.
- 22. Ile royale.
- 23. Colonnade.
- 24. Allée du Tapis-Vert.
- 25. Les Dômes.
- 26. Bosquet de l'Obélisque.
- 27. Bosquet de l'Encelade.
- 28. Salle des Marronniers.
- 29. Bassin d'Apollon.
- 30. Canal.
- 31. Trianon.
- 32. Étoile royale.

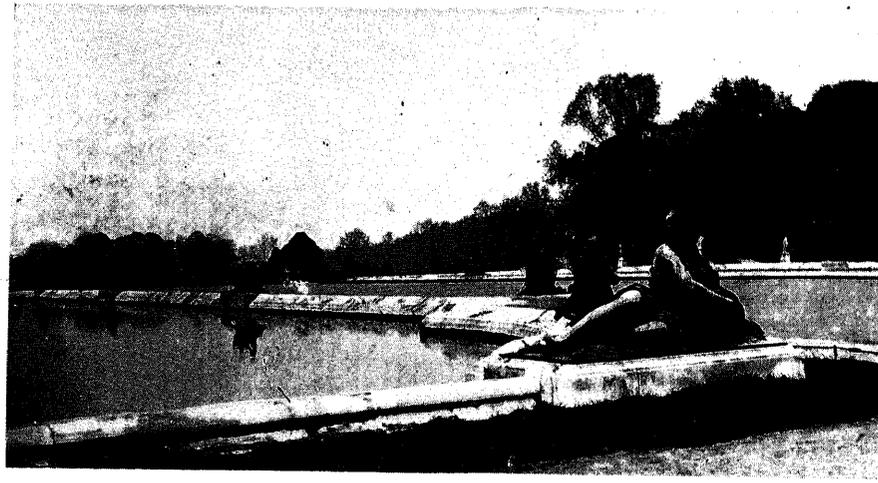
ル・ノートルは森を通じての並木路を考案して雄大な並木路が森林内の重要地點を聯絡したり、見通線を強調し、全園の地味を更に雄大にし、前次の庭園を其全體に結合してゐる。地味は必ずしも左右均齊ではない。

てこの氣運に乗じて遺憾なく、その天才を發揮することの出來たのが、次に述べるル・ノートル

ル・ノートル(一六二一—一七〇〇)はチュイリ宮苑の管理者の子として生れ、始め繪畫を學び、後建築と造園を志し、イタ

リに遊び、家と庭とを一體として設計や水の利用に關する技術を得し、イタリーでも二三の庭園を設計して大いに其名を得、四十歳にして巴里に歸り、從來の幾何學的庭園より一轉して、彼一流の庭園を出すことゝなつた。先づ當時の大蔵大臣

第二十圖



ル・ノートルの苑水の花園

それは表が味麗な雅麗な洗練もれづい、どんな像彫たれらえ据に邊の泉池は或や物器や瓶花るなに手の家々夫るみてい着落とりとして得る兩位の

フーケー氏のためにボー(Vaux)の別荘を(第九圖参照)設計した。この庭園は今日尚ル・ノートルと並び稱せられる名園である。これは一六五一年起工し千八百萬法を投じて完成したもので、一六六一年盛大な宴を張つてルイ十四世の臨幸を仰いだ

し又彫塑や噴水や池や並木が隨所に巧妙に配置される等、イタリー式に共通してゐるが、彼は之等を非常に大規模に取扱ひ驚くべき効果をおさめてゐる。その結果道路路によつて仕切られた區劃が大きいため、その各々が何等か特色ある分園となり、建物附近では手の込んだ池泉となり、刺繍花壇となり、時には森々とした植込となり、又その中に食堂や、舞踏室や劇場等が設けられてゐる所もある。ル・ノートルは土地が平坦であつて、イタリー庭園の様にテレス階段を用ひて立體的な變化を求めた事は出來ないが、宮殿に接する二大テレスは實に雄大である。この立體的な美觀に代はる平面的雄大さを表現するために見通線を有力に働かし運河と噴水を大規模に採用したことは實に偉大なる彼の創意であり、この見通線と運河とは膨大な庭園を引きしめて統一を與へる上に最も重大な役目を演じてゐる。尚又ル・ノートルは特に稱讚に値するのは、すべての建築と彫刻とが何等不釣合ひなく、全體のプランの上で如何にもうまくあてはまつてゐることである。

ル・ノートルはベルサイユにイタリーの庭園をよく生かしてゐる。建物と庭園とが合體して一つに取扱はれ、その建築と庭園とが深い森林を背景として、強い對比をなし、建築物が一直線に延び幾多の道が之に交叉

之等の大工事はよく王侯の權力によつてなされたとは云へ、その工事は實に二十億法に上り、今日之が維持に年々二十萬圓を要するといふことである。その後彼は細部のこまかくした裝飾を棄て全體の平面は殊に透視畫的な平面に執着し各地で

ルである。



園庭スリギイたけ受を響影の式一リタイ

を影のそ時一は色特のスリギイな質質るあき付落、りなにうやるれは喜が園庭な麗華奢豪、し優もをスリギイは或スラフは式一リタイ
ため蓄

れ、到る處で芳香を放ち、その綺を競うた。由緒ある日時計りや、装飾又は養魚用の泉水を中心を天絨に驚のやうに美しく手入れされ芝生が設けられ、通路は之を圍み又は横断して直交する等規則正しい地割となつた。そしてつてもイチキの生垣や刈込みものがその軸線を強調してゐた。

又庭園の隔廂内は夫々に弓場に當てたり、ボール場としたり、休息所としたり、時としては藥草園や牧草場或は薔薇やカーネーションの花畑とするのである。多少打ち開いた芝生にはクルミ、ニレ、トネリコ、マツ、ヤナギ、ソヨゴサンザシ等の疎林を設けるが、特にイギリス人の誇りとするのは老齡のナラの植込みである。日蔭道には並木や枝條を編み合はせた並木が続き、更にその外には樹間を通してゆるやかなイギリスの自然風景が展開してゐる。然してかやうな庭園は彼等の行き届いた監理によつて年と共に愈々雅趣を加へるばかりである。

以上述べ來つた、初期の庭園は、よくこの國の自然的環境と國民性を感知しうるものであつて、實用に則した簡明にして而も堅實なる美しさの底には、安靜な氣分が漂ふてゐる。

然るに時代の推移と共に、大地主は富を増し遂にイタリー、オランダ、フランス殊にル・ノートルの様式の影響を受け、從來の質實にして閑雅な特色は全く失はれ、豪奢、華麗、繊細と墮してしまつた(第十五圖参照)。

然るに美しい自然を有し戶外生活に親しむたイギリスの國民は、よく復興の近代精神を理解し「自然に歸れ」の叫びと共に「自然式」の



園庭式スリギイな風古

特の式スリギイに露的な樹葉の用質のこゝろみてし配を开花、し調強を庭軸で據込列、れらけ影處る到が床舖いし美にめたな濕多が候氣
るあが微

す受けてゐた。かくしてエリザベス朝のチユードル時代(十六世紀)に至り、國勢愈々興り建築には既復興式を取り入れ、宮殿建築が至つたが庭園は依然として寺院の庭園で、生垣を繞りた通路と花園を有する平庭式のものに過ぎなかつた。然るにヘンリー二世の頃からロンドンの市民はその郊外に別荘を作り莊園を營むに到り、名高いヘンリー五世のウインヅルの離宮もこの時に造營された。殊にエドワード一世の時代にはイギリスの造園界は隆盛を極め、王侯貴族はそれ々々莊園の經營に努め、地主は王權の拘束から逃れて自分の家のために夫々小農園を開き莊園を設け、庭園、果樹園等を營むに到つたのである。

當時の庭園は、尙ほ中世傳來の周壁や刈込生垣や花壇裝飾等を有し、多少オランダの虚飾や、フランスの華美やイタリーの莊重な様式を移入しながらも、よくこの國固有のものを失はず、平民的で家族的であり、實用的で愛樹的な特徴を有し併もよくその周囲の田園的な風景と調和してゐる所に、イギリス式の鮮明なる色彩を發揮してゐる(第十四圖参照)。

要するにイギリス式庭園は小庭園の集合したものであつて、各の小庭園は塙垣を繞らし、その間に通路を設け、その地割も個々別々であり、各小庭園は夫々の實用を有してゐる。又この國民は極めて實際的であつて、イタリーやフランス等で彫刻を用ひるやうな所には必ず樹木や花卉を採り、實用に基く力強い表現をしてゐる。又彼等は、園藝と庭園に對する相當の理解を有し、自らその設計もし、その監理も家族の手で極めて周到に行つた。種々の花卉は境裁として愛用さ

名の下に造園界に革命の旗を翻したのである。

第七節 歐洲風景式庭園

文藝復興による、人間の自覺と、自然復歸の精神とは、その後王侯の權力の下に壓縮せられ、やがては變態的な發達を遂げ、バロックやロココの藝術となり、遂に繊細無氣力なる虚飾に墮し、文藝復興に於て期待した近代精神とは全く反対の方向に陥つた。この自然主義に對して當然なる反動を豫明せねばならなかつた。茲に於て政治上にも藝術上にも一大革命の烽火が舉げられ、再び自然復歸の叫びが高くなつた。かくして始めて文藝復興の精神は安住の地を見出すことを得、自然に直而して更めてその第一歩を踏み出すこととなるのである。

一 イギリスの風景式庭園

歐洲に於ては、イタリー復興期の終り頃から漸く自然に對する親しみを深くする様になり、追々風景を主題とする山水畫家や自然を謳歌する文學者等が輩出し、殊に英人のうちに著名なる詩人が續出し、盛に自然を主とする庭園を主張し筆を振つて議論を戦はした。その最初の人はペーコン(一五六一—一六二六)であつて、彼は後世風景式庭園の豫言者として尊敬された。次でその使者として現はれたのはミルトン

(一六〇八—一六七四)であり、アデソンとポーブ出でて更に善良なる趣味の騎士であると讃へられてゐる。これ等の詩人は十八世紀前半に於て、何れも庭園論を發表して當時の造園界に對して浪漫的風景趣味を鼓吹してゐる。

一方イギリスの地は、歐洲大陸とは異なり、丘陵緩かに起伏して波濤の如く、氣候は海風の影響を受けて溫暖にして濕氣多く、爲に植物の成育旺盛で、廣々とした芝生はこの上もなく美はしく打ち續き、ナラを始め、多様な樹木は見事に繁茂してゐる。この美はしく、恵まれた自然に圍繞されてゐるイギリス人は、夙に自然に對する愛と美とに自覺をなしてゐた。

さて上述のやうな時代的傾向と自然的環境の中にあるイギリス人は、ロココの墮落した趣味を嗅ぎせる當時の造園界に反感を抱き、之を棄て去るには、何等躊躇するところはなかつた。

偶々東洋庭園の紹介せらるゝ所となり、既に古くより自然式庭園の發達してゐた事實を知り、之に確信を得て、イギリス造園界は大陸に先づて風景式庭園の第一歩を踏み出す事となつた。

かくて自然式庭園の先驅をなしたのはロンドン(London)とロイズ(Lyons)の二氏で、その運動はスウィツァ(Switzer)に依つて繼承せられた。茲に至り風景式庭園の根柢が先づ築き上げられた。彼は庭園の範圍を擴張し、建築物の周圍の庭園から更に外方の樹林や林苑(Park)や

牧場までも、設計上一圓として取扱ふ事を主張したが、未だフランスの並木や生垣や運河など人工的な線に對して相當に執着をもつてゐた。その頃アデソンやポーブは人工的建築的に取扱はれた植物に極力反對し、自然趣味を高唱し、自然の模倣を力強く主張した。ポーブの如きは自ら庭園を設計してその理想を發表し、兩詩人の主張は強く當時の造園家を動かしてゐたのである。

續いて實際家としてブリッチマンが出た。彼は宮廷造園家として、ロンドンやワイスの後継者であつた。彼の手法はバックinghamやストウの庭園を見れば想像することが出来る。この庭には直線路を用ひたりニレの並木等があつて幾分古風な形式を残してゐるが、一方特にナラの疎林を愛し、粗野な趣味を十分に現してゐる。彼は庭園を園外の景色と聯絡して廣く見せるために、従来用ひた周圍の塙垣を排し、ハハア(Ha-ha)と稱する堀割を以て之に代へた。

これは、この堀割に近い初め境界あるを知りハハアと驚くといふので名づけられた、實際上の技巧であつて、注目に値する。

上述の如き未だ幼稚な風景式庭園から更に轉じ、風景式庭園を大成したのはケント(Kent)の三氏(William Kent 一六八五—一七四八)である。彼は始めはブリッチマンの技術を襲踏してゐただけであつたが、次第に自己の領域を開拓して行つ

た。彼は教養ある畫家であつて、イギリスの實際風景を繪畫的に現すのが特長であつた。彼は又「自然は直線を嫌ふ」といふ主張を力説し、全然直線的な並木路や人工的取扱ひを排斥し、通路は別に深い意味もなく必ず曲折せしめ、又裝飾的な池泉を用ひず、緩やかな溪流に養はるゝ池沼を以て之に代へた。彼の自然に對する態度は益々眞面目となり、ケン

シントン宮苑に於てわざ／＼枯木を植ゑるに至つた程である。然し彼はあまり自己に執着した爲に屢々その缺陷を表すやうになつて來た。局部の美觀のために全體の統一を失ふ様なこともあり、又彼は植物に對する知識が不充分で、植物の將來に對する正確な豫想が出来なかつたために種々な不利を來してゐる。

第十 六 圖



ケントの設計圖(前設計は下、後設計は上)圖計設のントブレ

取の畫繪し設計てじ應にとの目と用實てしと調基を景風スリキイたしうか、林樹るを在點に之と生並つう彼にかやるゆ。るあで張主のントブレがとこるすをひ接

然し兎に角彼の功績は大であつて、十八世紀の造園界に多くの共鳴者を見出すに至つた。ケントを師としやがて自然派の巨匠として許

宮廷庭師として尊敬せられた。そして多數の設

しまつた様な勢ひである。

彼の造園は人工的材料を多く用ひず、中央に廣々とした芝生をとり、灌木類を所々に散在させ、多く獨立木を用ひ、植込みの間には、羊腸たる道を穿つといった様な、全く自然的なもので、然も技術は頗る老練であつたと云はれてゐる。然し當時の批評家は彼は藝術的理解に乏しいといふ點で非難するものもあつた。

ブラウンの後を襲うて、風景式造園家(Landscape-gardener)の名をかち得たのはレプトン(H. Repton 一七五二—一八一八)である。彼は學理と實地との兩方面より研究と經驗を重ね、自然式造園に關する著書を表し、その中に彼は次の如き造園上の四則を發表してゐる。

- 一、局部に於て自然の美を發揮すると同時に、自然の缺陷を隠蔽すること。
- 二、境界を假裝し或は被覆して庭園の廣さと自由の景觀を増すこと。
- 三、努めて人工の跡をかくし、如何に貴重な材料でも、その存在のために景觀を改善し或は天然の作品として少しも目障りならぬことを確めない以上はこれを露出してはならない。
- 四、如何に便利なもの又は快適なるものであつても、それが幾分か裝飾となり、或は全體の景觀の一部となり得ない以上、それを使用してはならぬ、強ひて用ひるときは、隠蔽せねばならぬ。

上述の如く、彼は造園は實用と目的とに應じて設計し、然る後に繪畫的取扱ひをなすことを主張してゐる(第十六圖参照)。又自然式造園は山水畫家と實地の造園家の協力に俟たなくては眞の發達は期し難いと言つてゐる。尙彼は建物周囲には露壇を造り、又規則的な花壇等を設けて建築的取扱ひをなし、建築と自然式庭園との聯絡に意を用ひてゐる。この事は後に述べんとする折衷式庭園の始めともなり、注目する價値がある。

かうしてイギリスの風景式造園は、先づこの國の風景の寫實より始まり、後には裝飾や實用を尊重し獨得の様式を發達せしめたのである。然るに一方ブラウンやレプトン等の一派に對して不満を抱き、浪漫的な東洋殊に支那式造園をこの國に紹介した者がある。それは建築家チエンバース(W. Chambers)である。彼は少壯の頃から支那に遊んで支那の庭園を研究し、大いにその感化を受け、歸國後一七三二年東洋庭園論を發表し、從來の自然式造園術は無意味な經費を掛けて、單なる田園風景を造るに過ぎないと言つて、その愚を盛に攻撃してゐる。而して自然の缺陷を補ひ、不完全な自然の美を完成するのが藝術的目的であつて、藝術家としての造園家は先づ美的修養を重ね、何等か崇高な理想を持つべきであると主張して支那造園の理想的浪漫的造園を讚美してゐる。然し彼は實際的

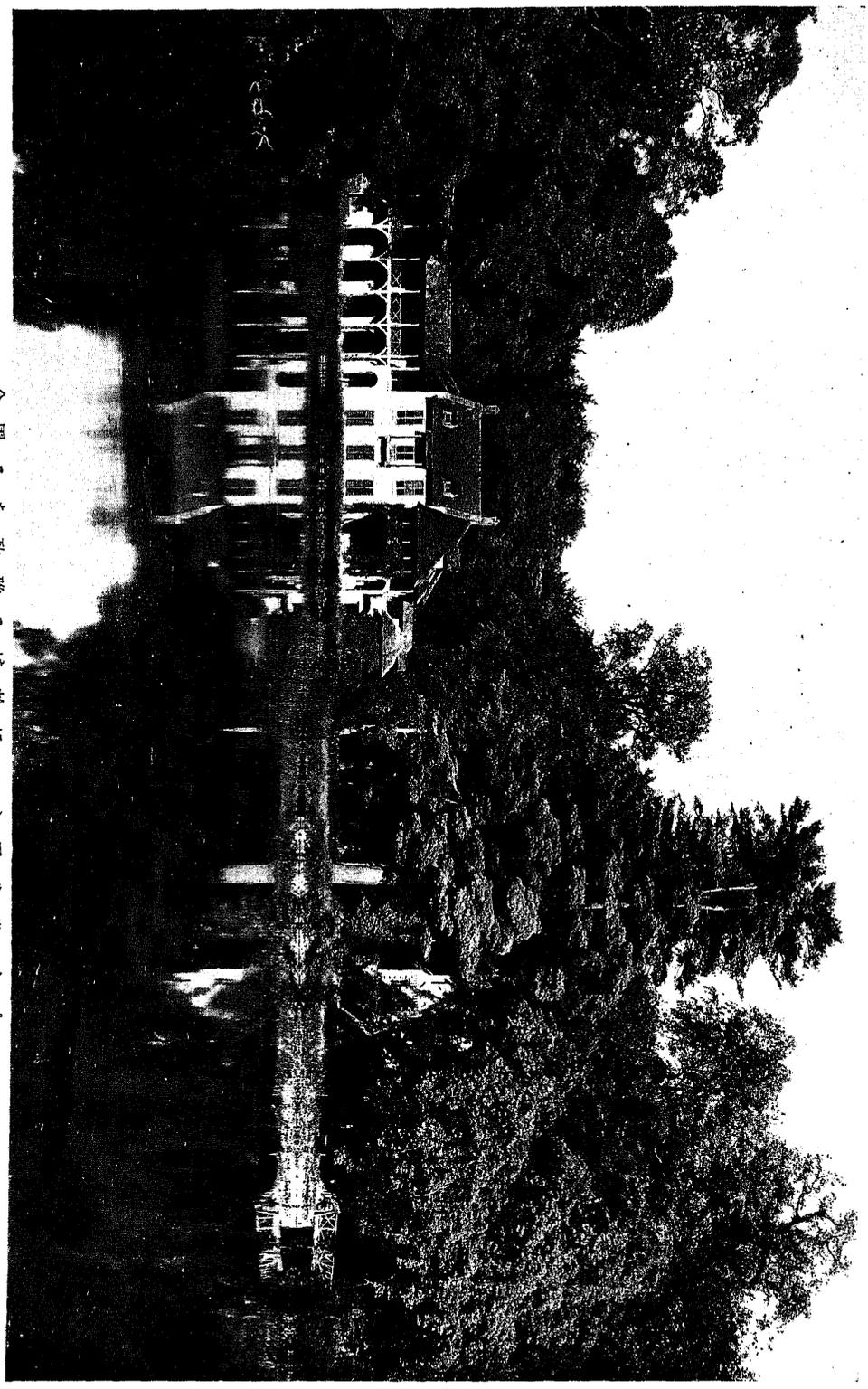
造園家としてはあまり成功しなかつたが、當時の造園界に非常な覺醒を促した事は明である。彼は後に王室造園監督者に任命せられ、有名なキュウの庭園を設計し、こゝには二三の支那建築も見られる。

かくして彼の主張は當時の風景式造園界に大なる刺戟を與へ、殊にそれは歐洲大陸の造園界を動かし、英支折衷式の名の下に浪漫的風景式造園がフランスを始めドイツ、オーストリア、ロシア、スエーデン、スペイン、イタリア等に流行を極めることゝなつた。

二 フランスの風景式庭園

イギリス風景式造園は當時歐洲各國に於ても異常な興味を以て迎へられ、就中その影響を最も深く蒙つたのはフランスである。

一七六二年七年戦争が終結を告げるとフランスに於ける英國式造園(Jardin anglais)は目醒ましい流行を來した。當時フランスには在來の立派な庭園が無數にあつたわけであるが、既に貴族趣味のロココ式が行きづまりの状態にあつたので、總て無條件で英國式庭園の指導を受けル・ノートルの名作まで改築されるといふ有様になつた。然し乍らこんな傾向の盛になつた事は單にイギリス式の影響のみによるわけではなく、この國に於ても十七世紀頃には既に形式派の固苦しい型式を破壊しようといふ運動は屢々



園 十 十 景

園 十 十 景

信の人茶の代時山園遊、らかるあて其の人数が示し然。たつ遊を家園の景としたを基村内に内園、れ禮を活生園田なクツツンアロに敷一、てしと庭原の式スツラフ的工人ため種を展華客家おつたなどのもたしら遊を景園にちやの居

企てられてゐた。デュプレニ (Dupreny) の如きは自然派の主張者の一人であつて、ベルサイユ宮苑の計劃に際して二様の非形式的な設計を提出したが何れも斥けられて實現しなかつた。

其後この國にはルッソー (J. J. Rousseau) 一七二一—一七七八) が現はれ、田園の趣味や自然の享樂を高唱し、當時の自然に背馳した貴族生活に反感をひるがへした。この事は當時思想界の革命の主意と一致し、多くの共鳴者を見出し、田園生活の憧憬や平民的な素朴な野趣の好尚が起り、造園上にも反響しないではなかつた。

この氣運に乗じてイギリス式は一般に迎合せられ、庭園に小村落 (Hamlet) を寫すことが流行となつた。その最初のものは一七八〇年にル・ノートル作のシャンテリーの一部を改造して設けられたもので、曲折した小川に臨んで水車小屋を建て、附近に二三の藪の百姓家を添へてゐる。素朴な外觀をもつた此等の農家も、やはり貴人の好みであるから、内部には數寄を凝し立派に裝飾せられた部屋を有し、矛盾した趣味を發揮してゐる。

然し小村落を有つ最も有名な風景式庭園はベルサイユ宮苑に隣るプチ・ツリアノンである。これは皇后マリ・アントワネット (一七五五—一七九三) の好みによつて作られたものである。皇后は特に庭園に興味を持ち、素朴な野趣を愛し、王よりツリアノンを乞ひ、イギリスの造園

家リチャードをしてイギリス式庭園を造らしめたが、彼の設計には満足されず、次でカラマンが他の設計により工事を進めたが之も中止となり、結局建築家ミックの改良案により、一七七八年より一七八二年の間に工事は進捗した。園内には菓園、石橋等が出來、池の中島にはアムールの聖堂が建てられ、續いてシャンテリーに見られる様な農家等も造られ (第十七圖参照) 之等の農家は何れも皇后の好みによるもので、主として木造で、殊に皮付丸太など用ひられ、野趣に富み、歐洲自然庭園建築の傑作となつてゐる。今日尚その雅致ある姿を止め、我が茶庭に見るやうな佗が發見せられる。二軒の農家には百姓を住はせ、農具の耕作をさせ、その邊にスキス産の羊も放たれ、搾乳所もあり、皇后は農婦に教へられて、自らバターやチーズを造られたとの事である。かうして完成したツリアノンの宮苑は所謂英支折衷式の典型である。

プチ・ツリアノンに次いで有名なのはエルメノンビル (Emanoville) である。これはジラルダン侯が莫大な經費を投じて造營したもので、單に支那式やイギリス式で作らうといふのではなく、唯趣味ある風景を作るのが望みであつた。侯は曩に屢々イギリスを訪ねて彼國の造園家の思想を受け入れ、一家の見識をもつてゐた。又この仕事にはルッソーが與つてゐる。彼は一七七八年侯爵夫人に招かれて、この別荘に

遊び、間もなくこの世を去つた。今日この庭園は廢れても、この園に葬られたルッソーの墓は、永遠に亡びる事はないであらう。

ア카데미の會員で文筆の人ワトレ (C. H. Watelos) は一七七四年庭園論を發表し、造園術の最も重要な原則は實用にあるといふ事を力説してゐる。彼はその理想を表現するため、バリの近くセーヌ河の畔にムランジョリを造つた。これはよく市の雑踏をさけ、死せるが如き閑寂の境地を現しエルメノンビルよりも好評であつた。

かくして自然式庭園も愈々浪漫的となり、極端に變化を求め、地上のあらゆる風景を集め、遂には化物の住み窟や、大きな人工の山や、岩石が造られ、廢家や倒木が散在し、更に印度や支那等の庭園材料や局部が集められ、どこまでも人の感情を動かさうとするものさへ現れた。

これ等の傾向を示すものにボア・ド・ブロンヌの林泉がある。池には支那風の石垣がコンクリートで造られたり、瀧口を設けて瀧を落したり、柳を植ゑたりしてゐる。この庭園は單に當時の造園を代表するのみでなく、自然式造園としても最も傑出した一例である。

三 ドイツの風景式庭園

イギリス式はドイツをも犯さないでは止まな

かつた。ドイツで最初の風景式庭園としては一七五〇年に出來たシユウエーベルがある。

一七六八年にはザサウ附近に有名なウエルリツ (Wohlitz) の庭園が起された。之等を手始めとして、自然式が大流行を極め十八世紀に及ぶのである。然しドイツでは周圍の事情が英佛と異つてゐたために、イギリス式造園は充分な發達を遂げなかつた。

先づ一七八九年にはスケル (J. Sckell) の設計にかゝる有名な庭園がミュンヘンに現れた。又フレデリック・ウイリアム四世 (一八四〇—一八六一) は曩に佛式に造られたサン・オスシ (St. Ouse) の庭園を改造して、諸所に廢墟を形どつたり、靈廟を造つたり、ローマの浴場や日本家屋を模造し浪漫的な局部を設けた。この事は當時好評を博し、かなり廣く行はれた。夫等の内にスツトガルトのホーヘンハイムやゲーテで知らるゝワイマール遊園やミュンヘンのニンフェンブルグ (Nymphenburg) がある。オーストリアではウイーンのシエンブルンさへ改造されるに至り、又ウイーン南郊のラクセンブルヒ (Laxenburg) の庭園等も十八世紀末新にイギリス式に造られて著名である。

當時キールに於ける美學の教授ヒルシユフェルドは、一七七七年から一七八二年にかけて五冊からなる造園藝術論を發表してゐる。この著述は系統的な美學に根據を置き、その難解なる

事はゲーテのファウスト以上であると言はれてゐる。彼の主張は當時の造園家は無論後世まで

その賞者に對して悲哀、歡樂、幽鬱、恐怖、豪壯、喜悅等あらゆる感情を誘起せしめるを原則とし、そのためには、



園庭式然自ツイド

ふいとるなとのも美的美とづ自ばれず現再に實忠をれこ、し見發を想理のそ、し察洞て以を眼の者樂料を然自の土郷
いしらツイドもにかいが處るあでの樂料も而、し脚立に愛土郷

かくて十八世紀の風景式造園は東洋の庭園や

時代の思潮の影響によつて頗る架空的、空想的であつて、嚴肅な科學的な自然とは極めて遠いものであつた。そこで従来の自然式庭園に對して、植物學者や、自然主義の藝術家の間に、次第に批難の聲が高まつて來た。

一八三四年造園家ビュックレル公爵 (By Buckler) は造園に關する著書を公にし、自然と理想との調和を主張し、特に作者の個性を尊重し、造園を本當の藝術ならしめるには一人の手で完成する必要があるとまでいつてゐる。

次いでベツツォルド氏はレプトンやスケルの感化を受け、造園の使命は自然より更に美しく釣合つた、併も表理に満ちたものを提供することにあると云つてゐる。

更にバイエル氏は一九〇六年その著書に於て著しく郷土愛を力説し、造園の根柢は郷土の個性より發することを深刻に主張し、又建築式、風景式何れに於ても、その外見的な無用な見えを嫌ひ、大いに實用を尊重してゐる。然し彼の論は如何にも極端であつて、實用と美の調和を缺き、或る種の公園の他、庭園に對しては當らない論である。

パウエル氏と前後して、ウイリランゲ氏 (Wilke Lange) は、郷土の自然を模範として、植物集團を構成するといふのが造園の問題であつて、植物觀相學上の知識によるならば美的にも調和し、又科學からも合理的であつて、造りものを確實に造らうとした。

けれども、折衷式庭園は、貴族や富豪の大量の積の庭園の外中流以下の要求を満足さすには縁遠いものであつた。かくて近代庭園は全然新なる根柢から誕生するやうになり、中世城砦内の質朴な庭園や農家の庭園に於ける本質的な發達を見出し、實用主義の庭園の復活となつた。

かくて新庭園は、建築の理想を援け、實際的要求を満足せしめねばならぬこととなつた。庭園は單なる外觀上の美を表はすものではなく、目的の表現の美しさでなくてはならぬ。その地割はイタリーやフランスの建築式庭園の如く、外觀上の軸線等に支配せられることなく、實際的な用途のために意義ある區劃を設けらるることとなり、形式上では不規則なものとなつた。

園を藝術的に向上せしめることが出来る。そしてこの主義によると庭園の形式は内容より發して意味あるものとなり、造園が自然の理想の表現として頗る新らしく尊いものとなると云つてゐる。

然るにシュナイデル氏 (C. H. Schneider) は自然を了解するために科學を用ひるのではなく、自然を理解するには藝術によると云ひ、又植物は單に美的内容を表現するための手段であつて、庭園は自然の内に潛む精神的な或るものを表現するにあると主張し、客觀と主觀との調和を力説し、自然式造園の陥つた邪道より之を救はうとした。

第八節 近代建築式庭園

一 イギリス近代庭園

藝にも述べたやうに、イギリス風景式庭園は十八世紀を通じて全盛を極めたにも拘はらず、健全なる造園の發達にとつては全く悲しむべき迷路を辿り、人工的で併も形式的な同一型の風景を繰返し、何等新味なきものとなり、建物と庭との聯絡を缺き、殊に、家の周圍の花畑や菜園などを無視する等實生活上の不便多く、次第に勢力を失ふに至つた。その反動として、チェードー又はエリザベス時代の原始的な實用的

な、そして極めて簡單で、比例を尊ぶ建築式庭園が復活した。

かくして自然式と建築式とが對立し、庭園はその何れを採用すべきかの問題に觸れ、造園界に大波瀾を起すこととなつた。茲に至り、バクストンやケンブなどが現れ、兩者の調和を唱へ、即ち兩者の長所を認め、建物の附近には外觀上からも、實用上からも建築的な庭園を設け、これを遠ざかるにつれて自然式を採用し自然と建築とを結び付けることに努めた。

之等の種々な根據をもつた折衷式は十九世紀になつて非常な勢で諸所に試みられるやうになつた。その中で最も著名なものは、バクストンの設計にかゝる、ロンドンに於ける水晶宮の庭園である。これは建物の附近はフランス風の規則正しい平面を採用し、これを遠ざかるに従つて、芝生、植込、運動場等を設けて自然的な取扱ひをしてゐる。

かくして、この新傾向は歐米造園界を支配するに至り、今日尙盛に行はれてゐる。

由來イギリス人は、國民舉つて田園生活の愛好者であり、又野外スポーツの發達は著しく、田園生活を促進し、郊外生活者の激増となり、從つて各家庭には大なり小なり、庭園が設けられ住むべく使ふべき庭の要求となり、益々實用的なものではなくてはならなくなつて來た。かくしてイギリスの庭園は最も實用的にして美はし

さて庭園内に目的の異つた部分が多くなつて來ると、これを實用の上から、又美觀の上から如何に配置するかといふことが問題になつて來る。そこで兩方の立場からこれを統一するために見通し線が利用され、各部の區劃には低い生垣が利用されるのが普通である。又土地に高低のある場合には露壇を設けて、見通しをきかせると同時に、家と庭との聯絡を計り、居間や客間から庭へ出易いやうにといふので、床と同じ高さとしてあつた。そして庭に高低のない時には、中央に沈床を設けて、その兩端にテレースが向ひ合ひ、併もテレースの傾斜面は緩な芝張とし、その上には、石欄の代りに生垣が設けられた。又生垣は在來の如き彫刻的取扱ひのものではなく、單なる隔壁として簡素な刈込が選ばれ、時には門の位置を特に強調したり、或は生垣の頂部を波状になし韻律的な面白さを示したりすることはあつたが、イチキのやうな刈込に適する樹種を有する國として決して無理なことではなかつた。要するに生垣と露壇とは、新庭園に於ける地割上最も重要で言はゞ庭園の骨格である。

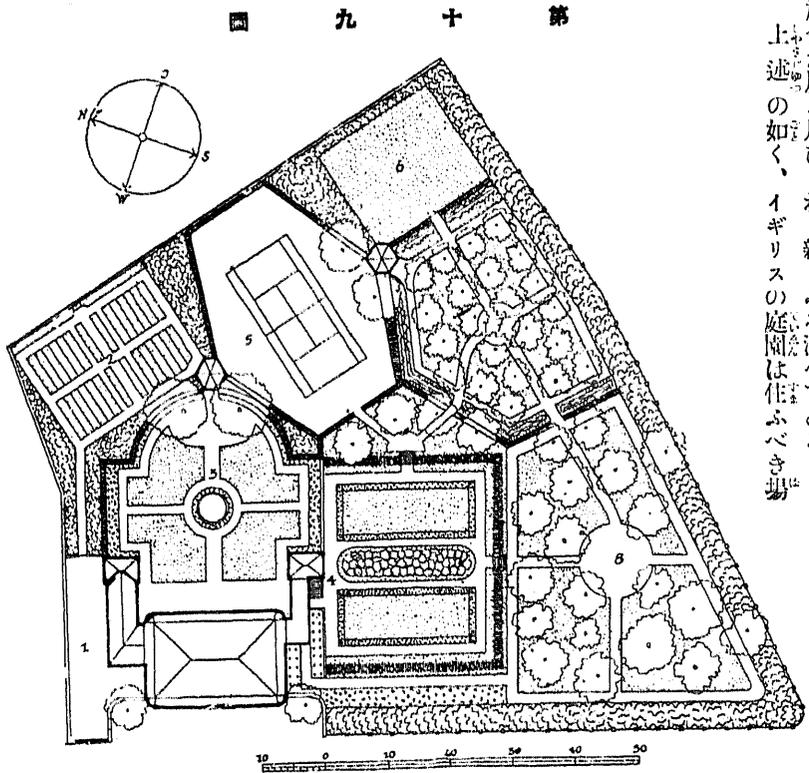
又イギリス庭園の特色として花園と芝生がある。元來園藝はこの國の家庭の常識とまで考へられてゐる位でその特色は既にチュニドル時代の庭園にも明に表はれてゐる。その花園は單に毛氈花壇式の圖案を誇るためではなく、單純な

この國は氣候溫暖で然も多濕な國として、イタリーの様に、水の必要を感じないので、その應用はあまり發達してゐない。單に小さな溝や水盤や溜池として用ひられてゐる位である。裝飾として最も多く用ひらるゝのは日時計で

あつて、どの庭にも必ず一つや二つは見られる。通路の交叉點や、芝生や花園の中央や見透線の終點やテラス等隨所に置かれてゐる。又鳩舎が庭々用ひられ、親しみを添へてゐる。上述の如く、イギリスの庭園は住むべき場

にドイツやアメリカに比べると面白い。

二 ドイツ近代庭園



第十圖 庭園近代ドイツ

1 手すり 2 園樂 3 園花 4 沈花壇 5 トーコニエ 6 遊子の遊場 7 果樹園 8 園庭 9 8 尺の幅

所であるから、落ち着いた獨占的の氣分を得るために、外圍に障壁を繞してゐる。この點は特

居間や客間が街路に面し、庭へは勝手廻を向ける事の不利益を悟り、先づこれをイギリス式に習

ひ居間や客間を庭に向け、併も床は露壇と同一の高さとなし庭への出入を容易にし、花園や芝生や、造园路や其他實用な果樹園等實用性に富んだ庭園を設け戶外室として利用する事を習

りつけて、この國特有の壁泉として、或は綠蔭樹の幹をとり巻いて圓形の腰掛を設けてゐる。ドイツ庭園に於ては、花卉や蔬菜や果樹は新らしき意義をもち、その主要材料として、取扱はれ、庭園の中央に現はれ、果樹は特に列植して區劃や裝飾に役立つ等この國特有の手法を現し、又涼亭、卓、腰掛など、必要に応じて配置せられてゐる。この外保健の上から兒童の遊び場やテニスコートや水浴池等も地積に応じて割當てられてゐる。かうして出來上つた庭園は實用から來る力強い表現を有してゐる。

次に近代庭園の主張を最も的確に語つてゐるツォーベル氏の言を紹介しよう。

一、庭園は擴張せられたる住家であつて、決して自然の模倣であつてはならぬ。庭園を創作する人間の手を抑制してはならぬ。

庭園を實用向に且つ美はしく造らうとすれば、技巧上廣々と造り、なるべく水平面を多く設けて、階段を甘く利用したい。

二、庭園の規矩に就ては家と大空とを標準尺とする。

三、庭園の形式は目的とする内容により定められる。

四、周圍に境界を繞らして内側を保護し、同時に強調すること。

五、かくして規則的な骨格の出來上つた上で、植込等は自由にする。

六、庭園の二大要素は、芝生、花壇、砂利面等の平面と垣、生垣、並木、格子垣等の壁體とである。

七、庭園の通路は實用上眞直に穿つ。

八、庭園の設備殊に腰掛をよい位置に配置する。

九、臺所廻は庭園の一部分であるから、垣を繞らした一廓として配置する。

一〇、新庭園は光明と色彩と生々とした外觀とを表現すべきである。

要するに、近代庭園の精神は、ドイツで最も明確に表現され、そしてそれは近代建築と歩調を一にして最も最新なる様式を創り上げ、世界造園界の注意の焦點となつてゐる。

第九節 アメリカの庭園

北米合衆國は、歐洲各國の移住民の寄合世帯であつて、古い歴史が無く、従つて庭園に於ても何等の傳統もないので、特殊な發達を遂げて來た。

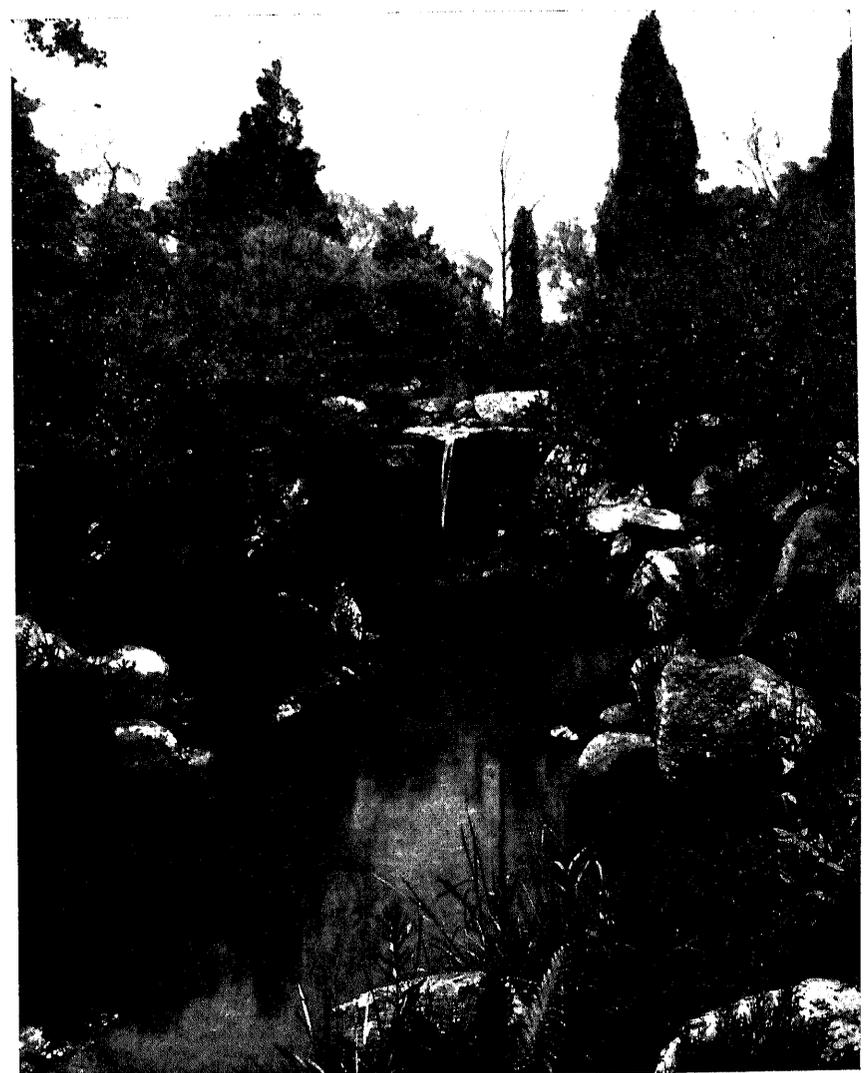
植民當時には、その故國たるイギリス、フランス、オランダ、スペイン等の生活様式をそのまま採用し、庭園もその初頭には、僅に本國から將來せられた園藝種子や、苗木等が珍重せられ、同時に新大陸原産の果樹も利用せられて植民建築を繞る實用的な果樹園を埋めてゐたわけである。かゝる庭園も間もなく花卉の類を混へて次第に觀賞本位となつて行つた。獨立戰爭の頃には、バージニアやマリランド邊に、イギリス本國を偲ばせる様な莊園が營まる、に至り、ニューイングランドには立派な庭園が起つてゐた。一七二八年に設けられ今日尙有名なものに、ワシントンのマウント・バーノンの庭園

から逸することの出来ない人物エリオット(E. H. Elliot)がある。彼は殊に廣大な風景改良計劃(landscape improvement)がある。彼は殊に廣大な風景改良計劃

さて、アメリカの風景式庭園に藝術的色彩を賦與した造園家にウォー(F. A. Waugh)がある

尚彼は音楽の理論を造園上に應用して庭園の創作觀賞に就いて時間の経過に伴ふ變化に注意を拂つてゐることは注目に値する。ウォーによつて代表される、アメリカの新風景式庭園の前途はドイツのそれと比較して大いに興味ある問題である。

第二十圖



メアリカ風景式庭園

岩層の上に流るる水は、その美を匠の手にて、自然の法に則して配する。これらが見がらるる。

第三章 東洋の庭園

第一節 インドの庭園

に妙を得、尙又都市計畫に關聯した造園家として最初の人である。

彼は風景式庭園に於ける主觀的側面を尊重し、その見地から我日本庭園を讚美してゐる。

晴らしい發達を遂げ、華麗壯大を誇る印度回教式とでも云ふべき庭園が隨所に營まれた。

ムガル式庭園は、熱帯地方の常として、水と綠蔭とは缺くべからざる材料であつた。この外果樹や花卉も盛に用ひられてゐた。そして、この國には特有の因襲があり、又回教思想の影響により、地割その他材料の配列や灌の數等に關して、象徴的な取扱ひをなし、例へば「樹木の結婚」といふやうな奇怪な象徴があつた。

重要な建築は多く露壇の裾又は頂上に位置を占め、水は出来るかぎり利用されて、或は溜りとなり、流れとなつて、上段より流れ落ち、流れの間は、無數の噴水を並べて活氣と涼味を添へ、バラやユリやゼラニウムやコスモス等がその兩

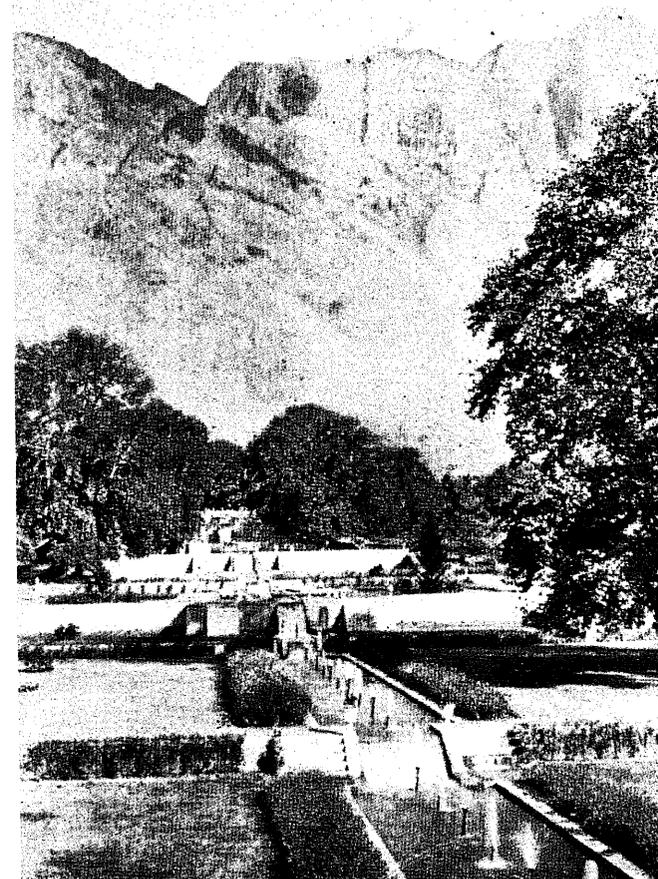
そして周囲の樹林と雄大なる山岳とがこれ等の庭園の背景として美しい對比を見せてゐる。これ等の庭園の内ではニシアト・パー(Nisaiat Park) (第二十三圖参照) は今日尙舊態を止めて、その壯大を誇つてゐる。

元來ムガル人は、風景の愛好者であつて、水を有する丘陵附近を選んで理想的庭園を營んだ。そして「心地よく住む」といふことが、庭園計畫上の標語であつて、庭と家とは一體として設計され、周囲は塙壁を以て繞らし、私秘、獨占、安靜、莊重の感を強めた。

帝王や貴族等になると、廣大なる庭園を有し、朝は沸々と湧出する噴泉の涼しい大廣間の庭に、午後は、綠蔭深い樹林の下に、夕は白花薫る月下の庭にといふ風に轉々として、移り住んだ。

ムガル國では、信仰上王侯貴族は何れも、庭園に設けた、各自のための娛樂休養所を、死後は其儘己が墓地として残す習慣があつた。従つてこの種のもは國內到處に出現し、今日猶その廢墟を止めて、當時を偲ぶことが出来る。この國の庭園は、カシムル地方の如く山地では、地形に隨つて、種々異つたものとなつたが、それでも自ら共通點は認められた。かゝる傾斜地に於けるものは、幾つもの露壇を重ね、

第二十三圖



ニシアトの庭園

湖山に二十のステラスが水の上より流るる。水は上より流るる。花の草を潤はしめ、水は下り流るる。

側面に亂れ咲き、四季を通じて艶麗を競つてゐる。その地割は大膽な軸線によつて左右均齊に保たれ、露壇や流れ等は總て大理石と砂岩とを以て壯麗に裝はれ、建築的に取扱はれてゐる。

又アグラやデルヒ等の平原地方では、地形の變化が少いので、地割も大體似た様なものである。即ち矩形の敷地や周圍に高い塙壁を設け、その四隅に塔を建て、その四邊の中央には通常大

門を穿つた。主要建築は普通觀樂舎で、庭園の中心に建ち、周囲には溝を繞らした。中心建築からは十字形に四つの泉水が射出して、大門や亭などに達する。かくして庭園は四つに分たれ、各區廓は更に形式的に區分せられた固い、單純な地刺となつてゐる。然し夫等の廓廓には大規模に花卉を植ふたり果樹や綠蔭樹を植ふ出したり、或は周圍の壁に不行して並木を植ふなどしてそこを飾つてゐた。そして長い溝や、泉に添ふ道の兩側には不行して長い花壇を造り、その泉水の邊には無數の小噴水を設けた。その水は池の中に向つて飛沫を散らし水は華麗な彫刻を施された縁石を越え、やがて園内の灌漑水となつた。池は一般に淺いので、これに深みの觀を與へるために、床を青瓦で鋪いたり、又變化を造るために、美しい釉瓦で鋪くこともあつた。

アケラに現在するタヂ・マハルは西曆十七世紀にシヤエハン王がその愛妃のために造つた靈廟であつて、庭は中央に十字形の溝渠を有する前述のやうな簡單な地刺であるが、之等を理め、樹林は鬱蒼と生ひ茂り、白く輝く大理石の靈廟と相俟つて幽閑壯麗を極めてゐる。

第二節 支那の庭園

支那の庭園は二千年以上の久しい歴史を有し

し、宮殿庭園等の大工事を起し、天下の名石を集めて山を築き、各々方十里に及ぶ五湖を穿ち、島を築き、亭殿を設け、更に北海を穿つて蓬萊、瀛洲、方丈の三神山を築き、こゝには庭園建築を設け廻廊を繞らし、又園内には種々の植物を集めて四季の變化を興へ、冬は造花を以て時ならぬ花を咲かせたことなど傳へられてゐる。

唐時代(六一八—九〇五)に至り、支那文化は最高潮に達し、文學美術は一時に起り、殊に山水畫の發達は目覚ましいものがあつた。随つて造園界の發達はその極致に達し藝術的にも完成したものと見える。長安の都城の經營された頃には、立派な都市計畫も行はれてゐた事は唐制模倣による我が奈良の京を見ても分る。

當時の宮苑は東内苑、西内苑、禁苑の三苑に分れ、東内苑に大明宮があり、こゝに魚藻池を穿つて水をひき大明宮の中に貫いてゐた。又龍首池と稱する池もその附近に設けられてゐた。

この外長安の外には名苑多く現はれ、その内最も著名なのは、輞川に於ける畫家王維の別荘である。彼は自然の地形に據り一廓一境山水畫風の庭園を造り、此處に自然を樂んだ。

唐の衰亡後世は亂れ五十三年間に國を替へること實に五代。この戰亂時代を経たばかりの宋(九六〇—一二七九)の初頭では容易に庭園を樂しむやうなことはなかつた。

東洋造園界の先驅者たるのみならず、歴代の巨室は移人、壯麗なる苑圃を營み、世界造園史上一大偉觀を呈してゐた。これ等の庭園は王室の興亡甚しき内にあつて、よく一貫した發達を遂げ、頗る因襲的な特色を有つてゐた。然るに支那は四百三十萬方哩に亘る大國であつて、南は亞熱帯より北は溫帯に跨り、南北での氣候や地質の相違が著しく、加ふるに、王室の興亡と、文化の中心移動が甚だしいので、ためにこの國の造園は時代や地方により各々異なる特色をもつに至つた。

支那文化の中心は、多く黄河及揚子江の流域と南海沿岸の地であつて、殊に南方揚子江流域の地は自然的條件に恵まれ、造園史上多くの傑作を出してゐる。

元來支那人には古くから自然を愛する哲學者や詩人が多く出で、自然崇拜の思想を鼓吹し、繪畫に於ても山水畫が既に六朝時代から行はれたほどである。かうした環境の中に育まれた造園が風景式の發達を遂げるに至つた事は當然のことであるといはねばならぬ。

さて支那文化の發源地は黄河の上流地方であつて、文献によると、周時代既に王室の園圃盛に營まれ、文王の靈囿は特に名高く、これは狩獵本位の實用と享樂を兼ねたものであつて、後世イギリスの Park 林苑に匹敵するやうである。又この頃老子が現はれて、その思想は後世

の造庭界にも影響を及ぼし、風景式庭園の發達を促すに與つたのは記憶すべきである。

降つて漢時代(西紀前二一六—後二二〇)には既に立派な藝術的風景式庭園を發達せしめてゐた。當時の庭園は築山林泉式で、池中に島を築いて、蓬萊、方丈、瀛洲等海中の神山に象り、又金石を刻んで龍や仙人の噴水を設けて庭園の裝飾とし、園内所々に亭觀臺榭を築造し、各地方より珍奇な動物植物數千種を獻上せしめ、天子は春秋毎に此所に獵を樂しんだと傳へられてゐる。又池中には龍頭鑿首の船を浮べて宴遊したり、時には樓船を浮べて水戰を學ばしめたと云はれてゐるから、之等庭園の規模が如何に雄大であつたかを想像することが出来る。しかし終には裸遊を建て等して奢侈、淫逸なる庭園生活に耽る様になり、漢室が勢力を失ふに至つた一面を語つてゐる。

次に六朝時代(二二〇—五八九)に入ると建康(南京)の地に名苑が續出した。之等は何れも築山林泉風のもので、人工的な山や洞窟や池や島等を造つてゐる。池の形には自然風の外に直線式のものや方形のものもあり、岩組等も岩石積の外、切石積のものも現れ多少建築的な部分をも持つてゐる様に思はれる。當時は既に我が國との交通も開けてゐたらしく飛鳥時代にはかうした支那式庭園が紹介されてゐた。

第二十四圖



西湖三潭印月

古來文人墨客賞鑑其佳處、殊不勝枚舉、其景之妙、非筆墨所能形容、故其名曰三潭印月、蓋以三潭之影、印於月、故曰三潭印月也。

徽宗は畫才に秀でて、同時に庭園の數寄者であつた。この時代の庭園には虹を築いて、その影を池に映して、月の影を映して、三潭印月の景を造つた。今、その遺跡を灰滅し去つた。日向はその遺跡を殘して、哀れである。この時代の庭園には虹を築いて、その影を池に映して、月の影を映して、三潭印月の景を造つた。今、その遺跡を灰滅し去つた。日向はその遺跡を殘して、哀れである。

橋と稱する大鼓橋が用ひられてゐた。この虹橋は後世庭園の局部として缺くべからざるものであつて、我が廣島の泉庭及び小石川後樂園にも見られる。

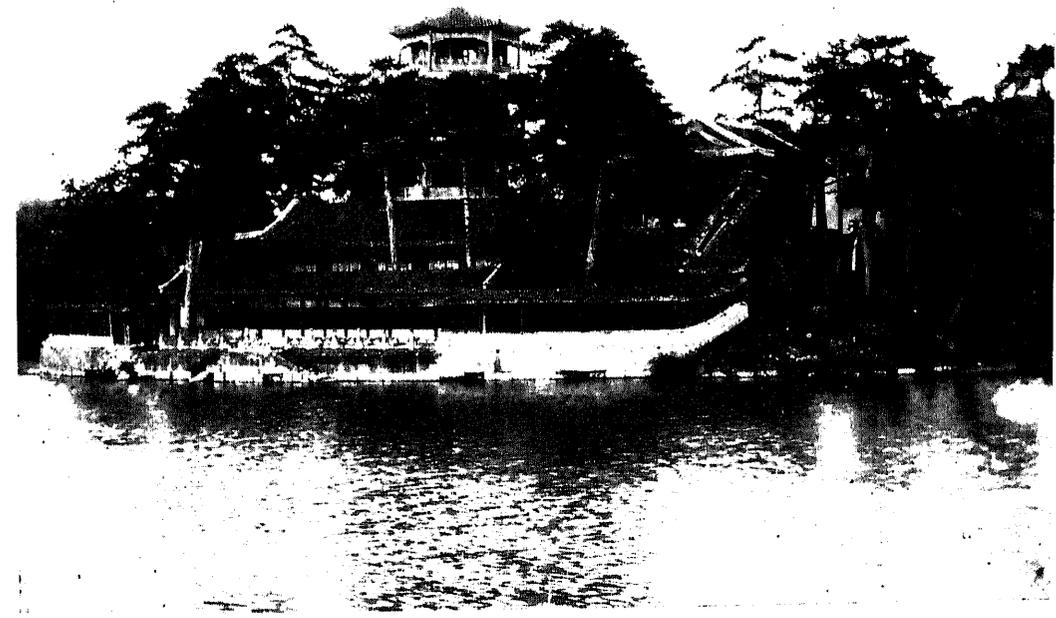
宋の末期には都は杭州に移され、ために西湖を中心として、南方支那の特色を有する水に望む庭園(第二十四圖参照)が発達し、この時代から次第に南方揚子江附近の都市に名園が興ることとなつた。殊に紹興、杭州には多くの傑作を残してゐる。

南宋から元(一二七九—一三七〇)にかけては庭園は北方に盛であつたが、一方南方も蘇州を中心として引續き盛大であつて、蘇州には獅子林と云はれる元時代の庭園が現存してゐる。明の朝廷は始め南京に都し、六朝當時の宮殿を修復して大規模な帝都を營んだが、長髮賊の亂で崩壊され、都は北京に遷る事となつた。

北京の都市計畫は南京のそれと同じく唐のもの大差はない。

北京の皇城は、その規模の點からいつても、今日世界に残つてゐる帝王の宮殿として最大を誇り得るものである。隨つてその宮苑も亦雄大なものであるが、殊に驚くべきは城外の離宮の庭園である。禁苑としては北海、中海、南海があつて、今日もその面影を残してゐる。離宮としては、西直門外の萬壽山、玉泉山、今は廢墟となつた圓明園や滿洲境に偏在する熱河離宮

第二十五圖



熱河離宮 園庭式支那にちるるをてし時對と園庭自然的自り切ひ思にち直が築造大的工人に端臨

(第二十五圖参照)等皆支那造園界の全盛期たる唐時代を思ふに足る明清時代(一三七〇—一八〇〇)の大苑園である。又此當時は陝西地方にも名園が少なくない。殊に浙江方面には有名庭園集りな庭園集り金華府、臺州府、紹興府等は其の中心であつて、寧波、杭州、温州等何れも舊時代から引き續き名園

を出してゐる。

北京を中心とする清時代の庭園は全く平坦地に發達したために、地形を利用する事も出来ず、加之その環境は風致に乏しいので、前述の禁苑を始め、悉く南方風景又は庭園を模寫したものである。

之等北京の庭園中最も著名なものは萬壽山であつて、之は正に南宋の舊都杭州城外の西湖の風光を寫したものだといはれ、苑内に於ける周圍二里に近い昆明池は、現實の西湖と其の大きさを競ふ程の大湖であるが、それが全然人工的な池であつて、そこを掘り上げた土を盛つて築かれたのが萬壽山である。こんな大規模の造園土木工事は世界造園史上他に比すべきものはないであらう。萬壽山には佛香殿を始めとして、各國の寺院、堂塔、樓臺等無數の莊麗な大建築を配し、山麓には五彩陸離として人目を眩惑させる許りの宮殿臺閣を連ねた。そして湖水の半ばを繞つて大理石の石欄が連つた。水中には大小の島嶼、長大なる堤塘、大穹窿橋、さては大理石の樓船が浮んで壯觀を呈した。この宮苑こそは實に東洋第一の庭園で、ベルサイユに匹敵する偉觀である。

此園又蒙古境の熱河といふ僻地に離宮が設けられてゐる。之は特に、北方の蕃人に對し中華の文明を誇りその盛大なる武力を示さんがために政略的に造られたものと云はれ、その規模は頗る雄大で天然と人工とが實にうまく取合されてゐる。(第二十五圖参照)

要するに、支那式庭園の特徴は、極端に人工的な大建築が、直ちに思ひ切つて自然的な庭園と對峙してゐることである。同様な特色は局部に於ても見られる所であつて、幾何學的な圖案模様の鋪床の傍らに洞窟を偲ばせるやうな自然の岩が衝立つてゐたり、華かな裝飾を有する墻塼に續いて突如として疊石が連るといふ風である。又その地割は一廓一境、轉々その景を更め遂にその道を失はしめるまでに錯雜してゐる。されば支那式造園上の標語は變化と對比とにあるらしい。

第三節 朝鮮の庭園

朝鮮は支那文化の影響を多分に受けながら、特有な庭園を發達せしめた。此の國の地勢は支那に比較して山岳的であつて、多くの都市は附近に山を有するのが普通である。尙この國では庭園は重に中央以北に發達してゐるために、氣候は温帯に屬し、樹木も落葉闊葉樹を主としてゐる。一方花崗岩の産出が多く、建築並に造園に對して有用な石材を供給してゐる。

次に一般國民は、素朴淡泊といふより、寧ろ單調無趣味であるが、貴族は支那の風を倣ひ、その庭園をも學んだ。猶又此國は支那と同様王室の興亡甚しきために、帝都は屢々遷され、平和な造園生活を營むことの少なかつた事が察せられる。

朝鮮庭園の特徴は歴史的には支那造園を移入して朝鮮化してゐる事である。その様式には支那式の自然式のもの、一面中庭式の建築的なものと二通りある。自然式といつても、我國のものに比べると甚しく建築的であつて、切石で瀆口を造つたり、河岸や、池邊や島等も切石で疊んだりしてゐる。其他露壇や盆栽の臺等建築的に取扱はれたものが多い。又植物材料には常緑樹は乏しく花卉本位であつて、その取扱ひは園藝的である。

然し全體の庭園意匠からいふと、自然の山水を造る場合には、支那式の様信仰傳説を考へたものが多く、海中神山を築くが如きは一例である。上代に於ける朝鮮所謂三國時代(西紀六六〇以前)の庭園は漢、六朝の影響を蒙り、この時代既に中島式庭園が行はれてゐた。百濟の蓋鹵王は壯麗なる宮苑を設け、又武王は宮室の後方に池を穿ち、遠方より水を導き、島を築いて、これを方丈、仙山に擬し、池の四邊に楊柳を植ゑてゐた。



圖 祕 の 宮 德 昌

るみてせ見を比對し強がと式然自と式築建、わらけ設が亭に畔池、き築を島の形圓、ち穿を池の形矩の積石切てしと景背を林樹るた蓋野

我が飛鳥時代の庭園は恐らくこの百濟のものが選されたといふのが至當であらう。

新羅時代(六六〇—九一〇)は唐と交通して、その世界的文化を移入し、あらゆる藝術は隆盛を誇り、就中佛寺建築は最も盛大を極めた。之等佛寺には石燈籠の非常に立派なものが現存してゐる。

この時代の庭園に就いては資料に乏しく、文献による充分なる調査は困難であるが、時代の大勢より察して、朝鮮造園史上特筆せらるべき時代であつたに相違ない。

當時の庭園では文武王の宮苑がある。築山林泉式の雁鴨池や、流觴曲水の宴を行つた、鮑石亭の庭園等が有名である。

高麗時代(九一三—一三九二)に入ると宋元の影響を受け、地相方位の事がやかましくなり、住宅や宮殿の地割を支配した。當時の庭園は依然築山林泉式のものであつたが、この頃特に景勝地を見立て、別荘風の建築や庭園を營むことが盛んであつたやうである。

朝鮮時代(一三九三—一九一〇)に入ると支那其他より盛に傳され、排他的となり、從つて外國文化の影響を蒙ること比較的少く、却つて各方面に朝鮮固有の文化を發展せしめるやうになつた。庭園に於てもや、特色のある様式を出してゐる。夫等は宮中庭式のもの、建物から全然離れた後園風のもの、都市を離れた別荘風のもの、三種に區別することが出来る。

先づ王宮の庭園を見るならば、その建物は一直線の軸上に整然と建ち並び、各建物の中間に中庭が設けられてゐる。之等の中で景福宮交泰殿の中庭は、その代表的なもので、御殿より數段の露壇を重ねて後方の墻廓に達し、壇上にはこの國特有のオンドルの煙突を始めとして、柱石、ボタン、ツツジ等の類を配列してゐる。樹木の如きも一本づつ、園藝的に取扱はれて、鉢植が多く利用せられ、季節に應じて花を樂しむ様にしてゐる。

後園は中庭と大差はないが、少しく廣くなる。必ず池を設けてゐる。池は多く方形であつて、その四岸に柳、松、カハデ、ソデ、ケヤキ等の類を植ゑ出してゐる。時には水に臨んで水

亭を設け、その地形が山を負ふやうな場合には、瀧や流れを造つてゐる。池中には大小に應じて一つ乃至三つの島を浮べ、之等は多くの場合切石を以て積まれてゐる。池の岸が自然風に造られる場合は、島も亦不規則に取扱はれ、屢々同一の池で建築式と自然式とが對立して強い對比を見せてゐるものもある。この種の後園の代表的なものは昌德宮の祕園(第二十六圖参照)である。

次に別荘の庭園は多くの場合山を負ひ、岩山を穿つて池を造り、水をひいて瀧としてゐる。この自然の地形や材料を其儘庭に利用した處に、別荘庭園の特色がある。然し苟も人工を加へる場合には流れても池の岸でも瀧口でも大抵切石積とし、人工の跡を明かに表して少しも偽らぬ處に一種の面白味がある。

第四章 日本の庭園

第一節 概説

我が日本の庭園は佛教傳來と共に支那、朝鮮の感化を受けて風景式で始つて以來、國運の隆盛につれ極めて順調に平和に發達した。そして千有餘年を経過するうちに、支那庭園の長所を

汲收し盡して、頗る主觀的な藝術味の豊かな風景式庭園を完成するに至つた。その間世界に誇り得る多くの傑作を残した事は實に我が造園界の大きな名譽である。我が國土は世界の樂園と謳はれるほどの風景國であり、地勢は變化に富み、美しい自然の丘や流を有し、氣候は温暖で植物の繁生に適し、岩石は極めて得易く、しかも豊富である。かゝる環境に養はれた國民が、擧つて自然の耽美者であり、隨つて庭園が風景式に於て傑出したことは決して偶然ではない。

日本の庭園は佛教傳來以前既に多少支那朝鮮の感化を受けてゐたやうであるが、未だ原始的實用園の域を脱してゐなかつたらしい。飛鳥時代から奈良時代にかけては、六朝並に唐の盛大なる文化の移入に伴ひ、顯著な發達を遂げ、平安時代に入つて全く日本式に同化して終つたが、更に鎌倉から室町時代に及んで、再び宋及び元の感化を蒙つて、獨特の境地を拓き、桃山江戸時代でまた完全に同化した。その間江戸で又多少明清の影響を蒙り、明治となり更めて歐米の影響をもうけ容れて、今日は綜合的世界的な新様式を完成しつゝ、あるといふ有様である。

是の如く外國の感化を蒙る事屢々であつたが、常によく夫を日本化し着實な進歩を見せながら、一貫して風景式庭園を發達せしめ、遂には一見因襲的な型式を生むに至つたのも、否み難い事實である。

日本庭園では地積の廣狭は、何等の意義を有しない。否小さい境に大きな自然を描き出すの特色として、山や瀧や池を造るにも盛に省筆法や脱骨法に似た手法を應用して、切りに象徴的乃至は印象的な風景を作り出した。石を立てて瀧を象り、水のない溪流で活水を見せるなどの事をも敢てする。又古くから天ノ橋立や、近江八景等を寫したり、或は東海道五十三次の名所を連ねて繪巻物のやうな布局を表し益々縮景的な特長を發揮してゐる。

かうした庭園は支那のそれの様に、華美、艶麗、雄大といふやうな所は更になく、閑雅、清楚、輕妙、幽遠であつて、よく自然の風韻を捉へてゐる。これは全く國民性の反映した結果であるが、一方には庭園の環境となり或はその粉本となつた日本の自然風景の幽邃なる特質によるのである。風景の主體をなす常綠樹と岩石とは、日本人の趣味に投じ、繪畫や、禪茶や茶道の影響により、一層庭園に寂閑の氣分を愛するやうになつた。然し我國民は古くよりハギ、ヤマブキ、ウツギ、ス、キ、ナデシコ、オミナヘシ、キク等の纖弱な灌木や草花を愛用して、清楚な野筋の景を庭中に現はすこともあつた。要するに日本庭園の特色は多種多様な自然材料を縱横に使つて、水墨畫のやうな簡素輕妙な表現をなし、よく主觀的に統一してゐる所にある。隨つてこれ等の庭園は山を築き池を穿ち石

を配するにも繪畫的な型を生じ、長い年月の間に徳川時代に見るやうな眞行草の型式などを生むに至つた。

そしてその局部例へば岩組や、瀧や、石燈籠や水鉢等の構成については一見して意味もなく實用もない形式一片のものが多くなり、既に飛石や石燈籠や水鉢を置くといふことそのものが、形式的な場合が多いのである。かうして日本の庭園では實用はあまり會はれなかつたが、建築の裝飾としては可成り重んじられて来た。上述の如く、日本庭園が形式的裝飾的であるといふことは、決して藝術的に墮落して来たためだといへない。只管美しい形を造らうとして形式的裝飾的となつたのであつて、却つて何等實用を有しない所に、純な藝術の姿が潜んでゐるとも考へられる。

要するに日本庭園の形式は外面的な寫實を避け、實在の奥に透入して自己の主觀に基く美しい型を創造しやうとしての必然の所産であつて、この因襲的、類型的に見られる庭園には長い年月の間に訓練され洗練されて来た優秀な藝術の潜んでゐることを見逃してはならぬ。以下日本庭園の沿革を辿りながら時代的特徴を述べることゝしよう。

の家持の庭などにも見えてゐる。桓武天皇の御宇都は京都に奠され、新に唐制に倣ひ、平城京より更に大規模な平安京が完成された。平安の地は秀麗なる山丘之に迫り、然も清澄なる河川が之を貫流し、岩石樹木は豊富であつて、ために日本庭園は急速なる發達を遂げた。

裏にも述べた通り、前時代末期より追々日本化しつゝ、あつた文化は平安時代に入り、ほどなく遣唐使の廢止により支那との交通疎となつてからは、支那文化の影響を受くることなく、獨自の發達を遂げることとなつた。一方國內安泰にして、貴族は榮華の生活を誇り、堂々たる邸宅、山莊を營み、宴遊に耽り、庭園生活は自ら促されて来た。

かうした豪華な生活に伴つて住宅は優美な寢殿造と稱する一様式を大成するに至り、隨つて庭園も之に應じて一種の庭園様式を創めるに至つた。その建築は先づ門を入ると、車宿があり、更に中門より庭に出で、寢殿に昇る。寢殿は南面してその東、西又は北に對屋を設け、各渡殿を以て連絡してゐる。主な庭園は寢殿の南方に設けられ、寢殿に接して廣場があり、更にその南に池を穿ち中島を築き、島より北へは反橋を、南へは平橋を架し、池の南に假山を設け、瀧を落し、池の兩端には釣殿及び泉殿と稱する庭園建築が池に臨み、渡殿によつて對屋と連つ

第二節 飛鳥奈良平安時代

飛鳥時代以前、即ち佛教傳來以前既に朝鮮支那との交通があつて早くよりその文化を移入し、庭園に於ても漢土の庭木の移入や、宮苑の紹介もあつたやうである。けれども當時の庭園は家の周圍に柴垣、木柵、石垣、生垣を繞らし、内に果樹、藥草、蔬菜等を栽培し、籬を築ひ、或は池を穿つて鯉を放ちなどした原始的形式のもので、頗る實用的であり、材料の部分的觀費に重きを置いてゐたやうである。宮苑としては狩獵動物を圍つた林苑などもあつたやうに想はれる。

然るに飛鳥時代に入ると、佛教の傳來によつて世相は一變し、三韓を通じて六朝の文化は續續輸入せられ、各方面の工人相次いで渡來し、法隆寺始め幾多の大伽藍も建立せられ、皇居も支那の制によつて、古代の風を一變し漸次大規模となり、貴族も邸宅に棟閣などを構へるやうになつた。

當時最も進歩的な思想を有し、而も權勢隆々たる蘇我馬子は、飛鳥川の傍(今日の鳥羽の地)に住ひ、庭中に小池を穿ち、中島を築き、當時島の大匠として知られてゐたといふことである。これは百濟より傳へられた、支那六朝式の

てゐる。園内には松や柳や櫻等の優雅な樹種が盛んに用ひられてゐた。又寢殿、對屋等の間には造水として細流を設け、所々に岩組をなし、秋草等植を添へて到る所優美な風致を添へてゐる。前代末より起つた菊、撫子、萩、女郎花等を栽植した前栽は、平安朝時代に入つて益々盛んとなり、宮中は云ふに及ばず、一般住宅にもこの種の前栽が廣く行はれてゐたやうである。

要するに當時の貴族は住宅、庭園共に大いに贅寄を凝らし、花鳥風月を樂しみ、詩歌を詠じ、管絃を弄び、池に龍頭噴首の舟を浮べて、四季大いに宴遊に耽つてゐた。

宮中では内裡の中には大した庭園は見られなかつたが、離宮としては神泉苑を始め冷然院、嵯峨院、雲林院、亭子院、粟田院、朱雀院等が次ぎ／＼に出來た。續いて時代末には鳥羽離宮、白河離宮の二大苑が築造せられた。地積や地形に應じて多少意匠は違つても、大池を穿ち島を築き瀧を落し、殿閣、亭榭を建て連ねたもので、略一定の型を有つた前述の如きものであつたやうである。

貴族のうちでは藤原良房の庭園を始め源融の山莊樓霞觀や、奥州鹽釜の浦を模したといふ六條河原院の庭、大中臣輔親の天橋立を倣ねたものや、驕奢を極めた藤原道長の京極殿やその子頼通の寢殿の四方に夫々池を中心とする庭園を繞らした破格な高陽院等最も有名なものであつた。

海中仙山を擬するといつた風の一種の象徴的な築山林泉式庭園であつたらしく、これによつて推古天皇の時代既に今日我々がいふやうな日本式庭園の原始型が行はれてゐた事が明である。

次に白鳳時代に入ると、天武天皇の皇子日並知皇子は馬子の邸に隣つて住はれた。これは橘ノ島宮(此頃島とは庭の意である)といはれ、寢殿に向つて庭を設け、池を穿ち、島を築き、瀧を落し、汀を荒磯風に造り、躑躅を植ゑられたといふから、これも亦支那風のものであつたに相違ない。

又天武天皇の淨見原宮や持統天皇の藤原宮などの御苑には築山池沼を設け、支那趣味の庭木などを植ゑ出されてゐた。

時代が移つて天平時代になると、都は伸び伸びとした奈良の地に遷され、専ら唐制に依る大規模な平城京が現はれて宮苑としても南苑の外に松林苑、西池宮、中島宮等があつて支那風の襲奪その他の催しが頻繁に行はれた。

又貴族のうちには佐保山その他に第宅を構へ唐土の風を習つて庭園を造つた。左大臣長屋王、藤原不比等、橘諸兄、大伴旅人、中臣清麿等の庭園が知られてゐる。

然るに時代末になると、上述の如き支那風の庭園の外に萩、山吹、撫子、菊等のやさしい野邊の草花を賞愛するため、至て日本趣味の前栽が現はれるやうになつた。この種の前栽は大伴

當時貴族の邸宅は方一町即ち今日の四千坪餘で庭園はその半ばを掩うてゐた。方八町を占める神泉苑にしても、やつと三萬坪餘であつたから、江戸の大庭園に比べると、規模に於てはとも比較にならぬものであつた。

又此時代から庭園の地割や石組や造水に陰陽説、祥瑞説が始まり、佛説などが盛に附會せられることゝなつた。そして、やがてこれが後世庭の型式を産む因となつた。以上は謂はゞ日本庭園史上の上代で、古典的な庭園時代ともいへる。これから中世に入つて、自ら別個の庭園型を出すことになる。

第三節 鎌倉室町時代

鎌倉時代に入つて、政治の中心は鎌倉に移つたけれども、文化の中心は依然として京都にあつて、庭園はやはり寢殿造り式であつた。又一般に陰陽説や祥瑞説や佛説や其他の迷信が益々盛んとなり、造園上にもなか／＼勢力を有つやうになり、故實や傳授がやかましくなつて行つた。

當時宮苑として水無瀬、伏見等の有名な庭園があつた。京都の公家は實力を失つて僅かに鎌倉幕府に接近してゐた藤原公經の北山の山莊が傑出してゐるばかりであつた。一方鎌倉に於ては、將軍は萬事に京都式を採用して、庭園にも

寢殿造りの庭園に、馬場、的山など武士生活に必要な設備を加へ、又その一隅に果樹園、蔬菜園などを構へることを忘れなかつた。然るに一方時代文化の支持者で、上下の信仰を集めた禪宗寺院は、その境内や方丈に面して立派な庭園をもつやうになつた。

この時に當つて藤原定家、鴨長明及び吉田兼好等在來の庭園の形式を排斥して頗る自由な自然主義を主張するやうになつた。この主張はやがて次の時代に入つて茶庭などに影響して大いに氣を吐くことゝなつた。

室町時代は、南北朝の争ひ、應仁亂など戰亂相次ぎ、文化は漸次下火となつたが、義満、義政等の數寄者が出で、北山莊(金閣寺)、東山莊(銀閣寺)などの廣壯な山莊を營み、大いに工藝美術を保護奨励した。

さて前時代より起つた禪宗は室町時代に入り、武家の保護の下に、その流行の絶頂に達し、當時の人心に多大の感化を與へ、その趣味に於ては淡泊、瀟洒、幽玄を尙ぶ風を養ひ、主觀的に自然本位の藝術を生んだ。即ち宋、元、明の枯淡、氣品を尙ぶ水墨山水は禪機と照應して隆盛を極め、雪舟始め如拙、周文、阿彌等の名家を輩出して僧侶、畫家の内には夢窓國師、雪舟、相阿彌等の如く、進んで造庭に與るものも出で、隨つて庭園は水墨畫の題材や技巧等の影響を多分に受け、空前絶後の發達を遂げた。

は義政の持佛堂であるが、別に四疊半の茶席がある。これは茶室の濫觴であつて、書院造りを更に簡單にした極めて瀟洒たる禪味に満ちたものである。

上述の如き將軍家の庭園は貴族趣味の華やかなる生活の反映として、時代の一面を代表するものであるが、更に時代精神の反映として價値あるものは寺院の庭園である。

これ等寺院の庭園中今日尙傳傳さるゝものに、夢窓國師作として甲斐の惠林寺を始め、京都の西芳寺、天龍寺、畫聖雪舟作として山口の妙喜寺、石見の萬福寺などがあり、續いて相阿彌作として龍安寺方丈、大徳寺大仙院等持院、天祐和尚作と稱する大徳寺方丈の庭園等が有名である。西芳寺の庭園は國師の名と共に遠く支那にまで聴えてゐるといふ程に有名である。庭園は北に嵐山を負ひ、南に傾斜し、山麓より南の溪流にかけて設けられ、極めて複雑なる池を中心として、巧に、橋や亭を配置してゐる。この池は心字を象つて九山八海を移し、安養淨土を模して、特に有名である。この心字池は後世多くの庭園に採用せられて最近に及んでゐる。

この庭園はその後度々の水害により、大いに舊態を損ね、現今では指東庵と湘南亭とを存し、僅に池の形が古いものと考へられるのみである。尙ほこの庭園は極めて美しい苔を以て蔽はれてゐるので、苔寺の稱がある。

さて室町初期に於ける武家の庭園もやはり、平安朝式庭園の繼承であつて、義満の三條室町第は、寢殿、對屋、釣殿を設け、園内に鴨川の水を引いて林泉を造り、多種の花を盡し植ゑられたので花の御所として知られてゐた。庭園も全然寢殿造りのものであつて、廣大な池には龍頭鶴首の舟を浮べて盛に宴遊に耽つた。彼等の生活にまだ王朝時代の憧憬が見えてゐる。

然し義満の驕奢な生活とその風流とは、到底前代の貴族生活の模倣では、永く満足される筈はなかつた。加ふるに支那との交通は、その庭園をも紹介したので、新に工を起して、洛北衣笠山麓に北山殿(今日の金閣寺)を營んだ。この庭園は從來の平安朝式のものとは異なり、庭園は全然主建築と分れて獨立し、園の中央に三重の樓閣(金閣)があつて、嚴然として一庭を支配してゐた。この重閣は恐らく宋、元園亭建築の模倣であつて、その意匠は寢殿造や禪風建築の手法を取り入れて極めて優秀なもので、庭園建築中の傑作である。

庭園は鏡湖池を中心として、數多の島嶼を浮べ、中に海中仙山を象徴する龜の形をしたものも少なくない。傾斜地の上には自然の地形に應じて溜や流水が設けられ、庭園は漸次森林と融け合ひ、衣笠山を背景として巧に利用してゐる。この金閣寺の庭は今日我國に残された、最古の大庭園であるが、數度の火災によつて殘された

天龍寺は、夢窓國師を開山とし、庭園は嵐山戸難瀧瀧等を背景として、中に曹源池を造り、一方に小瀧を落し、數個の島を築いてゐる。かなり複雑な形を與へてゐるが、園景は西芳寺とは全く趣を異にしてゐる。この立派な背景は今日では樹木の成長によつて失はれてゐるが、地割はよく室町初期の風を傳へ、岩組も比較的

建築は金閣のみとなり、庭園も荒廢し、又改變を経て、多く原型を留めない。

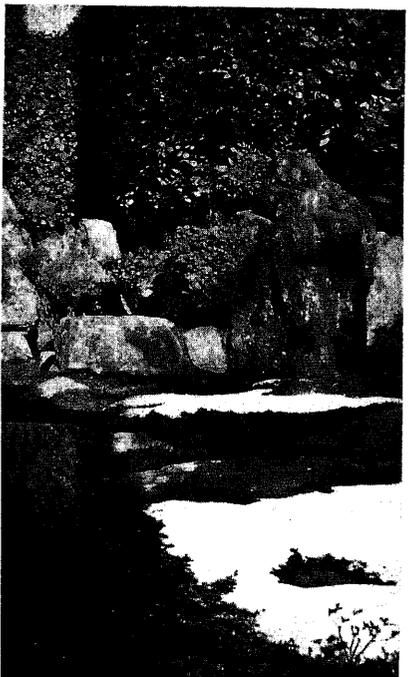
金閣寺と並び稱せらるゝものに銀閣寺がある。これは義政の東山山莊であつて、相阿彌の作と云はれて來たが、實は河原者善阿彌の作だといふ説がある。この庭園は金閣寺と同様四方正面の庭と謂はれてゐるが、後に述べる徳川時代に於ける廻遊式庭園の如く完全なものでなく、やはり東求堂や銀閣等を主なる立點として設計されたものである。

庭は月待山を背景として、その麓に東西に長い鏡池が設けられ、東は東求堂、西は銀閣からの眺めを主とするために、池は二つの部分に分たれ、龍背橋によつて巧に聯絡せられて、この立點を異にする二景は何等の無理もなく統一されてゐる。加ふるに、この庭園を「青山を研り、泉を導き、五歩に一樓、十歩に一閣、絶頂に亭を構へ、山畔に庵を築く」といはれたほどに變化に富み、而もさうした複雑な局部が渾然たる調和を保つてゐた筈であるが、夫等の建築の中で今日残つてゐるものは、東求堂と銀閣のみであつて、橋や龍背橋も今日では平凡なる石橋に架け變へられてゐる。然し地割を始めとして石組其他局部に作者の卓抜なる意匠を窺ふ事が出来る。その内最も有名なのは、向月臺と銀砂灘であつて、この大きな盛砂は觀月のための無上の好意匠たるはいふまでもない。尙東求堂

周圍に練堀を繞らした平庭は簡素の極致であつて、我が岩組法の最も洗練された技巧を雄辯に物語つてゐる。東西十七間南北八間の小庭に造園藝術の秘を盡したる作者の天才的な意匠の力を歎賞しないではゐられない。尙往時は練堀を越えて、南に男山八幡を始め淀川の長流、伏見の城趾、東山の佛閣、東寺の寶塔等の美しい眺望を有してゐるが、今日では老樹繁茂してその展望を妨げてゐるけれども、却つて俗塵をはなれ徹した禪味を味ふことが出来る。この庭は所謂平庭として最も古いもので、寢殿造りの林泉に對して、全然別個の様式を創めたことになつてゐる。なほこの庭で注意すべきことは、背景の利用であつて、ある場合にはその園外の景が庭園布局の大切な要素となつてゐることがある。かうした景をば借景といつて區別する。

大徳寺大仙院の庭は作者年代共不明であるが、相阿彌晩年の作と謂はれてゐる。作者の園

圖 七 十 二 第



庭の院仙大寺徳大
たげ遂を運發的術藝も最てけ受を響影の山水墨と禪てつ語物くな態造を徴特の庭平院禪るけに代時町室

熟した手法、殊にその石組に至つては古今無双と許されてゐる(参照)。方丈の北側より東側にかけて折れ曲り、東側は長さ八間幅二間餘、北側は長さ五間幅二間半程の小庭であつて、その角に大小三箇の巨石を立て、瀧を擬し背後にツバキ、リカキ等を列り込んで山を象り、これより水は南に流れて溪流となるのである。その間に橋あり、島あり、船あり、變化極まりなく、凡てが石によつて象徴され、而も一滴の水もなくして、よく溪流を寫し出した所に、作者の非凡な意匠が見える。この枯山水は最も古い一例であつて、恐らくは作者の創意に係るものである。

かうした枯山水の如きは、いかにも時代の所産として、面白いものであつて、前代の庭園造りの庭或は大平期の象徴的な庭園に比較して、室町時代の庭園観の著しい變化とその藝術的向上の跡を辿ることが出来る。

かくして室町時代の庭園は自然式庭園の正しき方向をとり、その發達の頂點に達し、鑑賞本位の繪畫的作品として最大の藝術的價値を獲得するに至つたものと評せられる。

第四節 桃山時代

上述の如く、室町時代の庭園は座觀的の禪生活により自ら小庭の發達となり、金閣寺や銀閣寺の庭園の如く少しく大面積のものとなる

と、到底小庭園の場合と同等の成功を収めることは不可能であつた。要するに室町時代の廻遊式庭園は未だ過渡期のもので、大庭園の地割布局としては完成されたものではなかつた。これが懸案は桃山から江戸にかけて始めて解決されたのである。

當代に於ける文化の中心勢力は、寺院を離れて武門にあつたので、禪院は見棄てられて、武門の住宅即ち書院造りと結ぶこととなつた。加ふるに茶道は益々民衆的に隆盛を極め、時代に於ける洗練された自然主義ともよく共鳴して、茶庭の發達を促し、庭園建築たる茶室又は茶席と最も密接に結合した。かくして茶庭はよく書院造りや寺院等とも調和したので、上下の別なく流行し、遂に時代を代表する庭園となつた。なほ茶庭は小は數十坪より、大は數萬坪の庭園にも適合し得たので、遂に住宅を離れて、獨立した大庭園ともなるに至るのである。

かくして茶人が作庭をするやうになつてから、庭園材料として木石を主としたものが好まれ、石燈籠や水鉢や飛石其他が新たに重要な役目を努めることとなつて来た。庭木に常緑樹や雜木類が流行するやうになつたことも特筆に價する。

又前代の佛寺に代つて宮殿建築が起り、一方信長、秀吉等の大英傑出で、城廓建築の發展

著るしく、その豪華な好尚は、自ら庭園にも現はれて、西本願寺の虎溪の庭のやうな雄渾なるものを出すに至つた。

秀吉は先づ聚樂第の大工事を起し、その工事は三ヶ年を要してゐる。南北は一條より二條、東面は堀河より内野に達する廣大なるもので、周圍三十歩と稱し、第内に寢殿、亭臺、廊、門牆等輪奐の美を盡した。その建築、林泉の壯麗なことは、今日西本願寺に残る飛雲閣を見れば十分想像することが出来る。この建築は金閣や銀閣より多く暗示を受けてゐるが、更に碎けて、優美輕妙に住宅化され、變化に富み、本邦庭園建築の最たるものである。これに舟着きが設けられてある處から推して池に臨んで建てられたものらしく思はれる。これだけの園亭を有した當時の庭園の規模は想像にあまりあるではないか。かうした雄健豪放を極めた大庭も文祿四年取壊されてその遺構は分散した。聚樂第にも増して大規模な土木は伏見の桃山城である。この庭園に就いても大いに見るべきものがあつたに相違ないが、これも亦元和元年に破壊せられて、唐門、書院から庭園建築、庭石等諸所に分散した。

醍醐三寶院は秀吉自らの設計にかゝるのであるが、完了しないで蕪じた。その遺作を見る

と、明らかに平安朝式の復活であるが、室町の立石も窺はれ、又桃山の華麗もあり、茶味もある。この茶庭に接して、作者不明であるが立派な庭園がある。立石頗る古雅で、桃山以前の作庭らしく思はれる。

要するにその総合的な試みはよく察せられるけれども、まだ完全な統一はこゝには見られない。

この造營に際し「石狩り」を命じて、諸方の名石を蒐め、庭石は極めて豊富であるが、その用法は織巧であつて雄大でない。この庭園には豊公の英雄としての好尚は表はれてゐないで、彼の半面の生活たる茶生活、隱遁生活の反映を見るのみである。けれども聚樂第や桃山城内大書院の庭などはかゝるものではなかつたと想はれる。

豊公に厚遇された茶人千利久の作庭もかなり多く傳へられてゐる。そしてそれ等は極めて小さな庭で、佗を旨としていひ知れぬ味をもつてゐる。

大徳寺聚光院には利久自書の茶室といふのがあり、あの方丈の庭は利久百石(積石)の庭といはれ、樹林を背景として、周圍にカシの生垣を繞らし、庭内二箇所に少しく盛土をなし、山を擬し、その間に石橋を架け、他は一面に白砂を敷いて海を象り中に二島を浮べてゐる。尙山と島とに數本の松と刈込物を配してゐる。その閑寂で自由な所に茶人の好みが窺はれる。

山崎妙喜庵の茶室及び庭園も亦利久の造つたものであつて、瀟洒を極めた茶室と無駄のない庭園は平凡なる内に言ひ得ぬ味がある。軒端の大松は大閣袖指松として聞えてゐる。

圖 八 十 二 第



庭の溪虎寺願本西

るるてし揮散な條道を味趣の代時、くなくこる護もし少てし對に築建大式山桃晴天、放豪健雄

の茶室である。庭内に於ける四方佛の石燈と袈裟形手水鉢の奇抜な意匠は後世の範となつてゐる。

がある。又この庭に接して有名な清蓮亭の茶庭がある。要するにこの庭は茶庭式の小庭である。

時代中特殊なものに本阿彌光悦作の本法師方丈の庭がある。その意匠は築山を圖案化し、三ツ巴に飾り、その他は一面に白砂を敷いた枯山水であつて、時代の裝飾的な平庭の傾向を説明して餘す所がない。蓋し本邦の庭園にして、これ程に大膽に圖案化された例を他に見ない。

第五節 江戸時代

江戸時代の初めは京都を中心とする庭園時代で暫くは桃山時代の繼承であつて、貴族の大庭園や莊麗な桃山式書院住宅の庭園は愈々完成されて來た。殊に貴族の大面積の庭園を茶趣味で仕上げ、繪巻物のやうな廻遊式庭園の大成されたのはこの頃である。これで始めて室町時代からの大庭園の問題が解決されたのである。然し京都の庭園は中頃になると、もはや全く振はなくなり、遂には庭園の型式化が極端に進んで來て、例の眞行草などの型をさへ産むに至つた。これは築山庭造傳の著者北村椽琴と藤島秋里の手によつてこね上げられたもので、實際にはそれほど大きな力をもつたものではなかつた。庭園の型式は既に平安末より鎌倉初期にかけて始まりかけてゐたのは、前に述べた通りである。想ふに江戸の庭園の眞行草は、挿花や書道などの三體にも匹敵するもので、従來の庭造式の庭園は略眞の型にあたり、その頃流行した遠州

あたりの自由な柔かな平庭は草の型であつて、その中間の中庭をえたものを行の型として考案したもの、やうである。強ひて云へば室町を代表する傳阿彌光悦の平庭、例へば大仙院の枯山水などが、行の型にはまるやうに思はれる。それでも考へられる通り、江戸時代では上下一千年有ゆる時代の庭園を復興して、それを綜合的に纏め上げた時代である。なほ江戸時代には流泉や南畫が隆んとなつたやうに、明清の庭園の影響も明らかに認められる。さうした庭園の實例は、これを文化文政頃を全盛として、江戸の地に現はれてゐる。江戸の庭園はその後次第に下り坂となつて、今日に及んだといつてよい。

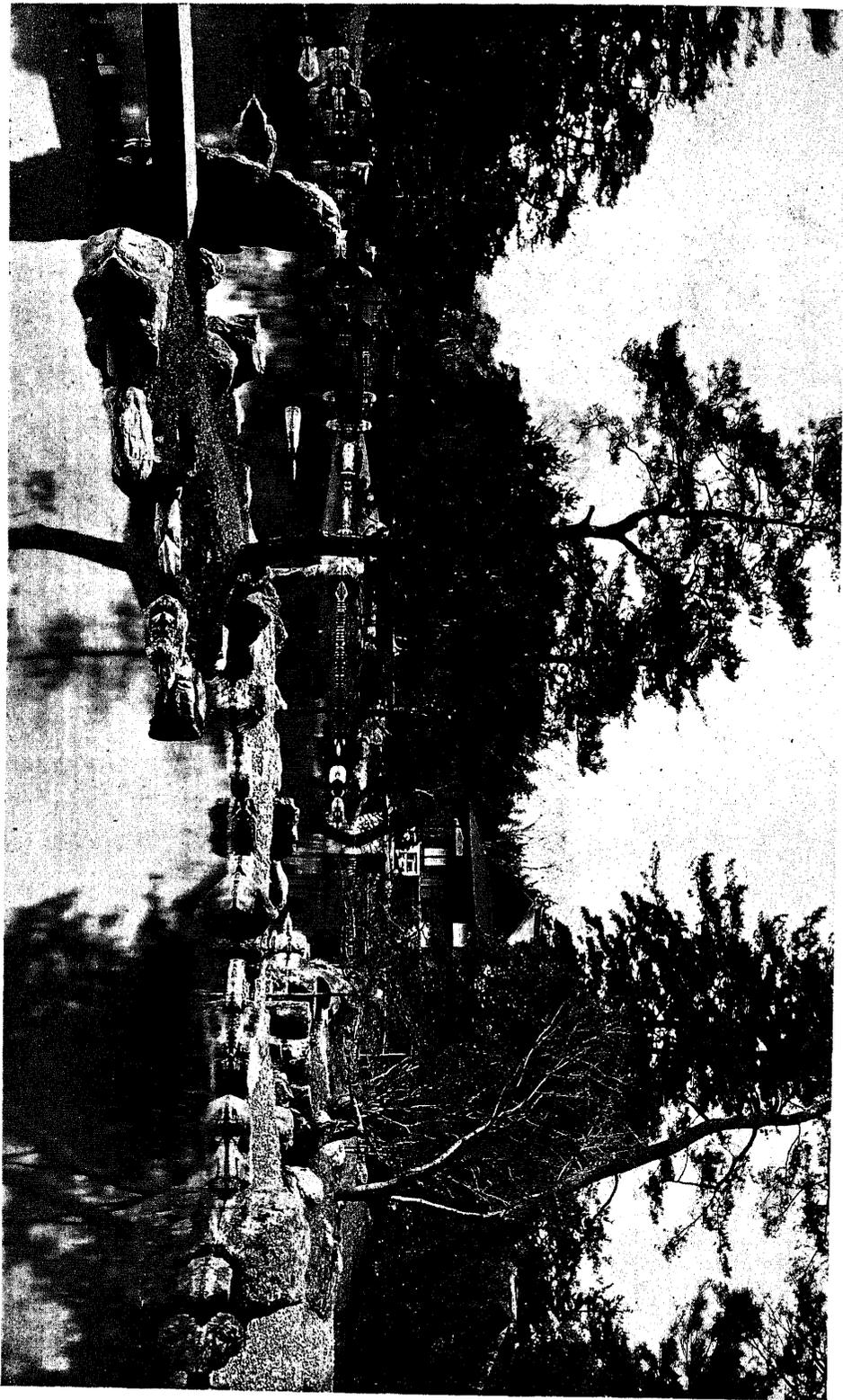
江戸時代は三百年を通じて泰平が続いたので、地方文化も著るしく發展し、地方特有の庭園を誇つてゐた。大名は夫々城廓を有し、附屬の庭園を擁し、又別業を營みこれを範として多くの地方的流派を生ずることになつた。

さて江戸時代初頭に於ける、大庭園の代表作には遠州作と謂はれる桂離宮の庭園がある。(第二十九、三十圖参照)庭園は東は桂川に臨み、北は遠く嵐山、龜山を望んだけれども、夫等の背景をば全然利用することを止めて、周圍に竹林を繞らし、完全な統一を計らうとした。面積は一萬三千坪、内水面は二千餘坪に達し、主要なる宮殿は西部に在

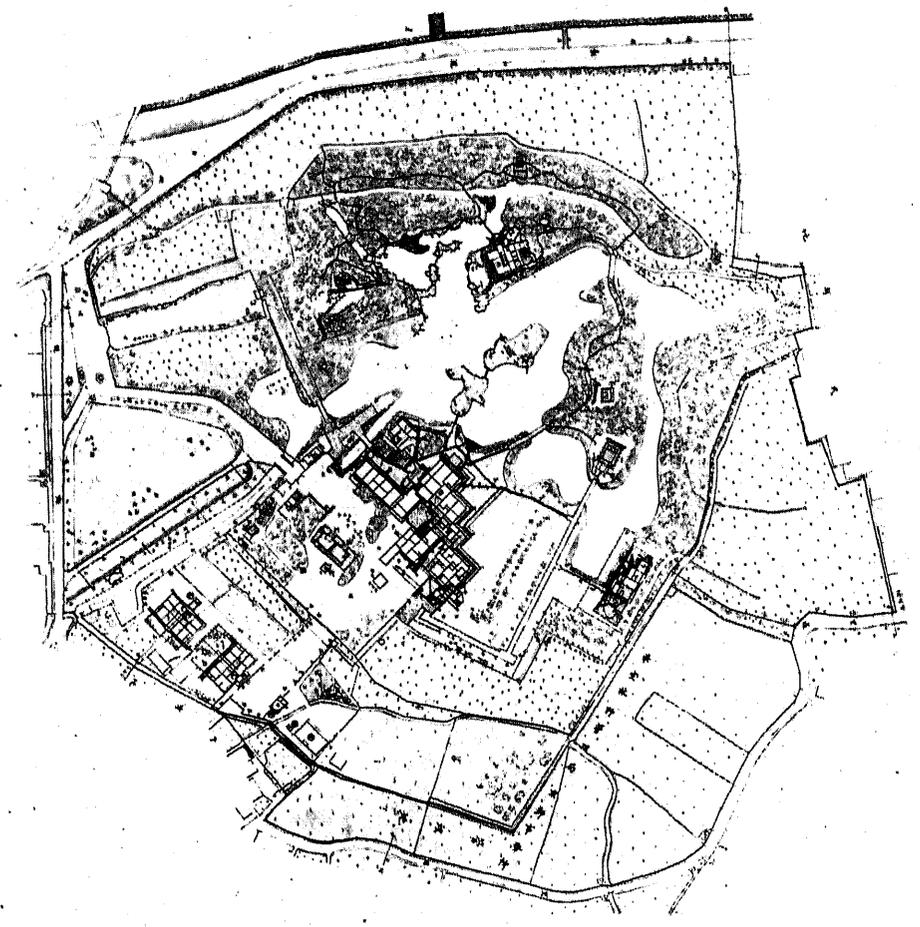
つて東南に林泉を擁した。この庭園は茶庭の貴族化であり、小茶庭の連続である。庭園は主建築より全然獨立して廻遊式の意匠を採つた。

池中には大小六つの島を浮べ、数多の橋を架け、隨所に亭榭を設けてゐる。その主要建築たる母屋と云へども、全園に君臨する程主宰的でなく、園景と調和して少しも目立たない。更に園内には月波樓、松琴亭、笑意軒、賞花亭、御待合等の庭園建築が巧みに配置され、これ等の局部は夫々別天地をなして、附近の樹石、橋梁、石燈籠、飛石、池畔等を、その雰圍氣に包んで調和せしめた。之等の細部の意匠は、一つとして同一のものなく、その縦横自在な作者の意匠力に驚く外はない。植栽に於ても、群團的單純植栽の法をとり、杉山、椎山、女松山、楓山、寒竹林等があり、夫々局部を特化してゐる。又岩組に就いても決して室町時代の傑作に劣る所がない。これを以て本邦造園界の明星といふも敢て贅稱ではあるまい。

かくして桂離宮によつて始めて、建築より獨立した廻遊式大庭園の新型式が大成せられ、従來の懸案は見事に解決された。以後此種の大庭園は略同の意匠によつたものであつて、徳川時代の大庭園は殆んどこの系統に屬するのである。尙遠州の作として知られてゐるものに仙洞御所、一條城、高臺寺、南禪寺方丈、同金地院、妙法院、養源院、曼珠院、孤蓬庵、大徳寺方丈



かじ瀧を圍繞しは美のく多、の岩を製、庭造、遠州、てけ家を神廟の太山園水、茶、庭、だん産を園庭の東園の東園も景有り、別、別世はと世民園と然自、かじ瀧の園が我



桂離宮總圖

この庭園は、仙洞御所の庭園に東山を望み、池を中心として、その周囲に種々配景を配り、一郭一境その意匠を改めて廻遊式な特徴を有つてゐる。二條城は桃山式宮殿の代表的なもので、家が京都に對して幕府の威を張るために更めて造營した

桂離宮は、大徳寺の遺蹟を以て築かれたもので、大徳寺の遺蹟を以て築かれたものである。大徳寺の遺蹟を以て築かれたものである。

もので、その設計は頗る豪放なものである。この庭は桃山式の雄大、壯麗なる大建築に對する庭として、遠州作中唯一のものであり、彼の平庭として最も會心の大作である。これは稍不規則なる池を中心として芝生の丘を繞らし、立石を主とした石庭であつて、その用石の妙亦歎賞に値する。

高台寺方丈東の庭園は、池を鶴龜に象り、中に龜島を築き、開山堂や廻廊を庭園の添景とした所に遠州獨特の技巧が見られるが、あまりに技巧的である。

又同寺山上の茶亭たる傘亭と時雨亭とは元伏見桃山城にあつたもので、その意匠極めて雅趣に富み、桃山時代茶室建築の特色を遺憾なく表はしてゐる。兩茶亭は遠山を望み、建物と周囲の調和は入神のものである。

南禪寺方丈の庭も亦遠州の作といはれてゐるが、眞否は明かでない。この庭は巨石六箇と低い刈込物とで、あつさり使ひ放つた堂々たる平庭である。周囲を大殿堂でかこまれた中庭に於いて、かくも成功した例は他に類がない。

同寺中金池院の庭は、小丘と巨岩の配置によつて心字を象り、左右の丘を鶴と龜の形に擬し、その配石は妙を得てゐるが、あまりに形象に煩はされ、技弄を弄して失敗してゐる。方丈の西に彼の作つた八窓の茶室がある。孤蓬庵は遠州の隠生した所であつてその庭園

は禪院、茶室等の建築を繞つて意匠の縦横自在、傑作中の傑作である。書院の南庭は、瀟湘八景を寫したものといはれ、聚光院の庭に見る如く、平地を湖に象り、石橋を架し、石塔、石燈

庭は、有名なる松花堂好みの編笠門に續いて生垣が設けられたのみである。この一樹一石なき所に妙味があり、ために編笠門が一層引立つて見える。實に彼の非凡な意匠力には噴賞の言葉がない。

第三十一圖



大徳寺孤蓬庵忘筌の庭

有名なる結露水跡を心中と一隅に於ては、法手の特異な鏡が現る。

箱、躰居、飛石等の布配並にその意匠は優れてゐる。殊に茶席忘筌の前庭第三十一圖参照山雲床の路地は茶庭として頗る傑出したものである。之等の數寄を凝した庭園に對して、本堂の

大徳寺方丈の庭は遠州の作と傳へられてゐる。方丈の南側より東に曲つた平庭であつて、その南庭は一面に白砂を敷きつめ、東隅に二個の大石を立て、瀧を擬し刈込樹を以て山を象る等當時、禪院庭園の特徴を遺憾なく表してゐる。東庭は遙かに比叡、加茂川を望んで誠に絶好の天然の背景を有し、この展望を生ずるために庭は數個の石と刈込物で極簡素に取扱はれてゐる。この庭は作者を異にするとも謂はれてゐる。修學院離宮は後水尾上皇の御自作といはれ、自然風景と巧妙なる調和をなし、その雄大な點は水戸偕樂園と好一對である。この庭園は傾斜地に據り上中下三段に分れ、天然の地形に準じて、眺望を活用せんがために、築山式の技巧を廢して、自然式の設計によつたものであつて、江戸時代初期に於ける特色ある大庭園である。以上の外江戸初期の作としては石川丈山作と傳ふる東本願寺棋盤邸の大林泉、丈山、松花堂、佐河田嘉六三氏合作の一休寺方丈の庭、佐久間直勝作といはれる大徳寺寸松庵の茶庭、金森宗

松作と傳へられる大徳寺眞珠庵の茶庭、藤村庸軒作の西翁院反古庵の茶庭等顯著なものである。然るに京都に於ける江戸後期の作は、京都御所、妙心寺東海庵等にあるけれども、あまり振はない。そして後者は眞行草の型が實際上に行はれてきたことを示してゐる。

江戸（東京）の庭園は、代家光より家宣に至る間に發達し、途中吉宗の武強主義によつて一時衰微し、十一代家齊に至つて再興したが、以後天災頻發して造園のことは漸く下火となつて行つた。江戸の庭園は勿論京都の庭園の移入に始まつたが、江戸の地は京都と自然的環境を大いに異にしてゐるので、庭園は白と特色ある發達を遂げるに至つた。即ち江戸の地は海に濱し、隅田川之を貫流して、地勢は山手と下町と河向とに分れ、下町や河向では大川や潮の下流を利用して潮入の池を造ることが出来た。然るに山手にあつては一帶に水に乏しく、水準を下けて湧水を利用したのぞきの池を作り、又玉川上水、神田上水、神田川、小日向上水等を利用して清流を作り小流をかけて池泉を設けた。又、苔類の成育がよくないので芝生が採用されるやうになつた。

けれども地積は自由にとれるので、十數萬坪の大庭園も現はれるに至り、遙かに富士、筑波を望み、又品海を取り入れ、京都に見る事の出來ぬ大陸的な背景を利用することが出来た。

この庭は大泉水を中心として、中に蓬萊山を浮べ、池の周圍には櫻林、田畑、亭閣、祠堂、橋梁、溪流、瀑布等を設けた廻遊式の庭園である。園内には三保松原や大堰川や清水や龍田川や唐崎の松や西湖等の如き名所を極めて巧みに配置し、又局部に教訓的な題材を多く用ひてゐる。この庭園で特に興味のあるのは、支那趣味の鮮明なることである。その趣味は虹橋たる圓月橋を始め、廊下橋、得仁堂や八卦堂等の意匠や今は消失した石組等に著しく顯はれてゐる。これは朱舜水の指圖によつた點もあらうが時代の大勢より見ても、かゝることはあり得たであらう。

次に庭園の主要材料たる岩石は京都の如く良材を得ることが出来ないので、自然石組は一般に墮落して行つた。

先づ水戸家小石川の上屋敷に於ける後樂園は江戸初期の代表作である。この庭園は頼房並に光圀の經營にかかるものであつて、作者は徳大寺佐兵衛と言はれてゐるが、明の客人朱舜水の意見も大いに加はつてゐる。この庭園は主要建築と全然離れた一郭に設けられたものであつて、よく天然の

三十三



江戶初期の庭園、殊に蓬萊園の地割り、細部に至るまで、その流注りや池の造り、庭園の初期江戸

工に、その變化極まりなく、而も統一を得て少しも破綻を來さないところに遠州流作者の靈腕がしのばれる。

戸山莊（現在の戸山學校）は尾州侯光友の經營で、寛文七年に着手され、二十七年を要して大成した。面積實に十三萬六千餘坪に達し、我が有史以來の大庭園である。この庭園も略天然の地形を利用して二萬餘坪の大池を穿ち、神祠、佛堂、五重塔、その他山亭、水閣、茶室、橋梁等を設け、名所を寫し、田園趣味を表はしたことは後樂園と同断であるが多少度を越えたりひがある。殊に三十六軒の家並を有する小田原の宿には、鍛冶屋、旅館屋、米屋、酒屋等種々な意匠を凝し、殆ど兒戯に類するものがあつた。尙園内に大原とて騎射、馬場の大芝生の臺があつて、全園の規模は想像に餘るものであつたが、安政以來の震災、火災、風害のために破壊せられ、殆ど全滅に歸した。

右の外紀州侯の西苑（今の赤阪離宮）松平吉保の六義園（今の本郷岩崎邸内）大久保侯の庭園（今の芝離宮）第三十三圖参照）等江戸初期の大作である。

江戸の庭園は中期に於て一時衰退したが、十一代家齊に至り爛熟の極に達し、將軍始め諸大名は庭園造樂を始め、江戸作庭の最盛期を出現した。當時の著しい特長は學問所、天文所、鞠場、射場、馬場、藥草製所、綿羊飼養場を設け、又栗、竹、甘藷、人參等の草木を植栽し、講武勸業その他實用的な構造局部が設けられたことである。更に鑑賞的な方面は、名所や傳説に基いた景を寫し、或は遊戯的な田園趣味を取入れ、あまりに技巧的となり、江戸庭園の墮落を示すに至つた。

江戸後期の庭園としては、江戸城内の吹上苑、將軍家の別業濱苑（今日の濱離宮）等漸く大成されたが、この頃松平樂翁公の浴恩園六園等最も有名で兩者共に著しく支那趣味のものであつた。尙松平不昧公の下大崎の下屋敷の庭は、茶味、禪味に交へるに文人趣味を以てし、高尚優雅を以て聞えてゐる。その他水野忠成の浩養園以下枚舉に遑がない。

江戸時代では地方の庭園は急速の發達を遂げた。三公園として知られる岡山後樂園は人工的に秀れ、水戸偕樂園は天然の池であり、金澤兼六園は人工、天然相半し、何れも特色ある名園である。

岡山後樂園は貞享三年より寶永にかけて漸次完成されたものである。この庭園は旭川に於て、その位置の關係は恰も桂離宮に似てゐるので、でもやはり周圍に竹林を繞らし、唯東方は背景を利用するために小丘を築き、生垣を繞らしてゐる。主要建築は園の西に在り、その南は稍高く、古松、老杉鬱蒼とした深林をなし、その間に花葉池を擁した幽邃なる景をなし、



宮 離 芝

鐵橋の園庭月江、となるへ風を某園、てれは園が等ひ飛瀑、溜洲はに時潮干、てつあで園庭式遊地九しと心中を池大のり入初み臨に川岳。るみてし説くよも最を

東は廣く展開した芝園となり、南方鳥城を始め東方諸山寶塔を望んで、全園の中心をなしてゐる。この廣芝の中央に千七百坪の澤の池を穿ち三島を浮べ、附近に稻田を設けてゐる。園内諸所に亭榭を造り、祠堂を建て、橋を架し、又調馬場、射圃等を設け、梅林、茶畑、松林、櫻林等を廻遊的に布局し、柱離宮風の時代の特徴を示してゐる。この庭園の著しい

るところにも烈公の精神がありくと讀まれる。亭の附近にはツツヂ、ドウダン等の丸物を配し、人工と自然との推移を計り、又これ等の刈込みは背景の老松と相對して形式上の妙技を示してゐる。

金澤兼六園は前田侯の經營にして、江戸末葉の作庭である。本園は金澤城と相對して雄大な眺望を有し、地形變化に富み、淺野川の水を導き、巧みに之を利用して曲水を設け、池を穿ち、瀑布を落し、活水の妙を極めてゐる。兼六園とは、宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の六者を兼ねるといふので命名されたもので、誠に巧みに人工と自然とを調和せしめ江戸時代全盛期の技術を遺憾なく發揮してゐる。右の外高松の栗林莊(今の栗林公園の一部)彦根の樂々園、廣島の縮景園(泉邸)熊本の成趣園(水前寺の庭)鹿兒島の磯御殿等は時代の代表作である。

第六節 明治・大正時代

明治維新以來歐米の文物は決河の勢で移入せられ、住宅建築と共に歐米式庭園並に公園は紹介せられて、我が庭園界に一大革命の運動を起した。從來夢想に及ばなかつた芝生花壇の整形形式な圖案庭園は支那式庭園に代つて典型となつた。かくして曲線式の庭園は始められて、美

圖 四 十 三 第



園 澄 清

用利を腹胎の社會變三るあで泉林大の入潮たれらけ設て味意の勞慰員社、くなでり許るあで邸別の氏崎岩。るあで名有でのるみてめ竟を石庭の地各てし

しい刈込物や草花など盛んに使用せられ、古來本邦庭園の核心をなした石組は漸く廢されやうとした。

この新庭園の最も代表的なものは新宿御苑である。この庭園はフランスの造園家アンリー・

マルチネー氏の設計の下に、明治三十五年より五年間にわたつて之が造營に努め、我國最初の洋式大庭園を完成した。いふまでもなく、この庭はフランス風の特徴を多く備へてゐる。正門内前庭は中央に大花壇を有する四條の雄大な並木道であつて、後園は大芝生となり、縦横に曲線式廻遊道路を穿ち、サクラ始めブラタナス、ハンテンボク、ヒマラヤ

シダ等が孤立木として又群團狀に散植され、之等植込を通して巧みに通景線を設けた廣大なる風景式庭園である。園内には數千坪の蔬菜園を始め花卉園、果樹園、温室等あらゆる園藝施設を施してゐる。この他江戸時代から傳へられた内藤侯の林泉の一郭も保存せられ、折衷式の局部もある。

新宿苑の外、宮内省の造庭にはこの種の作品を見ること多く後には和風と洋風とが巧みに融化して折衷式を出すに至つた。赤阪離宮の庭園や明治神宮内苑や其他東京市内の華族の新庭園にその例が多い。之等宮苑並に華族の庭園の外一般の庭園としては依然として在來の林泉式庭園を設けたものが多いが、その技術は漸次衰退して

第五章 各國の公園

第一節 概説

行つた。又明治時代は民権擴張と共に資本家が武士に代つて大庭園を營むやうになつたが、前代に見るやうな大庭園の出現を見るに至らなかつた。深川岩崎別邸清澄園(第三十四圖参照)始め本所安田邸、瀧野川瀧澤子爵邸、横濱原氏三溪園等は顯著なものである。

大正に入り、明治神宮の造營となつて造園界に急足の進歩をなし、我が造園史上記録せらるべき一時代を劃した。新進の造園家が輩出して學術的研究を進め、各方面より私園を始め大小公園、風景問題等世界的なあらゆる造園問題を捉へて論じ、今や之が實行期に入らうとして多忙を極めてゐる。庭園は住宅の改善に伴ひ、大いに實用を加味し、従つて洋風又は折衷式のものも多く採用されるやうになつた。従つて風景の描寫をやめて、民衆的住生活の内容とする戸外室としての庭園を提唱するやうになつた。

けれども一方在來の藝術的な庭園様式は、近來世界的に名譽を博して、盛に海外にも紹介せられ、世界的に様式として認められ、殊に藝術としての風景式庭園は日本式を以てその最たるものとなす等、本邦庭園の將來も亦多望なるものがある。

「人間は集合すれば腐敗する。身體の虚弱と精神の罪惡とは集合より来る。人間の氣息は人間を毒し、人間は群居によつて不徳を學ぶ。文明は實に人を墮落せしめねば止まぬ」とルソーが都市生活を呪つてゐる如く、現代資本主義の文明はいたましくも多數民衆の生活より、自然と人生の美を奪ひつゝある。人類は動植物と同様の自然の子である。大氣や光線や土地を母體とする生物である。然るに一般市民の生活は全然自然生活との絶縁となつて、人間が生命の糧として本能的に欲求すべき、日光や風や土や自然風景は終日之を享有し得ないことになつてゐるのである。この恐るべき背自然の生活は、實に人類の滅亡を約束するものであつて、都市は正に人類を絶滅せんとする地上最大の誘惑であり、陥穽であると遠視せらるゝのである。

されど今や自然復歸の運動は、商工的大都市の物質萬能の反動として、愈々高調せらるゝに至り、都市の公園、市外公園、天然公園の築造、自然風景の保存等非常なる發達を來した。就中

私園を有する餘裕なき無産階級の爲に公園は現代都市の一大使命である。かくして自然と人生、田園と都市とを調和せしめ、現代の頹廢的都市生活を救うて、健全なる人類の發達を遂げしめるのが公園の任務である。

然るに現代都市は、獨り公園に於て不完全なばかりではない。交通、道路、上水、下水、防災設備等凡ゆる方面に於て改革を要望されてゐる。茲に於て、現代の凡ゆる科學を應用して、都市そのものを擧げて、人間の愉快に生活する場所として改造に努めることとなり、都市計畫はかくの如くにして發生してゐるのである。

現代の公園は、都市計畫に關聯した問題であつて、而もその重要な位置を占めてゐることが分る。乃ち都市の綠化、都市と田園との調和は來るべき都市の理想である。

さてこれ等都市計畫に關して、公園設備の最も代表的な仕事は何であるかといふに、それは都市の内外に亘つて、大小公園を合理的系統的な計畫の下に配置することである。公園系統は都市の機能と調和しつゝ、本來の使命を達しようといふのであつて、この公園系統の樹立は實に現代都市の特徴である。

今日アメリカでは、公園系統は單一都市を中心とするばかりでなく、更に大公園區域を設定して、州立公園系統となり、國立公園廻遊系統となり、終には國際的公園系統の實現を見る。

に至つた。

かくして自然に背反した近代文明の反動として、公園は急速な發達を遂げたが、一方保健或は裝飾のための公園は、上代に於て既に幼稚ながら、その萌芽を見ることが出来る。以下項を更め、その發達の経路を辿りつゝ、各國の公園に就て述べよう。

第二節 都市公園

一 初期の都市公園

ギリシヤ國民は一般に野外生活を樂しみ、或は社交に、或は政治に或は競技にと、家庭を外に活動した。随つて民衆の集合場である、廣場や、運動場や競技場は大規模の設計の下に設けられ、都市生活に對する彼等の理想を示してゐる。アテンのアカデミー(Akademie)やライオン(Lytheon)其他キノサトス(Kynosarges)やジムナジウム(Gymnasium)等は公園でもあり、競技場でもあり、野外教場でもあつた。之等の體育場には並木や綠蔭樹が植ゑ出され、美しい彫像や噴泉で裝飾せられ、祭壇等も設けられてゐた。オリムパスの競技場の周圍には、優勝者の像が並び、並木がこれを守つてゐた。

尚ほギリシヤでは天神地祇を祭るために祠堂

を設ける習ひがあつた。祠堂の周圍は清淨なる地として、樹林で圍まれてゐた。而して林間には美しい彫像が立並び、芳香を放つ花卉と清涼を漲らせる泉等が設けられ、市民の慰安の場所となつてゐた。

ローマ時代の都市に於ても、政治や商業の中心とも思はれる廣場が現存してゐる。其處には休息に適する空地が設けられ、立派な意匠のある大理石のベンチなどもあつた。これをポンベイの遺跡について見ても、城郭内に石のベンチを有する小公園や廣場をそのまゝ見出すことが出来る。これ等市民の聚まる都市の廣場や辻や、市場は、後世の所謂市内公園の前身であつて、その當時も休息の目的に供せられたのは事實である。

中世紀に入ると、ローマ帝國は東西に分裂し、西ローマは戦亂の巷と化し、東ローマに於て比較的古い型を維持し、公園風のものも發達してゐたやうである。

中世の特色ある都市の多くは、フランス、ドイツ、イギリス等の北歐の地に起つた。之等中世の都市は城廓を以て繞らし、その一見不規則に見える平面は中央部と主要街路と廣場によつて統一され、繪畫的な美しい都市をなした。そして此等の不規則な形の廣場は、その繪畫的効果を大いに助け而も不秩序に陥らうとする細部をよく統一してゐる。かうした廣場の取扱ひは

近代都市の計畫上、色々な點で暗示を與へてゐる。

尙城郭を頂く丘陵の麓や塹壕の内側には、垣を繞らした共同庭園があつて、園亭を設け、泉を穿ち橋を架け、酒場や宴會場も設けられ、やゝ自由なものに發達して、後世の公園の如くに市民によりて利用せられた。又その一隅には矢場も置かれて練武のために備へられた。

二 イギリスの公園

ロンドンに於ては都市の人口の増加に伴つて一三六六年その境界の擴張を行つたが、十六世紀初頭既に市民は城壁外に溢れるやうになつた。その後エリサベス女王は城門外三哩以内に新建築を起すことを禁じ尙數回同様の禁止令が出た。然し夫は無効であつて郊外の擴張は目覺しいものとなつた。

當時廣場として知らるゝウエスト・エンド・スクエア(West End Squares)を始めとしてイギリスの廣場はイタリ、フランス等の在來の單なる廣場と違つて、芝生、花卉、樹木等時としては像を有し英國特有のものであつた。かうした廣場の最初のものは一六三四年に始まるコベントガーデン(Covent Garden)である。

一九世紀の中頃に入ると都市と郊外とを一つにした大ロンドン計畫が出来て、大變化を來すこととなつた。公共建築は續出し、都市の改良

計画は續々と遂行せられて全くロンドンはその面目を一新した。

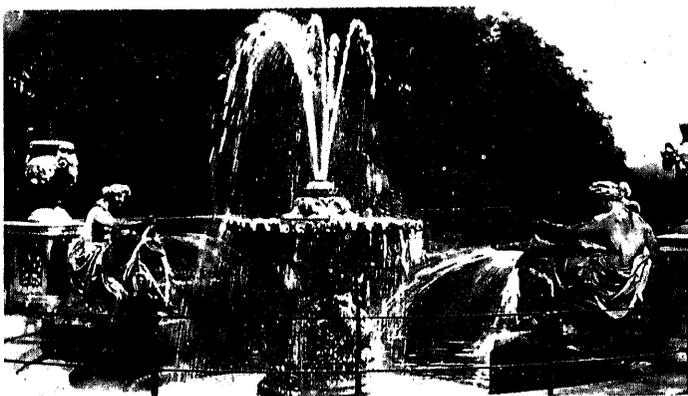
近代都市公園の歴史は、イギリスに始まるといつてよいが、その年代は凡そ一八四〇年頃からのことである。従つてその様式は當時流行したイギリス風景式で、それが各國の公園様式として認められるやうになつた。

ロンドンの公園の主なもの元は王有私領であつて、而も自由に公開されてはゐなかつた。且つそれ等は都市を離れた郊外に在つた。セント・ジェームス公園 (St. James Park) グリーン公園 (Green Park) ハイ・パーク (Hyde Park) ケンシントン・ガーデン (Kensington Garden) (第三十五圖) は皆市から大分離れてゐた。グラスゴー・カレッジ・グリーン (Glasgow College Green) なども市外であつた。

そして上述の公園の公開されたのは凡そ一八三〇年前後であつて、レゼンツ公園 (Regents Park) は遅れて一八三八年に公開された。尙ほ王有公園の外に、ロンドン府並にロンドン市所管のもので有名なものに、バターシー公園 (Buttess Park) やノーホルト・フォレスト (Hault Forest) やウインズレドン共有地 (Windsledon common) などがあり、その最古のものは、一八五七年の開園に係るフィンスバーク公園 (Finsbury Park) である。

さて一八四五年には都市衛生委員會が公衆衛

第三十五圖



ケンシントン・ガーデン

園の一角に、一八五七年に公開されたケンシントン・ガーデンの噴水。この噴水は、ケンシントン・ガーデンの一角に、一八五七年に公開されたケンシントン・ガーデンの噴水。この噴水は、ケンシントン・ガーデンの一角に、一八五七年に公開されたケンシントン・ガーデンの噴水。

生の見地からして公園と自由空地との提案をした。その理由とするところは、大都市人口稠密なる地方に於て死亡率の大なること、疾病の多い事は公衆散歩場の缺乏によるといふにあつ

この當時リパブルやマンチェスターやパリは都市の膨脹に伴つて数回城壁を擴張して来た。ナポレオン一世はパリの外観を一變せしめ、壯麗な記念碑と橋梁が新に出現した。ルイフィリップ (一八三〇—一八三〇) はパリの修飾に専念し、宏壯な建築を起さしめ、ナポレオン一世の復位後は現在の城壁が完成された。

一八五二年ベルファストに於て、ジェームス・トムソン教授は講演して云つた。近代の大都市に工場を發達せしめた人々は、こゝにその衛生上の科罪を償ふために、公園を造るべき責任があると。尙ほ公園を所有し、ロンドンのビクトリア公園も開

た。そして公衆散歩場なるものは、中流以下をして新鮮なる空氣と休養時間に運動の機會を興へる唯一の施設であると説いた。そして在來の大都市に存在してゐた單なる廣場や裝飾木位の

は、郊外空地に建物を作る場合には、それに應じて課税をなし、公園の維持建設費に當てることを主張した。この當時マンチェスターは三つの公園を所有し、ロンドンのビクトリア公園も開

かれてゐた。そして教授の講演の結果ベルファストには大きな公園が出来た。

バーミンガムの公園運動の經過は恰も英國都市公園の發達史である。一八五一年には既に改良法が成立して保健と休養とのために土地を収用する方法が開けた。一八五一年に至つて、アデルレイ氏の寄附による面積十エーカーのアデルレイ公園 (Adelley Park) が市の最初の公園として起つた。引續き十八エーカーのカルソープ公園 (Culthorpe Park) やアストン公園 (Aston Park) が設けられた。

一八七三年カノン・ヒル公園 (Canon Hill Park) が市に寄附された。これは牧場であつたのを豊富に植栽し、一部は植物園ともした。其後買収、寄附等により、多數の公園が續出した。

かくして一九一七年頃までに、全體二五個面積七八エーカーの公園と三六個面積五三二エーカーの運動場と一九個面積一六エーカーの自由空地を有することとなり、一エーカー毎に六二五人の人口割となつた。之等の公園の運用に就いては先づ音楽が第一で、次には戸外の舞踏も盛に行はれ、又一九一二年以來團體競技設備をも設け指導員を置いた。この施設は今日米國で盛大であるが、かくしてバーミンガムに於て、最初に始められたものであつた。

バーミンガム其他の經驗で市に於て自由空地を設け都市計畫條令を善用して豫め十分に公

園及び自由空地の豫定地を選定して置くやうにし、同時に地帯制にも注意するやうになつた。

一八六四年ロンドンに於ける共有地及歩道保存會の事業は各方面に大いに反響があつて、ウインズレドン共有地やハムプステッド・ヒースやエッピング・フォレスト等がロンドン附近に公開されることとなつた。

同氏は堀を繞らした牢屋の様な學校運動場よりも、砂地で樹林を有する天然的な土地を最上とした。かうして天然式の運動場はイギリスやドイツでは盛んとなつて行つた。

三 フランスの公園

さて都市の何割を公園として保留すべきかに就ての問題であるが、このことは容易に数字的に斷言することは出来ない。ホルムス氏 (Mr. Holmes) の發表によると、イギリスの統計では八八三年に公園一エーカーに對して、七六〇人で、二十年後の一九〇三年には五割の人口増加に拘はらず、一エーカーにつき六三五人となつた事を示してゐる。因にロンドン府では一八八三年に九五〇人であつたのが、一九一〇年には七五〇人となり、最近では更に減少して六七七人となつた。

パリは都市の膨脹に伴つて數回城壁を擴張して来た。ナポレオン一世はパリの外観を一變せしめ、壯麗な記念碑と橋梁が新に出現した。ルイフィリップ (一八三〇—一八三〇) はパリの修飾に専念し、宏壯な建築を起さしめ、ナポレオン一世の復位後は現在の城壁が完成された。

一八四〇年にかけてパリの大改造が行はれた。オスマン男爵によつて、幾何學的な新都市計畫がなされ、都市の美觀のために全力を注いだ。サン・ミッシェル (St. Michel) やオー・サン (Haut-Sennan) 等の近代の大路が出来た。ボア・ド・パロンヌやボア・ド・パンサンヌ等も此頃公園となつた。

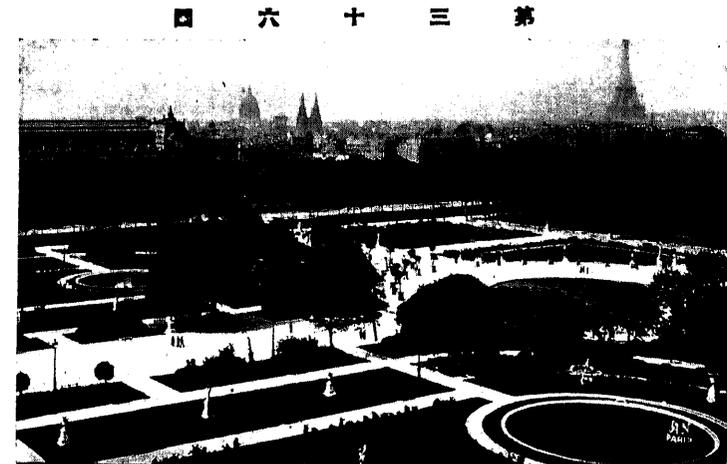
八五四年頃に始められたもので、世界最大で最も美しい廣場である。元これはルイ十五世(一七一五—一七七五)の時、市外の空地に計畫されたもので、彼に因んで命名され、且一七六三年に彼の像が造り出された。然し一七九二年にルイの像は除かれて、代りに平和の像が置かれ、革命廣場と稱されることゝなつた。ルイ十六世はこゝでギロチンに上つた。今日の名稱は一七九五年に用ひられ始めたのであつて、今は雄大なオペリスクと噴泉とが設けられてある。

公園道路として著名なシャンゼリゼー(Champs Elysees)はもと市外の空地であつた。そしてこの名は一七世紀末に起つたもので、一六〇六年既にマリー皇后の指圖で出来た三列の並木を有するレーン街(Cours la Reine)が始つてゐた。其他の部分は一六七〇年來のもので、プロムナード・ド・グラン・クール(Promenade du Grand-cours)として知られる最初のものであつて、一九世紀後半には流行の散歩場となつた。

クラント・プール・バル(Grands Boulevards)はコンコルドからバスチールに至る大公園道路であつて、革命後の設計にかゝり、元の城壁の上に造られたもので、廣道として盛觀を呈することゝなつた。續いて市内公園の沿革を説明することゝしよう。

ボア・ド・ブローニュは單にボア(Bois)といひ、巴里の西に接して、西はセイヌ河で境を

れてゐる。之はナラ林であつたが一向に顧られなかつた。一八五二年市はナポレオン三世の意をうけ六百萬法を投じ、イギリス風の公園を模して今日の二、二五五エーカーの大公園とした。



第三十六圖 ユニエール公園

その大體は自然風景を基調としてゐるが、局部の施設はかなり加工されてゐて、近代的公園の典型ともなり、その大さと施設の完備してゐる點で世界屈指の公園と許されてゐる。

バルク・デ・ビユテ・ショウモン(Parc des Buttes Chaumont)は五九五エーカーで、さして大きくはないが、變化のある地形を利用して浪漫的風景を造り、パリ中最も繪畫的なものとして知られてゐる。工事は一八六六年から翌年にかけて完成せられたものである。

ボア・ド・バンサンヌ(Bois de Vincennes)は十二世紀頃には佛帝の狩獵場であつた。十四世紀に至り、こゝに今日残つてゐるシャトウが設けられたが一六六八年に朝廷はベルサイユに移つたので、こゝは見棄てられた。一七三一年に至り、ルイ十五世によつて、漸く改良され、公園として開放せられた。一八六〇年更に東方の地を取り入れ、今日ではその地積二、三〇八エーカーを占め、巴里に於ける最大の公園となつた。然しその施設は到底ボアの比ではない。因に世界最大の都市公園たるフィラデルフィアのフェアモント公園は三、五二六エーカーで遙かにこの公園を凌駕してゐる。

ジャルダン・デ・チュイリール(Jardin des Tuilleries)は一六六四年ル・ノートルによつて作られた宮苑であるが今は公開せられ、パリ有数の中心公園となつた(第三十六圖)。

一八六七年一部を公園とし、近年更に之を擴張した。今日尚マリー皇后の植ゑた三本のエルクムが残つてゐる。

シャン・ド・マース(Champ de Mars)は一七七〇年練兵場として設計されたが、一九一三年に公園となつた。

バルク・モンソー(Parc Monceau)は二一七エーカーを有し元私園であつたが、後に公開されよく十八世紀の様式たる浪漫的風景式を傳へてゐる。以上はパリ公園の主なるものに過ぎない。パリ公園の總面積は約五千エーカーで、公園一エーカー當り人口は五五四人に當つてゐる。フランスの公園は結局パリの公園であつて、他の都市には特筆せられるほどのものがない。たゞ僅かにマルセイユ、リヨン等に二三の都市公園を見る位である。

四 ドイツの公園

ドイツの公園は、各聯邦に於て夫々見るべきものがある。先づベルリンでは一六八〇年フリードリッヒ大公爵によつてウンテル・デン・リンデン(Unter den Linden)街がボダイジュの並木道として設計せられた。これはベルリン市街の修飾上記念すべき出来事であつた。次いで公園としてはチーヤガルテン(Tiergarten)が始つた。これは元大公爵の狩獵苑であつたのを、十八世紀後半に至り、フリードリッヒ大王は之

をベルサイユ式に改造せしめた。其後十九世紀前半にフリードリッヒ・ウイリアム二世は造園長レネ(Tenne)に命じて大改造をなすしめ、今日尚ほ都市内で自然公園の面影を残すことゝなつた。十九世紀後半に至つて始めて現状のやうな特色を興へることゝなり、即ち先づ下木は除かれ、芝生は改良せられ、廣道が穿たれ、大理石像が運ばれた。

ベルリンでは公園の必要を叫ぶやうになつたのは一八四〇年頃からであるが、その頃既にチーヤガルテンのみでは不十分となり、一八六四年にはフリードリッヒの森(Friedrichshain)を獲得し、引續きトレプトウ(Treptow)とフンボルトの森(Humboldtshain)の二大公園が設けられた。

一八七六年には従來國庫で管理してゐた裝飾廣場や並木路が市に移管され、引續き市の發展に伴つて、市有林等の拂下げあり、又一九一三年には大ベルリン都市計畫が成立し更に森林公園の面積を加へ、大ベルリン地域内の林地は凡て二〇、二四五ヘクタールとなつた。かくしてベルリンは殆んど森林公園でとり圍まれた都市の觀を呈することゝなつた。なほベルリン市の公園面積は一、七三九エーカーで一エーカー當り人口は一、一八九となつてゐる。

ライプチヒでは市街並木は一七〇二年頃から始められ、ウムス・トール(Ums Tor)の散歩路は一八二〇年に出現した。森林公園として著名なローゼン・タール(Rosenthal)はもと經濟林であつたが、一六六三年選舉侯は市をして買収せしめ一七〇八年頃これを買いて十三本の並木道を設けた。

そして、その中央に宮殿を設ける計畫であつたが、遂に實現しなかつた。園内の散歩道は一七七七年始めて設けられ、一八三七年頃から、やつと市に近い部分が公園らしくなつた。

そして一九〇三年には九二〇、〇七三平方メートルのイギリス風の公園となつた。

フランクフルト・アム・マイン(Frankfurt am Main)では古い城壁あとを公園とした。その散歩道は十九世紀の初め彫像で飾られた立派なものになつた。

カールスルーエ(Karlsruhe)は特色ある古い都市計畫を有し、幹線道路は宮城を中心にして放射線状に又環状に設けられ、西北方に四、九〇〇ヘクタールの國有林を擁した。宮城内には内苑(Schloss garden)を有し、外苑としては放牧園(Fasanen garden)その他森林がある。一八七〇年來外苑の南に競技場、大運動場等が起されて、今は凡て開放されて公園となつてゐる。

ケルン(Köln)では一八八一年以來、延長三哩半を有する環状公園廣道(Kingstrasse Boulevard)が舊城壁跡に設けられ、舊市を一周し、中世の城門等を残してそのまゝ公園として

利用してゐる。尙この外市有林は市の西にあつて、四八〇エーカーで一八九五年來のものである。

ドレスデン (Dresden) では一六七六年設計のフランス風の王有園グロッセ・ガルテン (Grosse Garten) が開放せられて市内公園となり、後に擴張せられて三七五エーカーとなつた。こゝには一六八〇年に作られたシャトーが現存してゐる。之に接して一八九一年植物園が設けられた。市内の公園計画は一八六七年より六九年にかけて行はれ、エルベ河岸の景勝地にビュルゲル・ワイゼの自然式公園が設けられた。

ドゥッセルドルフ (Düsseldorf) では一七九九年造られたホッフ・ガルテン (Hofgarten) が十九世紀に入つて城壁を除かれ、之を擴張して公園とした。又東の方にエーゲル苑 (Egerhof) がある。尙ほこの市は川沿ひに都市の修飾を行つて、近代的な美装を凝らしてゐる。

ミンヘン (München) では一八五四年マキシミアン二世によつて、延長一哩、幅員二五碼に達するマキシミアン・街路 (Maximilian-Strasse) が設計せられ、花壇、噴泉、彫像で建築的に裝飾せられて有名である (第三十七圖参照)。又イングリッヒガーデー (English Garden) は一八〇〇年設計され、グアイアの池や支那の塔や自然風の湖が設けられて、純イギリス式の公園となつてゐる。ニンフエンブルグ (Nymphenburg) は一六六三年フェルデナンド・マリアによつて計畫されたもので、ベルサイユ式に整然とした大噴水や大運河が設けられた。後イギリス式に改造せられ廢墟を寫したマグダレン寺なども現はれるやうになつた。シュライスハイム (Schleissheim) も十八世紀の初めベルサイユ式に設計されたもので、今日は前者と共に開放されてゐる。この他南方にグリュンワルデン公園 (Grünwalder Park) がある。



慕尼黑的市街上修飾

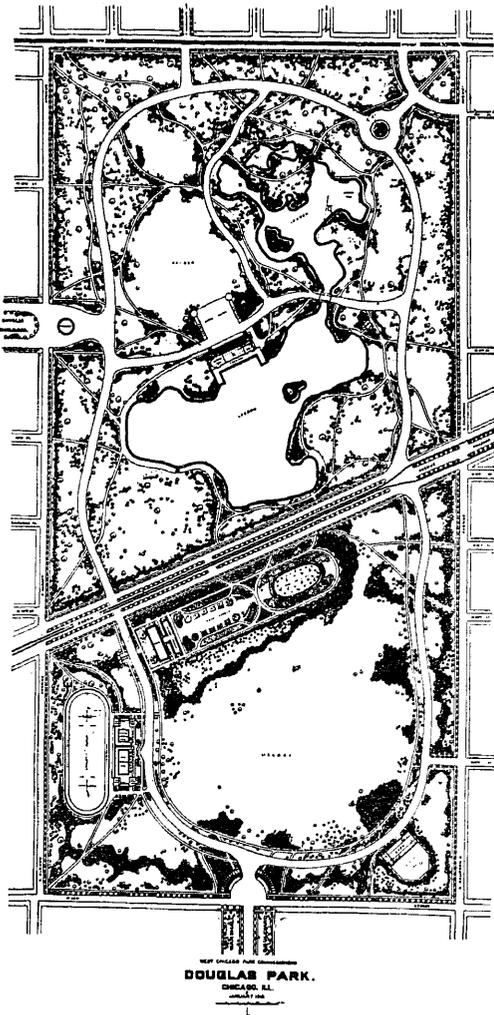
この公園は、今日でこそ世界第一を以つて許されてゐるが、その始めにあつては各植民地方にそれ／＼本國の習慣に従つて固有の公園を移入したのに過ぎなかつた。十九世紀後半に及んで歐洲をめぐりやうな大公園が現はれたけれども、未だイギリスやフランスの公園を襲うてゐる状態であつた。然るに十九世紀末となつて運動本位の公園に目覺め、やがて二十世紀初めに入ると公園系統を確立して、もはや世界の何れにも見られない進歩を見せるやうになつた。従つてアメリカ公園の發達を振り返つて見ると、四つの大きな時代に區別せられるやうである。

- 一、植民時代
- 二、大公園時代
- 三、運動公園時代

五 アメリカの公園

アメリカの公園は、今日でこそ世界第一を以つて許されてゐるが、その始めにあつては各植民地方にそれ／＼本國の習慣に従つて固有の公園を移入したのに過ぎなかつた。十九世紀後半に及んで歐洲をめぐりやうな大公園が現はれたけれども、未だイギリスやフランスの公園を襲うてゐる状態であつた。然るに十九世紀末となつて運動本位の公園に目覺め、やがて二十世紀初めに入ると公園系統を確立して、もはや世界の何れにも見られない進歩を見せるやうになつた。従つてアメリカ公園の發達を振り返つて見ると、四つの大きな時代に區別せられるやうである。

第三十八圖



シカゴのダウグラス公園

この公園は、今日でこそ世界第一を以つて許されてゐるが、その始めにあつては各植民地方にそれ／＼本國の習慣に従つて固有の公園を移入したのに過ぎなかつた。十九世紀後半に及んで歐洲をめぐりやうな大公園が現はれたけれども、未だイギリスやフランスの公園を襲うてゐる状態であつた。然るに十九世紀末となつて運動本位の公園に目覺め、やがて二十世紀初めに入ると公園系統を確立して、もはや世界の何れにも見られない進歩を見せるやうになつた。従つてアメリカ公園の發達を振り返つて見ると、四つの大きな時代に區別せられるやうである。

四、公園系統時代
以下順を追つて、各時代の状況を實例によつて説明して行かう。

植民時代にあつては、地方毎に多少特色を異にしてゐる。東部ニューイングランド地方ではイギリス風の原始公園が現はれてゐる。乃ちそ

たのは一七八六年のことである。フィラデルフィア市にも數個の古い廣場があつた。一六八二年その都市創建に至つて五つの小公園が保留せられた。一八一七年の記録によると、センター・スクエア (Center Square) やパブリック・スクエア (Public Square) 其他が見えてゐる。一七九九年首都ワシントンの計畫については多數の小公園の分布されてゐたのは著明な事實である。

かうした都市の廣場は西部地方の都市にも現はれてゐる。このあたりはスペインの植民地であつたから、自ら本國の様式をとつてゐたのはいふまでもない。例へばロサンゼルス市では一七八一年に市場又は辻といはれるやうな性質をもつたパブリック廣場が設けられて、今日に及んでゐる。

の適例はボストン市のボストン・コンモン (Boston Common) であつて、これはアメリカ最古の公園であつて既に一六四六年に公園の端を發してゐる。一八一九年には市は四エーカー八分の三の地積を三萬八千弗で買収して、其周圍にニレ其他を植樹し、その外に鐵柵を繞らした。これは要するにイギリスの共有地であつて、市

民が自由に出入して牧場として或は練武場として利用するための施設で、一八三〇年に至つてやつと牛は驅逐せられるまでになり、後に専ら小公園の用をなすやうになつた。同様のものに紐育の市役所脇に現存する三角形の小廣場があつて、古くよりパークと謂はれてゐる。四エ

たのは、恐らく紐育のセントラル・パーク (Central Park) であつて、一八五三年から一八六三年に至る間が、その獲得並に發展時代であつた。この公園は小公園で満足されなかつた市民の休養、保健に對する要求に基いて始まつたもので、その設計はアメリカの造園大家フレデリック・ロー・オルムステッド (Frederick Law Ol-

圖 九 十 三 第

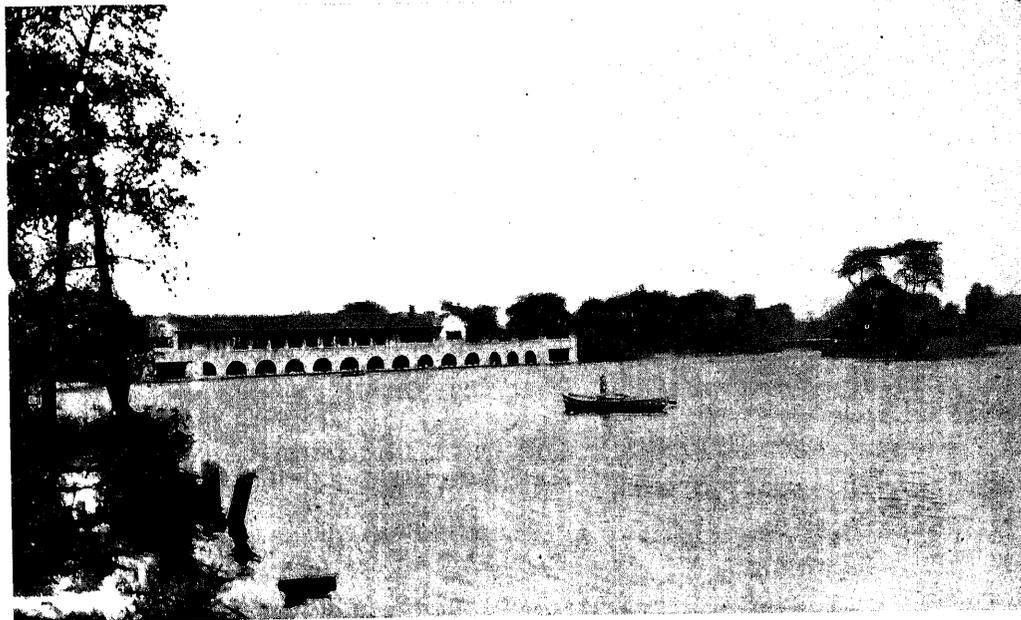


圖 公 ン ト ン シ ヲ 市 ヲ カ シ

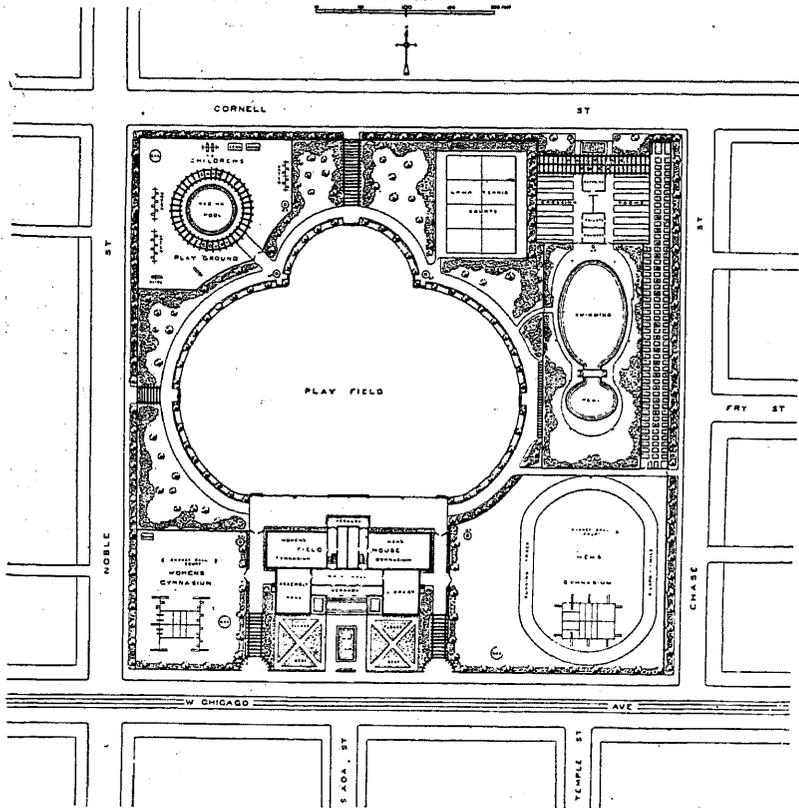
ギイでドツテスマルオは計設。るあで物呼はトーボの上水に殊、し有を備設動運の種各、め占を一カーエー七三積面、てつあに端南の市。るあで園造の型なうヤジ同又、いなの戲刺てし大し併な和平。るあで趣景たしとりびんの風スリ

マード)とカルヴァート
 ヴォー (Calvert Vaux)
 兩氏の手になり、様式
 はイギリス風自然式で
 あつて、面積八四三エ
 ーカーを蔽ひ、伸々と
 した風致を現はした。
 土地其他施設費共三億
 八千萬弗と見積られた
 ほどの大公園である。
 この公園はそれが全然
 市内に介在する點で、
 空前の大公園といはれ
 るので、この思ひ切つ
 た大計畫は、全アメリ
 カに偉大な刺戟を與へ
 ることとなり、これが
 動機で各地に大公園設
 立時代が開けたのであ
 る。例へば東部地方で
 は最近迄世界第一の都
 市公園として知られた
 フィラデルフィアのフ
 エアモント公園やボス
 トンのフランクリン公
 園やシカゴのリンコー
 ン公園がフィールドー

公園、フンボルト公園、ドグラス公園、ジャクソ
 ン公園、ワシントン公園の如き(第三十八圖第
 三十九圖参照)、西部地方ではセントラルパーク
 より更に大きい都市公園としてサンフランシス
 コのゴールデン・ゲート公園や、最近フェアモン
 ト公園を凌駕して世界第一の大公園となつたロ
 サンゼルス市のグリフィス公園などが出現した。
 何れも十九世紀末の設立である。
 以上風致本位の大公園が出現してゐるうちに
 漸く都市の兒童のために生命の糧として必要な
 運動遊戯場の設備が始まらうとしてゐた。この
 運動は一八八六年ボストン市で兒童のために、
 小さな砂庭が設けられたのに出發してゐる。そ
 れが後には小さな自由空地に發展し、それから
 設備をもつた運動體操場に進化し、最近では、
 有ゆる戸外の運動設備を網羅した上に、室内運
 動設備までもした、リクリエーション・センタ
 ー (Recreation Center) とまで發展して來た。
 シカゴ市では一八九五年にドグラス公園 (Doug
 las Park) 内に水泳場と體操場を附設したのに
 始まり、一九〇八年に至つてやつとシカゴ型と
 して知られる、リクリエーション・センターが設
 けられ、一九一四年にはさうしたものが五つに
 なつた(第四十圖参照)
 アメリカの運動公園は次第に運用の範圍を擴
 めて夜間にも開放せられ、子供許りでなく大人
 にも婦人にも利用せられるやうになり、それぞ

圖 十 四 第

WEST CHICAGO PARK COMMISSIONER
PARK NO. 1.
 CHICAGO, ILL.
 JANUARY, 1912



場 動 運 型 ヲ カ シ

女男に右左のそ、物遊の場樂遊運内屋てし面にこれ、場廣に中央に位本童兒で置公小の位方平呷百二
 るあてれらせ一統もに的致趣く甘は健全、れらけ設がとトーコスニテとループはに手北、場操體の々別

圖 一 十 四 第



カンサスシチ公園道路は並木を以て裝はれてゐる許りでなく、
 公園道路のやうに名戸の庭にも統一ある設計をすゝめて、
 都市の美觀を増すやうに努力してゐる。

れに適當な指導者を置くやうになつた。これが
 管理に就いても、市役所の公園課内に或は獨立
 した一課として運動場管理機關が出来、又その
 ために特別委員會も設けられるやうになつた。
 かくして兒童本位の小公園又は運動場時代は、
 十九世紀末から二十世紀にかけて始まり、全く

世界に誇りうる盛觀を呈するやうになつた。こ
 の方面で最も進歩した施設を有するのはシカゴ
 市である。
 次は第四期の公園系統 (Park System) 確立時
 代である。凡そ公園及び運動場の有ゆる種類が
 現はれ、その市民の利用上に適當な分布の必要

が認められると同時に、都市の他の施設例へば
 道路、交通機關、上水、下水、建築等の綜合的
 な系統的施設をなす都市計畫の一方面として公
 園を計畫し、將來に對しても發展力あらしめる
 やうに考案するの必要を認めるに至つた。而し
 て都市を計畫的に實行することは歴史のないア
 メリカでは比較的容易であつたので、此國で公

圖 三 十 四 第



圖 公 湖 南

あるなにも込植の時計設計は山の景背、かいたてて残る物建い古は今入一はのむ登を山火須那の景還、あみてつ立か木古の松赤るれは思とるあて

同樂之意也とあつて、今の公園からその下の方の千波沼を隔て、櫻山や緑岡までとり入れた一大園池であつたが、これも公園に魁するものといへよう。この種の施設は各地方に尙ほ存するものが少くないやうである。然るに明治六年に至つて、政府は公園施設を積極的にすすめることとなり、従来の社寺境内名所其他公衆の享樂する所を物色せしめたのでその結果始めて本當の公園が起つてゐる。その主なものを擧げるならば明治六年に東京では芝公園、上野公園、淺草公園、飛鳥山公園が選ば

れ、阪神地方では箕面公園、濱寺公園、住吉公園、諏訪山公園等が出で、先の借樂園もこの時常磐公園となつて正式に現はれた。又日本三景の一つたる嚴島公園もこの時に生れてゐるが、先の箕面公園と共に、都市公園とはいへない。後に説明せんとする天然公園である。續いて翌年には兼六公園八年には高松市の栗林公園、高岡市の城址たる高岡公園などが設定せられた。かくして始めは舊大名の庭園や社寺境内や城址や名所など、既に公園の素質をもつてゐたものを利用して公園としたものが多い。然るに明治三十六年(一九〇三年)には東京市で日比谷公園が舊練兵場のあとを利用して洋風公園として始まつた。これが設計者は辰野工學博士と本多林學博士であつて、凡そ本邦で近代的公園の魁をなしたものとといへる。同時に大阪では天王寺公園が起工されて、東西新公園の兩大關となつた。この頃から我が公園界は賑つて来て、公園の数は年々増加して行つた。殊に明治四十年から大正時代にかけては最も盛大となつた。けれども我が國の公園はこの頃まで依然として風致本位の享樂休養を主としたものであつて、運動公園の發達は全然見られなかつた。明治四十三年(一九一〇年)東京市では公園改良計畫が

圖 四 十 四 第

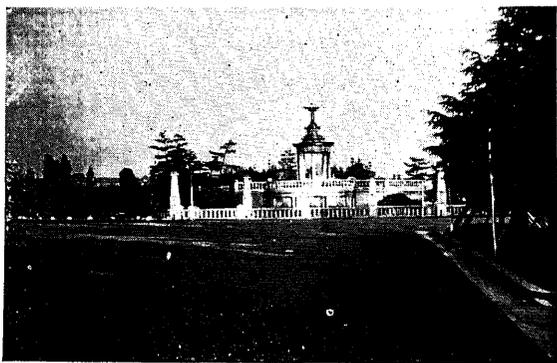
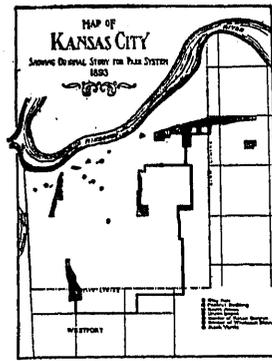


圖 公 舞 鶴

ていづ近に更、込植の景背のそしかし、あてて園立的代近の景洋こし見一、るれらせ見登が法手式本日に等組石をす興臨を透水の泉噴とる見

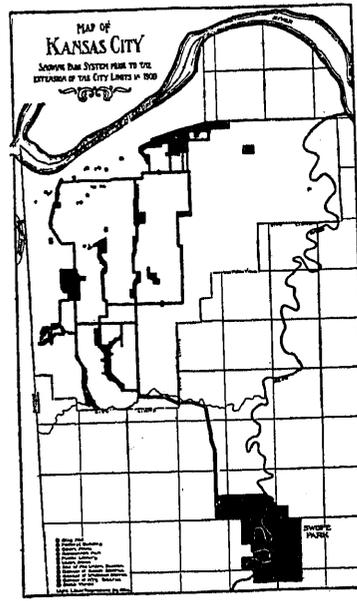
園系統の如きも理想的發達を遂げるやうになつた。公園系統の方ではカンサス・シチー(Kansas City)が代表的である(第四十二圖参照)。この市は一八九三年頃には三二五・四五エーカーの公園を有し九・八五哩の公園道路(Parkway)で聯絡してゐたが、一九〇九年には市も發展して來たので、スウォープ公園を市外に選定して置いた。然るに一九一五年になると、都市はこの公園の方面に擴張して、完全に公園を市の園内にとり入れた。そして市は三千エーカーに近い公園と公園道路とを擁し公園道路の延長は百哩にも及んだ。因にアメリカで人口對公園面積の割合の最もよいのは首府ワシントンであつて、面積五、二二エーカーで一エーカー當り人口は六八人となつて、世界中での記録を作つてゐる。公園系統の思想は、一つの都市を中心としてこれに隣接する他の都市や村落にまでおし廣めて一つの大きな公園區域を設定して數個の行政區域を併せたものに、適用することも出来る。かうしてボストンの大公園

立てられて、小公園のことが始めて問題となつた。そして大正の始め頃から、兒童本位の小公園又は運動公園時代に入らうとした。然し地方にあつては、たゞ僅かに從來の風致本位の公園の一隅に、運動施設を加へる程度であつて、獨立した小公園はあまり見られなかつた。凡そ一九二〇年頃から大阪、神戸、横濱等に小公園が起り、市役所でも公園課を設けて公園事務に當らしめるまでになつた。尙ほ名古屋では博覽會會場跡地を利用して明治四十三年、鶴舞公園を和洋折衷の設計で實



一チシスサンカ
圖 統 系 園 公

は中央、態狀の年三九八一は端左一九一は端右、態狀の年九〇九一公と園公がのい黒、で態狀の年五〇るあて路道園



園系統の如きも理想的發達を遂げるやうになつた。公園系統の方ではカンサス・シチー(Kansas City)が代表的である(第四十二圖参照)。この市は一八九三年頃には三二五・四五エーカーの公園を有し九・八五哩の公園道路(Parkway)で聯絡してゐたが、一九〇九年には市も發展して來たので、スウォープ公園を市外に選定して置いた。然るに一九一五年になると、都市はこの公園の方面に擴張して、完全に公園を市の園内にとり入れた。そして市は三千エーカーに近い公園と公園道路とを擁し公園道路の延長は百哩にも及んだ。因にアメリカで人口對公園面積の割合の最もよいのは首府ワシントンであつて、面積五、二二エーカーで一エーカー當り人口は六八人となつて、世界中での記録を作つてゐる。公園系統の思想は、一つの都市を中心としてこれに隣接する他の都市や村落にまでおし廣めて一つの大きな公園區域を設定して數個の行政區域を併せたものに、適用することも出来る。かうしてボストンの大公園

六 日本 の 公園

日本で公園の始つたのは、明治六年(一八七三年)太政官の布告によるのであるから、それ以前には公園はなかつたわけである。然しその内容に於て公園に匹敵するものは、江戸時代にこれを求めることが出来る。我國到處に見られる社寺境内の如きは、古くより公衆享樂の場所で、多分に公園の素質をもつてゐた。然しそれは政府又は公共團體が公衆保健教化のためにしたものでないから、公園とはいへない。然るに舊藩公が公衆のために開放した造園はこれを公園といふもそれほど不穩當ではない。この種のもので、最も古いのは松平定信の經營にかゝる白河城下の附近、南湖を擧げなくてはならぬ。即ち「興衆泛舟可以娛太平無事也」といつて文化元年(一八〇三年)天然の地形を利用して、大池を設け周圍の丘陵に風致樹を植栽し、園舎を建て、開放したのは今日の公園として何等の不都合もない。又今日三公園の一つとして知られる水戸の借樂園の如きも、齊昭が天保十年(一八三〇年)に着手して十三年に落成した園で、これも與衆

施して特色ある名園を出した(第四十四圖参照)東京では大正時代を記念する明治神宮内外苑が極めて大仕掛で始められ、外苑は洋式の堂々たるもので、その競技場は殊に壯觀を呈した。大正十二年(一九二三年)の關東震災を機として東京市及び横濱市は、市區の整理を行ふと共に、大いに公園の増設をなし、茲に始めて公園系統の觀念が我國の公園計畫に體現するやうになつた。

最後に東京市の公園面積は震災前には四二八、九五〇坪であつたが、震災後帝室より猿江公園、芝離宮及び上野公園の三大公園が御下賜となり、岩崎家の清澄園の寄附があり、其他小公園の増設等によつて昭和三年には六八〇、三六三坪即ち約五六エーカーに増加してゐる。しかも公園一エーカー當り人口は三七二二人であつて、世界の大都市としてはいかにも貧弱を免れない。

第三節 天然公園

國又は公共團體が一定の天然風景地を劃してその風景を保護すると共に、公衆の保健教化のための施設をなしたものを天然公園(Wild Park, Landscape Park)といふ。従つて天然公園の中には都市の經營するものもあらうが、多くはその位置や利用者の關係から、特別な都市より

も、廣い範圍を包容する州縣又は國の經營するに至るとするために、天然公園の大部分は國立公園又は州立公園となつてゐる。

尙ほ國により地方によつては、同じ目的のための施設でありながら單なる名勝地として置いて、それを公園に指定編入しない場合もある。又天然公園の主目的たる風景又はその天然の地勢をそのまゝに保存するのみで、敢て人為的施設を加へない消極的な事業もある。それは造園技術とあまり關係のないものではあるが、その目的が類似してゐるから、茲でも一緒に述べて置かうと思ふ。

凡そ人類が自然を愛する心は、原始時代よりその幼稚な姿を發見することが出来る。然るにそれが藝術的なものとなつて表現せられるまでには、多年の歲月を要した。更にその價值ある自然風景そのものを保護し永遠に保存しようといふ要求の起つたのは十九世紀に入つてからのことで、極めて近世の發達に屬する。果して然らば最近の文化がいかにしてか、る思想を馴致し來つたかといふに、それには種々な理由を考へることが出来る。

その第一は土地産業の發達である。農業、林業、牧畜、鑛業、水力電氣等が發展して、地上の有ゆる資源を探り盡して、利用開發するやうになると、そのために地勢は著しい變化を蒙つて風景は臺なしとせられた。殊に最近の水力電

つて親しいものとなつて來た。上述するやうな理由からして、天然公園は現代人にとつては戸外の享樂地、保養地である許りでなく、實に野外の運動場であり、教室であり、アトリエである。次に歐米諸國に於てこの天然公園に對する要望が、いかにして具體化されたかを述べることとする。

由來古い文明を有し、國土の隅から隅まで開發し盡されて、人爲を蒙らない自然の原始郷はどこにも見出せないやうな歐洲に於ては、天然を記念する個々の動植物や地形などは殊に大切であつたので、天然記念物(Naturalism)の保存は夙に十九世紀の初めに唱へられたけれども、それが組織的な運動となつて來たのは、ドイツのコンヴェンツ博士(一八五五—一九二二)が出てからである。そしてこの天然記念物保存の運動が實現して、歐洲各國で夫々に法律などを制定するやうになつたのは、二十世紀に入つてからのことである。然し未だ一定の區域を劃して大面積の天然保護區域を設けるまでには至らなかつた。夫はさうした目的に適ふ土地が見

當らなかつたのも一つの理由となるであらう。史蹟の保存の如きは、歐洲諸國ではかなり古くより行はれてゐたであらうと思はれるが、その運動の組織的となつたのもそれほど古くないやうである。イギリスで史蹟天然風景地保存のために一つのトラストが成立し、法律で保護せ

氣事業は到る處の河川に堰堤を設けて河水、瀑布等を涸渴せしめ、隨所に貯水池を設けて湖沼の景を破壊する。伐木や灌漑事業の如きも、同様な風景の破壊を來すのである。かうして國土を擧げて、土地産業のために、その自然美を毀け、原始の面影を奪ふならば、來るべき國民の手より、永遠に國土の自然を觀照し、研究し享樂するの機會を全く奪つて了ふことになるのである。せめては奇しくも、今日と残り残された僅かな貴重な國寶的風景の一部を區劃して、永遠に破壊の魔手から保護しようといふのが、天然保存の根本精神である。

然しながら、近世物質文明の進歩と各種産業の發達は、相俟つて、從來秘められた人跡未踏の風景地を世に出し、且つ便利にこれを利用してせしめるやうにもなつた。殊に自動車、電車、ケーブルカー等の發達は、天然公園の民衆的利用を促す所が大きかつたのである。既に述べた通り、近代の大都市の生活が都人士を驅つて自然へ歸らしめたのは、著しい現象である。そして積極的な心身の鍛練の要求から、各種野外のスポーツの發達ともなつて、それが風景地、保健地の發達を促したことも大きい。

又自然科学の進歩は學者を始めとして、一般人士に對しても自然の觀察研究の興味を起さしめて、そのために、天然風景地は現代人にと

られたのは一八九五年のことであつて、アメリカ合衆國で紐育州の立法により風景史蹟保存協會の設立されたのと同じ年である。

世界の公園と唱へられるスキス・山岳道路が開鑿せられ、登山鐵道などの敷設せられたのも、十九世紀末から二十世紀末にかけてのことである。かの世界最古の登山鐵道として知らる、リギ・バーンの落成したのは一八七一年のことであり、一、二、三、六、二一呎の高地を征服する難工事のユングフラウ登山鐵道の大成せられたのは、一九二二年のことである。然るにアメリカで有名なコロラド州のバイクス・ピーク(一四、一〇八呎)へアプト式の登山鐵道のか、つたのは一八九一年であつて、決して歐洲に遅れてはゐない。

さてアメリカ合衆國は種々の點で天然公園に就いては世界第一を誇る事が出来る。その創設の早かつたこと、その規模の雄大で、施設經營の行届いてゐることなど、いかなる國も及ぶ所でない。人口稠密な紐育州では夙に一八二〇年その州内のアヂロンダックス(Adironckas)の山岳地方を天然状態で保存せしめる法律を發してゐる。その主目的は水源涵養にあつたが、同時に野外の休養に備へるためでもあつたので、天然風景地を公衆保健のために保留する最初の記録とも見られる。續いて一八三三年にはアーカンサス州の霧泉 ホットスプリングスが療

養上に著るしい効果があるといふので、一部地方人の獨占を恐れて政府は國民永遠の享用に於てするために、周圍の土地とも一、五平方哩を區劃して保留すると共に、百萬弗を投じて公衆療養施設をなし、今日の國立公園(National Park)に先鞭をつけた。

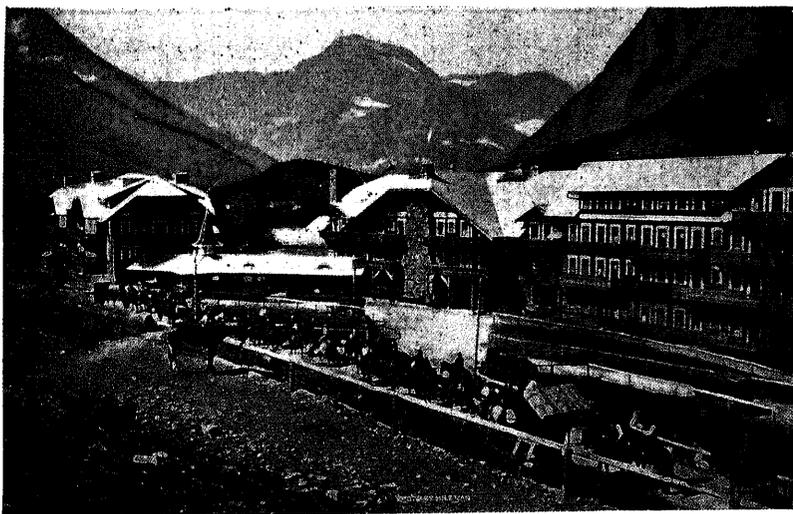
アメリカ中で最も風景の傑出してゐるとの評のあるキャリフォルニア州のヨセミテ溪谷(Yosemite Valley)の美は、夙に識者の注意する所となり、一八六五年、キャリフォルニア州はこの溪谷中で真珠のやうに美しい湖水とその周圍一哩の土地を國より譲りうけて州立公園(State Park)とした。そしてヨセミテは州知事の任命する公園委員の手で約三十年間を経過したが、後自然詩人ジョン・ミュー(John Muir)の唱道もあつて、更に大なる區域を包含する國立公園となつたのである。

紐育州ではナイアガラ瀑布が、個人の手で誤つた施設を加へられたり、或は水力電氣事業などによつて根柢から破壊されようとしたりしてゐたので、一八六七年瀑布とその周圍の土地に對する適當な取扱ひを要求せられるやうになり、一八八五年には州立公園として成立した。その頃、アメリカの植民は、ロッキー山地方に向つてその資源開拓の手が次第に伸びてゐた。そして偶々エローストン河上流を探検して今日のエローストン國立公園内の間歇泉の壯觀を發

見して、報告する者があり、續いて政府の探検隊も入つて、愈々世界的な驚歎すべき大風景であることが判つたので、一八七二年に國は法律を設けて、その火山の奇觀を永遠に保存して國民享樂の地とすべく公園に指定することとなつた。面積實に三、三四八平方哩、即ち我が國の半ばを占める大公園で、ロッキー山の脊梁に跨り、平均八千尺の高地を占め、前記世界の半數を占めるといふ間歇泉の外、溪谷、瀑布、森林、湖水、化石林、野生動物等を兼ねて、地上無比の壯觀を呈したので、この思ひ切つた大計畫は、忽ち全世界の耳目を聳動せしめるに足りた。そしてアメリカは勿論のこと、隣國カナダを始めとして歐洲各國から、南米、アフリカ等にまで、大區域に亘る天然保存とその公園的施設に就いて重大なる思慮を拂はしめるに至り、やがて各國の國立公園運動となつて現はれたのである。

續いて一八八五年にカサ・グランド遺跡が國立公園の選に入つた。けれどもこの公園は先住民の遺跡であつて、人類學上には貴重な資料ではあるが、何等公園的素質をもつてゐないといふので、後一八〇六年に國立公園政策が確立されると、天然記念物や史蹟と共に國家記念物(National Monument)として別個に取扱はれることとなり、國立公園の籍から除かれて今日に至つた。

第四十五圖



シレグ国立公園内ホテ

湖トモダクマタへ港を水の河氷方後、ひ質を嶺聳る々々嶺
より足山の山登はルテホな大障を臨に湖トモダクマタへ港を水の河氷方後、ひ質を嶺聳る々々嶺
より足山の山登はルテホな大障を臨に湖トモダクマタへ港を水の河氷方後、ひ質を嶺聳る々々嶺

さてその後の國立公園としては、一八九〇年から一九〇二年に亘る十二年間に、西部諸州にセコイア國立公園、ゼネラル・グラント國立公園

地に類似し、氷河時代の構成した驚くべき花崗岩の懸崖と、それにかゝる千數百尺の世界的大瀑布と、その上部に擴がる雪嶺地方と、三つの

園、ロッキー山國立公園、レニア國立公園及びグレート・レーキ國立公園の五つが設立せられた。このうちロッキー山は我が日本アルプス上高

たとい世界的大風景ではないにしても、我々の「二流乃至三流の國立公園が設立せられた。然

るに、一九〇六年頃からその反動として、國立公園の品位を保つために、嚴選時代に入ると共に、國立公園施設の充實のために豫算を要求して、積極的發展時代に入つたのである。同時にこの頃から國民も休養旅行やキャンピング等に興味を懷くやうになつたのである。

さて嚴選時代に入つて新たに選ばれた公園には、一九一〇年にグロシエ國立公園(Glaciar National Park)(第四十五圖参照)がある。これはロッキー山脈の最北端にあつてカナダに境し、風景の質を以てすれば、ヨセミテと伯仲すといはれ氷河の水を湛へた二百五十の山湖と六百餘の氷河と、それ等を抱く水成岩の色彩豊かな數千尺の絶壁と怪峯とで出来たアルプス的風景である。面積一、五三四平方哩でこの國第三の大公園である。次に五年を経てデンバー市に近く、ロッキー山國立公園(Rocky Mountain National Park)が現はれた。これは一、一〇〇〇尺から一四、二五〇尺を上する雪嶺を擁する花崗岩風景であつて、しかも東部諸州からの交通の便がよいので、公園利用者の數は最大である。

一九一六年はアメリカ國立公園史上最も記念せらるべき年である。この頃に至つて各公園の管理經營を統一する必要も起り、且つ國立公園の文化的價值も一般に知れ亘つたので、政府は内務省に國立公園部設置の議をすゝめ、八月

の議會に豫算を提出して無事に通過せしめた。この際公園部長の椅子に着いたのはエス・エッチ・メーサー氏(S. H. Mahan)である。メーサー氏は實業家出身で、アメリカの風景資源を糾合して組織的な經營を施すならば、立派な國家的財源を掘り出すことにならうといふので、公園事業中で重要なホテルや交通機關の經營に就いては、地方を遊説して事業家の奮起をなさしめた。そして公園經營は、種々の財源よりの収入により、獨立會計を立てうるのを目標として着々成功しつゝあるのである。

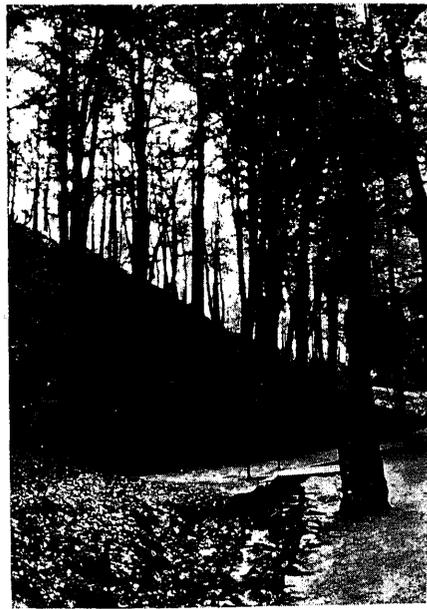
國立公園其他二つが選ばれた。グランド・キャニオンは實に浸蝕谷として驚くべき大きさの記録を有し、その地層は最古の水成岩である。併も時代毎に五彩に着色せられて層をなし、峽谷の兩側に屹立してゐる。これが今日のところ最後の國立公園であつて、その總數は十九、面積の合計は一〇、八五九平方哩で、一つの公園の平均面積は五七二平方哩、即ち約十五萬町歩となつてゐる。その利用は夏のシーズンに限られるものと、四季を通じて開園されてゐるものとある。利用者數は年々増加して居り、一九一五年に八八一、六九一人であつたのに、一九二二年には二二、六、四九〇人となつた。従つて一公園平均の利用者數は約十萬人である。そして自動車の發達してゐる國のことであるから、その利用者の内六割までが自家用自動車で入園して居り、しかもその三分の二は公衆野營場に宿泊してゐるのでいかに民衆的に利用されてゐるかが判る。一九二四年度の豫算で見ると、支出一、八三三、三三〇弗に對して公園収入は六六三、八八六弗で収入は支出の三六%となつてゐる。

次にアメリカの州立公園はどうかといふに、これは各州によつて種々の見解があつて、未だ劃一的に説明しうるやうには進んでゐない。紐ギガン州、ミネソタ州其他に宏大なものが續々現はれてゐる。殊に一九一五年には紐育州と

ニユージャーシー州とに跨つて原始的風景をもつてゐるパリーゼイズ (Paradise) 地方を保護しようとして、先のアメリカ風景史蹟保存協會の盡力で、州と個人との寄附で千五百萬弗の金を集めて、この運動に投じた。そしてこのことは全アメリカに非常な好影響を與へることとなつた。協會はこの資金で必要な土地を買収し或は寄附をうけて、今日の兩州聯立公園の基礎をなしたのである。其後各州で州立公園運動が起り、各地に州立公園が生れると、それ等の聯絡や公園經營上の知識の交換等の必要もあつて、一九二一年には、州立公園會議がワシントンで開かれ、そして毎年開催して州立公園運動を促進することとなつた。州立公園は國立公園と異なり、その選定に就いては地方的興味あるものでよく、面積も問題ではない。従つて第二流以下の風景地でもよく又史蹟や科學的興味ある地域でもよく、その候補地はこれを隨所に求めることが出来るので、急速の發展を遂げつゝある。

上述の如き公園の外、國有林や州有林或は市有林等のうちで、公園的素質をもつたものを選んで、林養施設をなし、天然公園の代用をなさしめてゐるものが少くない。その分布の廣大な點、經濟上の犠牲の少い點で、却つて公園よりも設定が容易であり、利用者も多くて、十分能率をあげてゐるわけである。殊にキャリフォ

第十四圖



圖公林森の外郊テスレド

を開の林樹葉落いしは美なうやたる植てん選で手の人く環を々人てう沿にれそ、川谷細がるれ流とらさらさ。いしは美にうやの繪はて凡、橋木たいきの氣、道歩

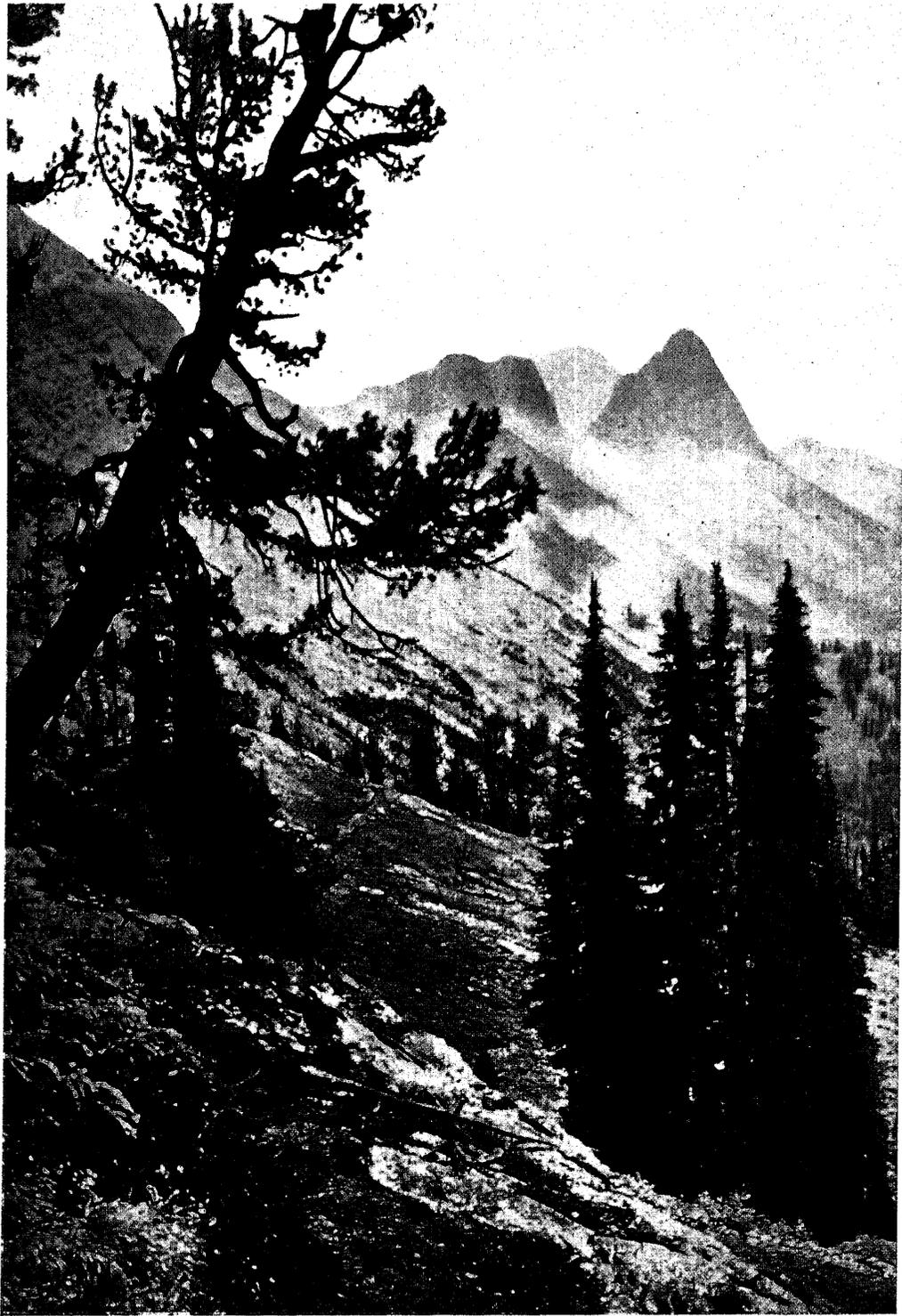
ルニア州やオレゴン州やワシントン州やコロラド州にさうした例が極めて多い。アメリカ合衆國の國立公園運動は直ちにキャナダに影響して、一八八五年 ロッキーマン山脈を中心とする ロッキーマン山脈國立公園が始めて以來、瑞西を凌駕すといふ風景地のこと、忽ちロッキーマン山脈からセルカクス山脈にかけて、大小の國立公園が起り、ジースパー國

ナダほどの大風景もなく、且つ既に開發し盡された頃のこと、新大陸のやうな大公園は起らなかつたが、それでもスウエーデンやオーストリアやスウエーデンや近くはイタリアにそれらアメリカ風の國立公園が始つた。然るにイギリスやフランスやドイツなどは小規模の天然保護區域又は森林公園などで、我慢するより外はなかつた。(第四十六圖參照)

次に我が日本に於ける天然公園はどうかと見るに、既述の白河の南湖公園の如きも一種の天然公園に相違ないが、法律上始めて創立せられたものとしては明治六年の嚴島公園を最初とする。これは日本三景の一つたる宮島を中心とする天然公園で、面積約四七五町歩を占め、今日我が國第三位の縣立公園である。次いで内容に於て、都市公園と大差なき小公園が、各縣に續出してゐる。明治十三年(一八八〇年)の設立にかゝる奈良公園は、神社を中心とするものではあるが、その周囲の施設區域とそれに隣る森林地帯を併せて面積五三〇町歩に達し、木邦第二位の大公園であつて、その公園

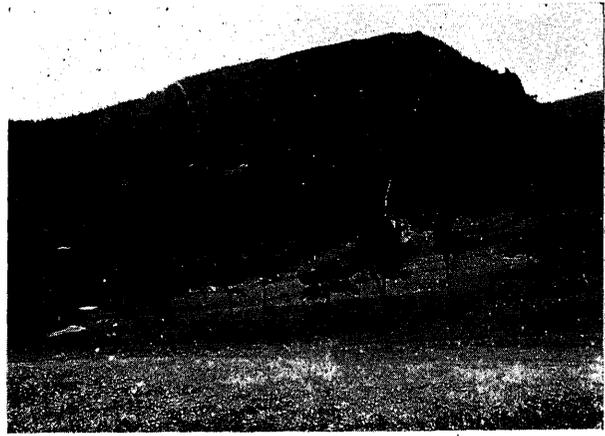
立公園 (Aspar National Park) の如く面積四、四〇〇平方哩を占めて世界第一の公園も出現するやうになつた。そして今日では總數十六、總面積九、一一七平方哩を有して、アメリカに亞ぐ大公園國となり、又州立公園にも見るべきものが多し。

歐洲では、スペースを除いてはアメリカやキャ



道歩ル・オウ・ンデーガ園公立國アシレグ

ら削で河水、り光く自書に下脚は河水、はけ行を道歩るた々坦つ穿を所高の尺千六抜海
ぬれは想れしめ映の土地、てしと離陸彩五、は々峯の岩成水たつ有な廓輪な抜奇てれ



温 泉 公 園 フ ル ゴ 場

ゆかり波つ生芝、散生す赤松、周囲を温泉水の山々、か美しう
 しばし珍に外内は場フルゴたつを境環いしは

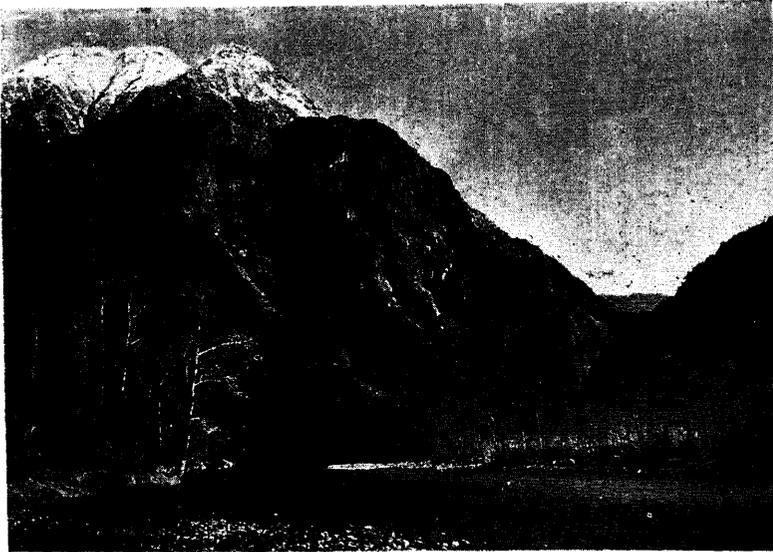
四町歩で本邦第一の大公園が誕生してゐる。下つて明治四十四年（一九一一年）には、長崎縣島原半島に温泉公園が設けられた（第四十七圖参照）。これは公園面積としては五四町歩に過ぎないけれども、周囲の國有保護林を併はせて温泉岳の廣大な山岳公園とも見られる。しかも外人客のために温泉、ゴルフ、テニス、散策等の施設を加へて、本邦にあつて獨り世界的な特色を備へてゐるので面白い。

尙ほ公園ではないが、日光、富士山麓、箱根、十和田湖等には公園に準するやうな施設が行はれて、大いに利用せられてゐる。

の質よりするも、縣立公園として相應はしいものといへる。更に遅れて明治三十七年（一九〇二年）には日本三景の一つたる松島の島や陸地をこめて面積四二四町歩の公園が生れた。續いて四十二年には改良計畫がたてられたが、そのホテルの建設費や改良費としては縣債を起したほどで、當時にありては大英斷であつたといはねばならぬ。

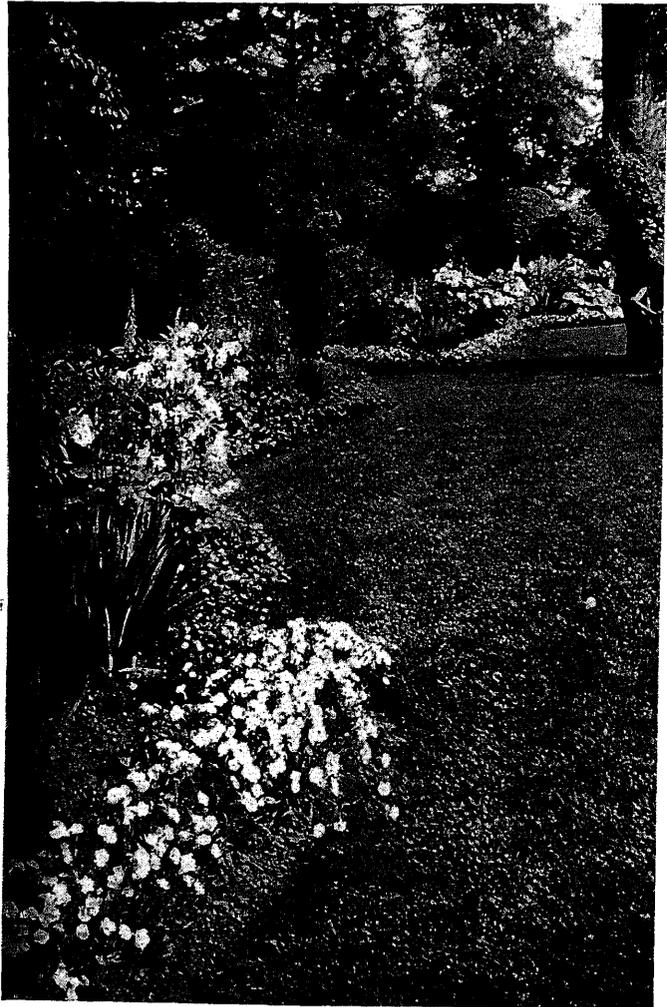
尙ほ我國の森林法では明治二十三年（一九〇〇年）風致林に關する制度を定めて、大いに森林山岳地方の風致を保護することゝなつた。遅れて大正四年（一九一五年）には國有林中風致又は學術參考上

貴重なる森林を選んで、普通施業を禁止して、公衆の教化、保健上に必要な設備をなし、登山野營等を勧めることゝなつた。殊に最近六七年來遽かに野外運動の盛大となるにつれて、此種の施設は國有林に於ても相當に重要視することとなつて來た。



日 本 ア プ ル ス 上 高 地

一ドアーハぐ仰て聖公立園テミセヨ、は山萬總のり岩岩るす立屹に尺千五のい拔を地坦平の岸兩川梓候園公立園な力有に時同りあで林護保有園が歩町萬一帯一のこは今、いしは美つ且に巖壯て似もにムるゐてつなと地帶



芝生と植込

青毛の芝生大なる芝の縁を植込の者雨のそ、その花や木を飾つて
美しは和をせ見をる

次いで大正八年(一九一九年)には史蹟名勝天然記念物保存法が制定せられ、内務省でこれが事務を執ることとなり、全国に亘つて多数の史蹟、名勝天然記念物が指定せられ、中には廣大な山岳地方も含まれて、世界にも誇りうるやうな成績をあげてゐる。

最後に、我が國には未だ國立公園は存在してゐないが、これが設置に就いては朝野の意見が一致してゐて、たゞ豫算等の關係上その實現を見ぬだけである。左に簡単にその國立公園運動の経過を記して置かう。

明治四十五年の帝國議會に對しては、栃木縣日光町長西山眞平氏より「日光を帝國公園となすの請願」が提出せられ、後れて大正十年にも野本恭八郎氏提出の「明治記念日本大公園國立の請願」といふが現はれて、富士山を中心とする國立公園を提唱して、何れも採擇となつてゐる。想ふに、日光といひ、富士といひ、本邦屈指の大風景であつて、全國民を招致しうるほどの魅力を有し、且つ多數外客をも誘致して、實質に於て一地方の公園といふよりも國家的な使命を有する大公園であるから、到底地方公共團體の經營ではその完璧を期し難く、それを國家の手に委ねるを至當とするといふのが、兩請願に共通の主旨であつたらう。果して然らば、それは洵に當然の要求であつて、共に國立公園として申分のない素質をもつてゐるやうである。

その頃政府にあつても、歐米諸國に見るやうな國立公園の施設は、國民保健教化上並に國民經濟上頗る重要なものであるとして、先づこれが適地を物色して調査を始めたのは、實に大正十年よりのことである。そしてその候補地として選ばれたものは左の十六箇所である。

- (第四十八圖参照)
- 上高地 — 白馬山 — 日光 — 温泉岳 — 阿蘇山 — 富士山 — 磐梯山 — 大臺ヶ原山及大峯山 — 阿寒湖 — 霧島山 — 小豆島及屋島 — 伯耆大山 — 十和田湖 — 立山 — 大沼

かくして政府の調査が開始せられると共に、地方ではその選に入らうとして第四十五議會から引續いて今日に至るまで請願及建議が殺到してゐる有様である。

然るに國立公園としてはその品位を保つて世界にも誇りうるものでなくてはならぬので、その選擇に就いては十分嚴重な吟味を要する筈である。尙ほ我が國立公園運動を促進せしめる目的で朝野の同志を糾合するために、中央に國立公園協會が生れ、地方にも夫々これに類する運動機關が現はれようとしてゐる。

要するに我が國の國立公園は未だ誕生期であるが、道府縣立公園に就いては、既設のものを整理し改良し、更に各地方に増設して、都市公園

園、縣立公園、國立公園の區別を明かにして、系統的な計畫をすゝめる必要に迫られてゐるのである。

第六章 植物材料と 其取扱法

第一節 芝生其他

一 芝 生

(1) 芝生の效用 芝生の生命は其美しい鮮綠と柔かで滑らかな肌觸りと冷やかな感じに在る。そこには生々とした晴々しさ、すつきりとした如何にも輕快な感じがある。従つてこれに對すれば人の心は自ら快潤となり、ゆつたり落着いた氣持になる。又色々な造園局部は芝生を背景としてその美しさを加へるので、芝生は實に家や花卉や樹木などを配する畫布であり、模樣を引立たせる地である。

野芝は山野に自生するもので、其葉は粗剛であるが性質が強健であるから、運動場、遊戯場等の芝生に適する。又雑草に強く日陰にも比較的耐へ、手入れがよければ外觀もなかくよい。但し手入れを怠ると、直ぐ野性を發揮するから、注意せねばならぬ。

次に高麗芝は畑地に栽培されるもので、其葉は野芝より遙かに柔軟且繊弱である。従つて外觀は宜しいが、日陰に耐へる力が弱く、雑草にも負け易く、踏まれ勝ちな所では育ちにくい缺點がある。關西地方で中芝といふのはこの高麗芝を指すので、謂ふ所の高麗芝はキヌシバ或はピロウドシバのことである。

キヌシバ、ピロウドシバ等は高麗芝の更に改良されたもので、外觀は一層美はしいが、管理が困難なため、一般庭園用としては推賞し難いものである。

西洋芝 は數種の牧草を混合したもので、その性質は柔かで管理さへよければ、年中綠を呈してゐる。普通「ケンタッキーブルーグラス」「ロードアイランドベント」「ノール」ツドトップ」「二」「ホワイトクローバー」「一」の

會を催すことも出来る。其他夏の強烈な光線を柔らげ、乾燥を緩和し、塵埃を防止し、豪雨や霜柱などのために土砂の流出、崩落するを防ぐ等の効果がある。

斯様に芝生は眺めて美はしい上に、特に所謂

西洋芝である。

日本芝 には野芝、オニシバ、ヒゲシバ、オホシバ、イヌシバ、高麗芝、ピロウドシバ、ヒメシバ、イトシバ、キヌシバ等があるが、其中最も普通用ひられるのは野芝と高麗芝である。

割合で混合播種して芝生を作つてゐるが、管理には周到な取扱ひを要し、實用上日本芝に及ばないやうである。

(八) 芝生と氣候及土壌 芝は温、暖帯中は何處にも成育する。土壌も乾濕極端な場所の外は何れの土地にも繁殖する。但しその成育は土質により異なるので、最適土は濕潤に過ぎず、質もかなり濕氣を有つた粘質土、又は粘質の心土を少しく混じた壤土である。

次に芝生は極めて陽光を好む草本であるから樹蔭や建物の北側を避けて植栽せねばならぬ。就中高麗芝其他數種の改良芝は、その弊が最も著しいから特に注意を要する。

(二) 芝生の作り方 芝生の作り方には張付法、植付法、播付法の三つの方法がある。

張付法 は日本芝に普通行はれる方法で、芝商から土着きの儘購入して張付けるのである。張付ける場所は、豫め地拵へをする。即ち先づ土地を深さ五寸乃至八寸位に耕し、木石片雜草根その他の根株を取除く。そして土地が瘦せて居れば、腐熟厩肥、堆肥、油粕、米糠等の肥料を適宜鋤き込む。その上で凹凸のないやうに均らし、若し水の停滞する憂ひがあれば、排水法を講ずる。

かうして地拵へが済めば、その表面又は別の所から肥えた細土を採つて目土として用意して置く。次に芝を張り付けるには、なるべく目的地

が連続しないやうに心掛ける事が必要である。張れば目地に目土を入れて芝を落着かせる。尙實際芝の持ち上つてゐる所は植で叩きつける。そしてあとで降雨がなければ灌水する。

張芝の季節は、嚴寒を除けば何時でも差支へないが、入梅前及秋九月頃が最もよろしい。

植付法 は普通芝生の縁を切取つたもの、或は土着きの芝の土をはたき落して三四寸の長さに切つたものを用ひる。

植付る土地の地拵へは、張付けの場合と同様で、地拵へを終つたら其上に幅五寸位の浅い畦を立てる。そして三四寸位の長さに切つた根莖を畦に従つて二三本づつ、斜めに挿すやうに植付ける。株間は三四寸位、植付季節は三四月頃が最もよい。

播付法 は主として西洋芝に行はれる。播種する場所の地拵へは、張付けの場合と同様で、播付けは降雨後土地の落着いた時がよい。種は軽くて飛散し易いから、砂又は細土に混ぜて撒布する。

播付けを終ればレーキか竹箒などを曳き廻して、種子と土とを定着させる。そしてその上に藎をかけて、發芽を待ち發芽したら藎を去つてローラー又は丸太を廻轉して表土を壓着する。播種の最適季節は三四月又は九月頃である。

(ホ) 芝生の管理 芝生の管理は周到を要する。管理上先づ第一に必要な事は雜草驅除であ

る。雜草の繁茂は芝生の成育並に外觀を害すること多大である。雜草は普通抜き取るのであるが、それには雨中又は雨後土地の柔かになつてゐる時、竹箒又は小鎌等でするので、時期は早春雜草の結實前が最もよい。次に必要なことは芝刈及土地の締付である。これは芝生の美しさを保つ上から最も必要なことである。芝刈りは芝刈機又は利鎌を用ひ、廣い平地ならばローンモアを用ひる。回数は年二回乃至六回位で多い程よい。

次に芝地は適度に踏み歩か、ローラーを引き廻して締付けることが必要である。これは特に西洋芝及野芝に必要で、刈込と同時に適度に行へば枝葉は緻密となつて、理想的な美觀を呈するに至るのである。更に芝生の手入としては施肥及灌水が必要である。施肥は普通二年目乃至三年目毎に一回づつ行ふ。芝生の肥料としては各肥に油粕、過磷酸石灰、海鳥糞、木灰等を、夏肥に智利硝石、硫酸アンモニア等を施すので、その施用法は、冬肥はその儘、夏肥は三十倍位に稀釋して施すのである。その他早天には灌水を要するが、これは過濕にならない程度で、十分施すこととしてゐる。次は芽かくし及切替をする。芽かくしとは芝生の表面に細土を振りかけて根の洗ひ出されたのを補ふことで、その際振りかける土に肥料を混ぜて置けば、理想的の施肥ともなる。芽かくしは又芝地の凹凸

を直す手段とすることが多い。時季は芝生成立後、二、三年置きに二月頃に行ふ。かくして七八年後には芝生の厚さは五六寸にも達するから切替へをする。

切替へは、長さ一尺二寸幅六寸位に切れ目を入れ、厚さ一寸前後に上層を切り取り、残つた下層の芝の根莖を掘り捨て、同時に油粕、魚肥等を切り込んで、地均しをし、これに最初切取つた上層を張付けるのである。次は病蟲害驅除であるが、芝生の害蟲には直接の害蟲として根切蟲線蟲等があり、間接には蟻及土龍等がある。根切蟲及線蟲は、熊手やうのもので掻き起して、轉け出した所を捕殺したり、或は早朝地上に居るところを見付けて捕殺するのである。又蟻には穴に石油乳劑、二硫化炭素又はクレゾール石鹼液等を水で薄めて注入し、土龍には土龍取器で捕殺するか、穴に二硫化炭素を注ぎ込む。

次に芝の病氣としては赤枯病があるが、大したことではない。豫防法としてはボルドウ液を數回に亘つて撒布するのである。最後に張替へも管理の一要項である。これは芝生が全くいけなくなつた時に行ふ方法で、それには一度全部表面を剥ぎ取り、地表七寸乃至一尺の深さに耕し、雜草根を拾ひ取り、肥料を敷込み、張付けの場合と同様にして張付けるのである。

龍の鬚は芝生に次いで多く使はれる地被植物で、耐陰耐濕性に富み、冬季と雖もその緑を保つものである。併もその色は美はしく、あまり手入れを要しない等の特色を有つてゐる。故に常に芝生を採用し難い場所に代用せられる。その極端な場合は、軒下の雨滴の落ちる所にさへ植ゑられる。

龍の鬚は林野に自生してゐるものを採集俵裝して持ち出すので、一株六七本植ゑ、株間を三四寸の正方形とすると、右一俵で約一乃至二坪に植ゑ出すことが出来る。植付法は極く簡單で地拵へとしては四五寸の深さに耕し、所要の株間につき挿して置けば十分である。普通雜草に負けることはないが、十分繁茂しない中は、雜草の下に隠されることがあるから、雜草驅除を怠つてはならぬ。

クローバーは一種の牧草であつて、その葉は柔かで美はしく、その發育は旺盛で、併も比較的濕地や日陰地にも成育し瘠地を肥やす等、庭園の地被用として特徴をもつてゐる。繁殖は主として播種法による。播付け場所は芝生の場合と同様に、地拵へをし、これに厚薄ないやうに播種し、よく種と土とを掻き混ぜ

三 クローバー

て、その上を軽いローラーか、丸太を轉ばして、地面を落着かせる。さうして若し乾燥するやうであれば、時折灌水する。

かうして發芽し伸び初めるが、伸び初めたならば絶えず伸び過ぎない中に、刈込めば、葉柄も短かく葉は細かく外觀の頗る美はしいものとなるのである。

四 薺 苔 類

薺苔類は非實用的な點で、餘り推賞出来ないものであるが、京都地方のやうに、その發育が極めてよく、外觀も比類なく美はしい場合は、庭の一部特に書齋、老人室又は中庭等に採用して、立派な効果を示すものである。

薺苔類の種類としてはスギゴケ、クサゴケ、ミヅゴケ、ゼニゴケ等があるが、最も普通用ひられるのはエイザンゴケである。それ等の選擇は自然の致へる所に従つてするがよろしい。

繁殖法は苔をそのまゝ張付ければよい。さもなくば土地の表面をかき起して置いて、その上に削り取つた苔を少し乾燥したところで、細かに揉み碎いて砂土を混ぜて振りかけ、よく灌水するのである。

五 其他の地被植物

羊齒類、スゲ類、ツハブキ、キチジサウ、ハラン、ヤブラン、カンノンサウ、シヤガ、セキセウ、ミヨウガ等の草本、センリヤウ、マンリヤウ、ヤブコウジ、ソナレ、クマサ、ブンゴザサ等の小灌木類を群衆に植栽し、地被用として利用することがある。そしてこれ等の多くは、強い耐陰性の植物であるから、芝生の育たないやうな所に用ひて、良結果を齎らすことが多い。

第二節 庭木

一 庭木の種類

古来庭木として知られたものは、實に無数であつて、その總てを挙げることは、到底困難である。そこでここでは最も普通に見られる種類を分類して挙げるに止める。

喬木類

一、常緑種

(一) 整型

スギ類、ヒノキ類、サハラ類、マツ類、カウヤマキ、カヤ、モミ、ツガ、カウエフザン、イヌマキ、タウヒ、ヒマラヤシーグー、シユロ、ソテツ、タケ

(二) 不整型

美しい樹冠を有するもの

林學上では温度の條件によつて林木の分布を熱、暖、温、寒の四帯に分けてゐるが、我國の大部分は暖温兩帯であるから、茲では庭園主要木をこの兩帯によつて分けて置かう。左に掲げるものは、暖帯には成育するが温帯には不完全なものゝみであつて、これにもれたもので先の分類表に掲げられたものは、悉く造園上では暖温兩帯に栽培し得るものである。

ソテツ、イヌマキ、シユロ、バセテ、カシ、シヒ、タブ、クス、ユズリハ、モチ、モツコク、カナメモチ、アカメガシハ、ヒサカキ、ザクロ、サイカチ、イチヂク、サルスベリ、クチナシ、ヤツデ、アチキ、ナンテン、ケウチクタウ、センリヤウ、マンリヤウ、ヤブカウジ、タケ類

これによつて分る通り、温帯では常緑闊葉樹が殆んど成育しないといふことは、技術上誠に困難を感じる所であるが、温帯でも比較的安らかな種類を挙げれば、次のやうなものがあ

ソヨゴ、マサキ、ツゲ、ツ、ジ、シヤクナゲ、ツバキ、イヌツゲ、モクセイ、ヒ、ラギ、タラエフ、シヤシヤンボ、アセビ、シラカシ、サカキ、アチキ

次に庭木は種類によつて光線を多量に要するものとさうでないものとある。林學上では前者を陽樹後者を陰樹といつてゐる。この陰陽性には幾つもの階段がある。それは植込等を造る際

カシ、シヒ、モチ、モツコク、ユズリハ、サンゴジュ、サカキ、クス、タブ、マサキ、ヒラギ、ヒサカキ、タラエフ、クロガネモチ、ネズミモチ
美しい花又は香を有するもの
タイサンボク、ツバキ、サザンクワ、モクセイ

二、落葉種

(一) 整型

カラマツ、イテフ、ラクヨウシヨウ

(二) 不整型

葉に特徴のあるもの

(イ) 大葉のもの

アチキ、アカメカシハ、キリ、キサ、ゲ、ホ、ノキ、イチヂク、バセテ、カシハ、トチ、ハリギリ

(ロ) 美しく紅葉するもの

カヘデ、ハゼ、ウルシ、カキ

(ハ) 美しい葉簇を有するもの

センダン、ムクロジ、ネム、ブラタナス、ハンテンボク、ミヅキ、サイカチ、ナラ、ハンノキ、クスギ

美しい花のあるもの

サクラ、モクレン、ウメ、モ、コブシ

樹姿に特徴あるもの

ケヤキ、ボブラ、サルスベリ、ナツ、バキ、ヤナギ、ギヨリウ、フヂ

灌木類

一、常緑種

(一) 整型

美しい樹冠を有するもの

チャ、キアラボク、ビヤクシン、ツゲ、イヌツゲ、イブキ、コノテガシハ、アスナロ、ヤツデ

美しい花又は實のあるもの

クチナシ、ジンチャウゲ、ツ、ジ、グミ

(二) 不整型

美しい樹姿を有するもの

ハヒビヤクシン、ツタ、カヅラ類、ピラカンサス

美しい花又は實あるもの

アチキ、ナンテン、センリヤウ、マンリヤウ、ヤブカウジ、ケフチクタウ、シヤクナゲ、ナンテン

二、落葉種

美しい花又は實を有するもの

カイダウ、バラ、フヨウ、ハギ、ヤマブキ、サンザシ、ボタン、ボケ、エニシダ、レンゲウ、ニハウメ、ベニウツギ、アヂサキ、ユキヤナギ

美しい葉と樹姿を有するもの

ツタ類、カヅラ類、ニシキギ、マユミ、ドウダン

二 庭木と氣候及び土壤

第四級 陽樹

スギ、クスギ、ヤナギ、ナラ、カシハ、クロマツ、アカマツ、ケヤキ、クリ、コノテガシハ、センダン、ウルシ、ハゼ、イテフ、ニセアカシア、アチキ、ハヒビヤクシン、ネムノキ、ハンテンボク、ハナズハウ、マンサク、サンザシ、バラ、ウメ、モ、クワリン、ハギ、ムクゲ、カキ、ハクウンボク、サルスベリ、キサ、ゲ

第五級 強陽樹

カラマツ、シラカバ、アカメ

カシハ、キフデ、ヌルデ
次に土壤との關係に就いても夫々の適木があるが、これは比較的影響せられることは少ない。以下主なる庭木に就いて述べて置かう。

(イ) 最も瘠地に堪へるもの

アカマツ、クロマツ、ニセアカシア、カバ、ソナレ、ネム、ヤナギ

(ロ) 最も肥沃地を好むもの

ケ、キ、カシ、ニレ、モミヂ

(ハ) 最も濕潤地に堪へるもの

ヤナギ、ハンノキ、シラカバ、サハグルミ、ミヅキ、ヒノキの品種、ネズミモチ、イヌ

(ニ) 濕潤地に適するもの

アセビ、クロマツ、モミ、クスギ、ケヤキ、エノキ、ムクエノキ、クルミ、サカキ、シ

(ホ) 最も乾燥地に適するもの

ヒ、カナメモチ

アカマツ、カラマツ、シラカバ、ニセアカマツ、ハシノキ、ヤナギ、ツ、ジノ類
 (ハ) 最も堅密な土壌に適するもの
 ニレ、クリ、ハンノキ、アカマツ、ニセアカマツ、クロマツ
 (ト) 最も堅密な土壌に適するもの
 モミ、カラマツ、ケヤキ、クヌギ、コナラ、タウヒ

(チ) 最も強き傾斜地に適するもの
 ヒメコマツ、ヒノキ、スギ、モミ、ツガ、アカガシ
 (リ) 緩斜地を好むもの
 ケヤキ、クロマツ、ナラ、シラカバ、サハクルミ、クス、サハラ

(ヌ) 深根性
 クヌギ、カシハ、クリ、コナラ、ケヤキ、モミ、カシ、ツバキ、アヲギリ
 (ル) 元來深根性で中年以後直根の伸びないもの
 ハンノキ、カラマツ、アカマツ、クロマツ

(ヲ) 浅根性
 ニセアカマツ、ヤマナラシ、ドロヤナギ、タウヒ、ヒノキ、サハラ及其品種、カヘデ、ウメ、サクラ

庭木の主な用途は、



庭木の主な用途は、
 庭は林園の上の丘、くよ子園は庭のゲナクヤシな深大の邊水。るるんでん庭植くは美をと丘と池たつをも形地な和平。るるてへ加を觀外のさ高のモ

一、鑑賞又は裝飾
 二、日射通風の調節
 三、塵埃煤煙等の阻止

四、防火
 五、附近又は邸内の醜惡なもの、隠蔽
 六、生垣

等であつて、その用途によつて夫々適種がある。以下夫々の用途に適する樹種を擧げて置かう。

一、裝飾用樹又は鑑賞用樹

常緑種 ヒノキ及び其品種、サハラ及び其品種、カウヤマキ、マツ及び其品種、カヤ、モミ、ツガ、ヒマラヤシダー、カナメモチ、シユロ、ソテツ、タケ、カシ、シヒ、モチ、モツコク、ユヅリハ、マサキ、タラエフ、タイサンボク、ツバキ、サバンクワ、モクセイ

落葉種 カラマツ、イチヂク、アヲギリ、エノキ、バセラ、イチヂク、トチ、ネム、ホ、ノキ、プラタナス、ナラ、カシハ、サクラ、ウメ、モクレン、コブシ、ケヤキ、ボブラ、

サルスベリ、フヂ、ヤナギ、カヘデ

常緑種 チヤ、キヤラボク、イブキ、ツゲ、イヌツゲ、コノテガシハ、クチナシ、ジンチヤウゲ、ツ、ジ、サツキ、グミ、ヤツデ、ハビヤクシン、アヲキ、ナンテン、ケフチクタウ、ヒ、ラギナンテン

落葉種 サンザシ、ヤマブキ、ハギ、アヂサキ、ツタカヅラ、ニシキギ、マユミ

アヲギリ、トチ、キリ、キサ、ゲ、ホ、ノキ、イチヂク、センダン、プラタナス、ケヤキ、カヘデ

アカマツ、クロマツ、ヒノキ、マキ、カシ、シヒ、サンゴジュ、クス、タブ、ツバキ、ケヤキ、エノキ、タケ類

ヒサカキ、オホシマザクラ、ニセアカシヤ、ツバキ、モチ、サカキ、マサキ、クス、シヒ、マテバシヒ、タブ、サンゴジュ、カシ、イチヂク、カヤ、マキ、ヤツデ、アヲキ

サンゴジュ、ユヅリハ、ヒメユヅリハ、モチ、ヤツデ、カシ、シヒ、タブ、ツバキ、モツコク、カウヤマキ

カヤ、ツガ、タウヒ、イチヂク、タンエフシウ、カウヤマキ、テウセンマツ、カラマツ、ヒマラヤシダー、カマクラヒバ、チャボヒバ、クヂヤクヒバ、イトヒバ、ヒムロ、シヒ、モツコク、カシ、モチ、ツバキ、カナメモチ、サンゴジュ、ユヅリハ、ラカンマキ

スギ、ヒノキ、サハラ、ヒバ、カナメモチ、マキ、マサキ、サンゴジュ、カシ、カラタチ、シヒ、モチ、ネズミモチ、ヒサカキ、ピラカンサス、ツゲ、ムクゲ、ビナンカヅラ、ムベ、ツルグミ

(一) 植栽法
 庭木の植込は決して一本宛の庭木の美観のためではなく、他の庭木に對して或は建築や芝生や花壇やその他一切の庭園局部のために、如何に植栽して美はしい全體としての構造を造り出すべきかを考へるべきである。従つて植込は孤立木の場合であつても、それはその木の美観のみのためではなくて、全體の美的構造のための一局部となるやうでなくてはならぬ。

さて植込の構成に就いては第一に植栽型の選定を必要とする。植栽型には次の四つの種類がある。

(イ) 自然的植栽型 これは一切を自然に習ふ

(ロ) 理想的植栽型 これは全然自然を離れず、併もその間に美はしい形式を表はさうとする方法で、植栽の距離や配列や樹種を夫々設計家の理想に準據して工夫するものである。

(ハ) 便化的植栽型 或特定の實用や裝飾のために制限された形式に植栽する方法で、多くの圖案的な結果を表はすものである。然しその圖案は多少でも自然を便化した面影を残してゐなければならぬ。

(ニ) 建築的植栽型 これは全然ある實用や裝飾に基き、殆んど自然の法則に従はないで同一樹種を等距離に一直線上に植栽するなどの方法である。

植栽型を決定したなら、次は庭木相互間の關係を如何にするかといふ配植法に就いて考へねばならぬ。配植法は大別して不規則なもの、規則正しいものとする。

不規則な配植法—自然的植栽、理想的植栽、便化的植栽は總て此方法による。一例として理想的植栽を作る場合を擧げる。色々な形や色彩を有する庭木を同一場所に植込む時、夫等各庭木間の關係形式を最も美はしからしめようとする方法である。即ち二本又は二群を取扱ふ時は、常に形、大いさ或は性質に於て互に異なり、併もある點に於て共通なものを組合はせ、二本

又は三群以上の場合は主となるべきものに對して、その美觀を補佐し助長する爲に同趣味の副を配り、その主副に對して最も著しく性質の異なる客を對立せしめ、この三つを以て大體の骨組とし、奥行の外観を與へたり下方を修飾したりその配置を整へたりするために控や前置や見越を配置するのである。次に主木として適當な種類を列擧して置く

マツ、カヤ、モミ、ツガ、カウヤマキ、ヒマラヤシダー、コウエフザン、イテフ、クス、シヒ、カシ、モチ、タイサンボク、タブ、ツバキ、サクラ、ケヤキ、エノキ、ムクエノキ、カシハ、ナラ

規則正しい配植法—これは大別して並木と生垣とにすることが出来る。此方法は同一の樹種、樹型のもの等を距離に植栽してゆくの原則であるが、その目的によつて二列又は互の目植とし、或は上下數段に分ち又交代反復などするのである。而してその際は樹種の陰陽性に就いて十分考察しなければならぬ。

並木としてはなるべく長く整型を保ち、刈込にも耐へるものを理想とし、その植栽距離は不定であるが、三四尺から九尺を普通とし、時としては二三間にもする。次に並木として適當な樹種を擧げて置かう。

針葉樹 イテフ、ヒノキ、サハラ及其品種、コノテカシハ、マキ、カウヤマキ、カウエ

第五十圖



ラバルツと廊縁

次には生垣は普通同種のみを植栽するのが常であるが、場合によつては混植しても、美はしい結果を得ることがある。例へばサバンクワ、ヒラギ、マサキ等を混植したもののドウダン、ツツジ、カヘデを混植したもの。或

はモッコク、トベラ、ジンチャウゲ、バラ、ツツジ等を混植したものなどは優美なものである。又カシやスギで上段を作り下段はマサキ、ネズミモチ等の低い生垣として、上下二段を併用するものなどもある。

(二) 移植法 庭木の移植に就いて、適當な時季と方法を誤る時は、枯死せしめることが多い。就中一ヶ所に長年月居着いてゐた庭木は、最も困難であるから、これ等は移植に先づて根廻しを施し、適期に移植する必要がある。

根廻しとは移植の二三年前に、樹木の根元直径の三乃至五倍を直径とする圓を描き、その内部を掘り下け、主なる根數本を残して他を全部切去り、残した主根も剥皮して細根の發生を促す仕事を云ふ。根廻しと同時に枝葉を十分切り透して根の損失に應じてこれと鈎合はせ、同時に支柱を施して風害に備へる。根廻しの時季は落葉樹は十一月から四月下旬迄、常緑樹は厳寒極暑を除いて何時でも差支へない。根廻後移植迄の期限は一年乃至三年を最適とする。尙大木の根廻しは二年に亘つて半分宛行ふこともある。

次に掘取りに就いて最も注意すべきは其時季である。移植の時季は大體根廻しと同様で、あらゆる樹種は東京附近ならば二月から四月下旬、就中三月中旬から四月中旬迄、即樹木の發芽する直ぐ前が最もよろしい。従つて九

フザン、ヒマラヤシダー、モミ、カヤ、マツ、タンエフシヨウ

モッコク、カシ、シヒ、モクセイ、マサキ、ヒ、ラギ、サバンクワ、サクラ、ホ、ノキ、トチ、ケヤキ、エノキ、ムクエノキ、ニセ

州四國邊では東京より一ヶ月早く、東北地方では東京より一ヶ月遅れる。又北海道は五月初旬から六月初旬迄が適當である。

次に常緑樹は入梅頃迄、及秋九月下旬から十一月末迄差支へない。唯寒さをきらふもの例へばシユロ、ケフチクタウ、クス等を秋植にした場合は、寒害を豫防する必要がある。

掘取りは落葉樹では新芽の出る前であれば、大抵土をはたいて危険はないのであるが、其他の場合及常緑樹に在つては鉢土を着けねばならぬ。而して鉢土を着ける場合は、これを太い藁縄で巻いて鉢の崩れるのを防ぐのである。尙掘取りと同時にその根の害はれた程度に應じて、枝葉の切込を行ふことは根廻しの場合と同様である。

さて植付に就いては先づ植穴を掘るのである。穴は鉢土より少しく大きくし、土地が悪かつた時には他の肥沃土を入れ換へるのである。次に植付けて土を埋める際にはマツ、ツ、ジを除く外は、大方水極めとする。尙植込の深さは移植前と同様にし、植終れば完全な支柱を施さねばならぬ。その方法には左の數種がある。即ち、

- 一、鳥居形支柱
- 二、富士形支柱
- 三、三脚支柱
- 四、暖簾法

- 五、長丸太支柱
- 六、鐵線吊法
- 植込後の養生としては、蟲害や皮燒等の豫防の爲、その幹に粘土を塗るとか新聞紙で包むとか或は杉皮や藁を巻く必要のあることがある。最後に移植した木が枯損する主なる原因は次の通りである。
- 一、老木又は衰弱した木を移植した時
- 一、根廻しが必要なものにこれを省略した時
- 一、移植の時季を誤つた時
- 一、移植前後の立地の關係が著しく變つた時
- 一、あまり過度に根や枝を剪定した時
- 一、移植中根が日光や風に曝露した時
- 一、深植るとなつた時
- 一、根の周圍の土が根に密着してゐなかつた時
- 一、木が風に揺られて根のゆるんだ時

五 植込及生垣の管理

- (一) 苗木の仕立法 庭木の苗の仕立方を大別すると、
- 一、實播法
- 二、挿木法
- 三、接木法
- 四、壓條法
- 五、根分岐法
- 六、株分け法

の六種類とすることが出来る。

實播法 他の方で繁殖出来ないものに行ふ方法で、

マツ類、モミ、カヤ、シーダー、カシ、シヒ、モツコク、ナラ、ホ、ノキ、コブシ、エノキ、ハクウンボク、シユロ、マンリヤウ、ハンテ、ンボク、トベラ、シヤリンバイ等は此方法によることが多い。季節は種子の成熟した時直ちに播種するか、或は翌春迄貯蔵して四月前後に播種する。一般に粒の大きなものは貯蔵困難なものが多い。

挿木法 一般に樹皮の軟かで薄いものに適する。最も普通行はれるものは、スギ、ヒノキ、サハラ、コノテガシハ、ビヤクシン、ヒバ、イヌマキ、ツバキ、サバンクワ、モチノキ、ツゲ、ヤナギ類、サンゴジュ、カナメモチ、ローレルノキ、マサキ、バラ、クチナシ、ピラカンサス、ツ、ジ、ドウゲン、ニクゲ、ヤツテ、アチキ、シーダー、イヌツゲ、ギヨリウ、サルスベリ、ジンチャウゲ、アデサキ

等で其季節は早春が普通であるが、ヒバ、ツバキ、サバンクワ、ツ、ジ等は五月下旬から七月上旬の方が好成績である。

挿木は二三年生の枝を七八寸乃至一尺に切つたものを用ゐる、穴は豫め棒であけて置いてそれに全長の約三分の二を挿し込み、十分足で踏

み付け穂元と土と密着させるのである。

接木法 血潮楓、梅等の園藝品種の繁殖に行はれることがあるが、一般庭木に行はれることは少ない。時期は三四月頃である。

壓條法 種子を結ばないものや挿木の困難なものに行ふ。枝條を掘り上げて地上に下し、その上に肥土を三四寸にかけ、土中の部分を二三ヶ所に利刀で傷つけて置き、地下の部分から根の出た際、親木から切離すのである。

根分法 苗木の根又は立木の上根をとつて床の中に埋めて發芽させる方法で、キリ、シンジュ、カキ、サクラ、ニセアカシア、ツ、ジ、フヨウ、アデサキ、ボタン、シヤクヤク、サンザシ、ザクロ、アチギリ等は是によることがある。

株分法 株に沿つた側根から出た蘗に土をかき、根を生ぜしめて後分ける方法でニセアカシア、キリ、シンジュ、イチブ、カツラ、キサ、ゲ、アチキ、カイダウ、ツ、ジ、バラ、サルスベリ、ニハウメ等に應用する。

(二) 整姿法 庭木の整姿法を大別して次の四つとする。

(イ) 自然的整姿法 自然材料をとりその樹の個性に従つて整姿するので、所謂自然の意志を尊重する態度である。即ち木の表を表に向け、その枝の伸び方等も従來の通りにして、その植物の天性をどこ迄も發揮せしめようとするものである。

生垣刈込時季は發芽して新芽が少し伸びた頃を最も理想とする。即ち四月末及八月末であるが、若し年一度とすれば六七月の入梅中が宜しい。又花物の刈込は、落花後直ちにすることがよい。

生垣の管理上特に留意すべきことは剪根のことである。即ち生垣の兩側三尺の距離で屢々根切りをして細根の發生を促すのである。而してその際油粕、米糠、過燐酸石灰等の肥料を施せば最も宜しい。

次に併用生垣としては在來の日本の生垣が多くはそれで、その併用の目的は竹垣を生垣用樹木の支柱として利用するにある。吾國の生垣の特色は樹間距離が小さく所定の高さまで摘梢しないこと、その型は垂直式である點である。

従つてその發育は不良で、下枝を早く失ひ、併も早く枯死するのが常である。強ひて其長所を求めらば、所定の高さに早く達し、地積を多く占領しないことである。

最後に混植生垣は美觀の點に於て秀れてゐるが、生育上に不結果を見ることが多い。

(四) 施肥及灌水 庭木は果樹や花卉程施肥の必要はないが、生々とした美觀に接しようとしたり、早く成育を遂げしめようとしたり、或は移植當時、衰弱した時などには必ず必要である。

(ロ) 理想的整姿法 その用途に向つて素材の形姿をため直して、新たな型に容れようとするものである。そこで枝條を剪断したり幹枝をためたり、葉を透かせたりする。然しどこ迄も植物本來の性質を失はしめるやうなことはしないのである。

(ハ) 便化的整姿法 理想的整姿法にあつては吾々の意志によつて植物を改造しようとしたけれども、それは決してその本性を奪ふ程度に達しなかつた。然るに吾々は或圖案的な便化的な用途に對しては、植物の個性は反つて邪魔になるから個性を没却して類型的なものにしようとするのである。その法に二通りの區別がある。

第一は剪定整枝の方法で、例へばマツから能舞臺の背景に見るような三蓋松を造り出したりキヤラボクやイブキを玉物に刈り込む等がそれである。次に第二の法は新たに類型的な便化的な品種を造り出すことであつてヒノキからカマクラヒバ、スクリウヒバを導いたり色々の斑入りを作り出したりすることである。

(ニ) 建築的整姿法 これは材料の植物たる取扱ひを認めず、恰も石材か木材かのやうに四方形や圓錐形や球形等に刈り込む方法である。生垣等は此整姿法によることが多い。

(三) 生垣仕立法 生垣の種類を分けて次の如くする。

一、普通生垣

肥料には速効性肥料と遲効性肥料とがある。速効性肥料には人糞尿、智利硝石、硫酸アンモニア、過燐酸石灰、灰類等があり、是等は夏土用芽の出る前などに與へるが普通である。又遲効性肥料には堆肥、米糠、魚肥、油粕、豆粕等があり、その理想の施用季は晩秋から二月初旬頃迄の間である。

施用法としては遲効性肥料は普通枝先直下に深さ三、四寸乃至七、八寸の溝を掘つて施用覆土し、速効性肥料は樹下全面を掻き起して一面に施用覆土する。乾燥してゐる時は灌水してから施肥するがよい。

次に移植後、一、二年は灌水が必要である。而して一度灌水を始めたならば、降雨のある迄は続けなければならぬ。灌水の方法は根の先端の所を圓形に三四寸の深さに穿つて、十分多量に施す。然し庭の中で掘り起すのが不體裁な場所では、直徑三、四寸位の土管を縦にさし込んでそれから灌水する。

(イ) 根元の耕起及置土 地下の空氣の流通をよくする爲、根元周囲は時々淺く耕起して置く。又傾斜地等で土が流出する所では、時々覆土をして根の露出を防ぐのである。

(ロ) 防雪 高い丸太を幹に添はして立て、枝端をそれに釣つて積雪の重味の爲に、枝幹の割裂するのを防ぐ。

(八) 防風 暴風の爲には平素枝條を適當に剪定して置く外に、各種支柱を施す。

(九) 皮傷及凍傷 移植した時普通葉、新聞紙、土等で幹巻きをすることは既に移植の條下で述べた。次に暖地の植物を寒地に移した時には凍傷にかゝることが往々にしてあるから、冬季幹に藁を巻き根元には藁を敷込んで置く。

(十) 傷害 移植その他の爲に生じた傷害は、その傷口を丁寧に削つて上にタールを塗つて置く。太枝や梢などでは更に亜鉛板の帽子をかぶせて置く。

(一) 空洞 何等かの原因で幹に空洞を生じた時には、その腐朽部を削り取り、白ペンキを塗るか或は消毒した上セメント(セメント一、砂二)を填充して置く。

(二) 結實過多 樹木が衰弱すると結實を多くすることが多い。故に花や實はなるべく摘除し、同時に速効性肥料を施して置く。

(三) 分蘗除去 老木になつたり危害を蒙つたりした時には、根元から分蘗するものである。そのまゝにして置くと、樹勢が益々衰へるから、除去せねばならぬ。

(六) 病蟲害の豫防及驅除法 庭木には大木が多く、且つ樹林をなしてゐるので、病蟲害の驅除は容易でない。従つて病蟲害の驅除は務多くして效著しくないのである。故に病蟲害の豫防が大切で、なるべくその樹の健全なる發育

を遂げさせて、積極的に病蟲害に罹らぬやうな抵抗力を有たせることが必要である。然し既に被害を受けた場合は、止むを得ず驅除の方法を講じなければならぬ。以下主なもの、驅除法に就いて説明して置かう。

(イ) 樹幹を犯す害蟲 庭木の樹幹内に喰ひ込む穿孔孔蟲その他は、その樹幹に穴を穿つて多く蟲糞を出してゐるから、直ぐ發見出来る。夫等に對しては、その孔より二硫化炭素を注入して直ちに孔を粘土で閉ちて置けば、蟲は窒息して死ぬ。その際は總ての孔を通じて同時に實行しなければ有效でない。

(ロ) 新芽や葉を犯す害蟲 これは新芽を害蟲と共に燒き捨てたり、幹に藁其他を巻いて巢を造りこれに迎へて捕殺したりする。

(ハ) 病害 被害箇所を切り取り燒却したり、特に甚しい時は石灰硫黄合劑、石灰ボルドウ液等を撒布するのである。

六 庭木分類表

Table with 4 columns: 特至十五間, 大至十間, 中至五間, 小至三間. Rows list various tree species like アカマツ, イチバク, カシ, etc.

Table with 4 columns: 庭木, 暴風に抵抗力強きもの, 諸害に抵抗力強きもの, 刈込に耐へるもの. Rows list various tree species like アカシヤ, アカマツ, カシ, etc.

(二) 成育

Table with 4 columns: 成長速なもの, 成長遅きもの, 暴風に抵抗力強きもの, 刈込に耐へるもの. Rows list various tree species like アカシヤ, アカマツ, カシ, etc.

移植容易なもの

Table with 4 columns: 移植容易なもの, 庭木, 暴風に抵抗力強きもの, 刈込に耐へるもの. Rows list various tree species like アカシヤ, アカマツ, カシ, etc.

第三節 花卉

一 花卉の種類

花卉は其栽培の歴史が非常に古いに、歐米庭園に於て最上の裝飾材料として賞用せられてゐた爲、其種類は數百種に上つてゐる。次に夫等の中主要なものを擧げて置かう。

第一類 春の花 (三、四、五月中に見られるもの)

(イ) 球根の花 ヒヤシンス、チュリップ、トリトニヤ、アネモネ、ランタンキュラス、リユージュンシス、水仙、バビアナ、フリージヤ

(ロ) 多年生の花 福壽草、芍薬、牡丹、アヤメ、庭石菖、ゼラニウム、ペラゴニウム、ヘリオトロープ、ワスレナグサ、サクラサウ、ケマンサウ、ハナビシサウ、宿根ペゴニア、石竹、カーネーション、アルメリア

(ハ) 二年生の花 千鳥草、ケシ、小町草、ヒゲナデシコ、カハラナデシコ、水仙翁、ピスカリヤ、エゾギク、矢車草、フランス菊、キセンシカ、シネラリア、ミムラス、フロックス、パンジー、スウキートビー、アライサム、カンデタフト、アラセイトウ、ネモフィラ、ロベリア

(三) 一年生の花 クサザクラ

第二類 夏の花 (六、七、八月中に見られるもの)

(イ) 球根の花 百合類、カイユ、トリトニヤ、アキメネス、アマリリス、トリトマ、オーニゲラム、パンクラチウム、グラジオラス、モントブレリヤ、チグリジャ、夏水仙、カナ、オキザリス、シクラメン、ダリーヤ、グロキシニヤ

(ロ) 多年生の花 花菖蒲、イリス、ヒアフギ、ヘリオトロープ、夏菊、シオン、アフヒ、金魚草、クサケフチクタク、桔梗、絲桔梗、辨慶草、チキタリス、トラノヲ、美女櫻、サルビヤ、フクシヤ

(ハ) 二年生の花 伊勢撫子、天人菊、ハルシヤ菊、貝細工、カンパニユーラ、ベチユニヤ、金蓮花

(ニ) 一年生の花 日々草、段菊、百日草、ヘリアントリス、孔雀草、アゼラタム、千日草、鳳仙花、白粉草、松葉牡丹、鶏頭類、朝顔

第三類 秋の花 (九、十、十一月中に見られるもの)

(イ) 球根の花 アキメネス、チュベローズ、サフラン、ダリーヤ、カンナ、ジンジャ、コルチカム、グロキシニヤ

(ロ) 多年生の花 鳥頭、ヘリオトロープ、秋菊、寒菊、シラン、ランタナ、美女櫻、アフヒ、絲桔梗、辨慶草、金魚草、サルビヤ

(ハ) 一年生の花 フロックス、金蓮花

(ニ) 一年生の花 段菊、百日草、コスモス、ヘリアントリス、孔雀草、アゼラタム、千日草、白粉草、鶏頭類

第四類 冬の花 (十二、一、二月中見られるもの)

(イ) 球根の花 スノードロップ、支那水仙、コルチカム、サフラン

(ロ) 多年生の花 寒菊

二 花卉と氣候及土壤

花卉は古くから栽培せられ、常に人類に愛育せられて来た爲に、其改良程度は著しく進んでゐる。従つて其栽培の方法も非常に進歩してゐるので、氣候によつて影響せられることは比較的少ない。即ちフレーム、温室等の併用によれば、殆んど何れの土地に於ても大方の種類を栽培することが出来る。

然るに一面改良度の高い結果は、周囲の自然的条件に影響せられることも非常に著しいので、其中にも土壤の影響は特に顯著である。そこで以下花卉栽培と土壤との關係を簡単に説明して置かう。

(一) 花卉栽培に不適當な土壤

(イ) 砂 土壤全體の八割乃至九割の砂を含むもので、肥料分の保持力に乏しく乾燥に失する。

(ロ) 重 土 六割以上の粘土分を含み、空氣の流通悪く過濕に傾き易い。

(ロ) 壤 土 三割乃至六割が粘土で、他は砂地からなる。砂と粘土の優れた點を合はせたものである。

(ハ) 腐植質土 一割以上の腐植質を含み、低所にある時には過濕に陥り空氣の流通悪く土

三 花卉園

茲で花卉園と云ふのは花卉を栽培する場所を指すので、大體これを分けて花畑と花壇と鉢との三つとする。

(一) 花畑 面積は需用の多寡に従つて取り、輪郭はなるべく矩形とするがよい。そして周囲には小灌木を植ゑるのがよいとしてゐる。

(二) 花壇 花壇は色々な輪郭の中に培養土を四五寸に盛つてこれに各種の花を植ゑ出すので、これに種々の種類がある。

(イ) 毛氈花壇 同一時期に開花する矮性の草花を用ゐて毛氈を敷いたやうに色々な模様を表はすものである。

(ロ) リボン花壇 建物の周囲や路に添うた場所や、或は花壇と花壇の連続した場所等に、細長く造り、これに矮性の草花をリボンの模様のやうに植出すのである。

(ハ) テント花壇 中央に高さ一丈位の杭を打ち、其周囲等距離の所に、五尺位の高さに數本の杭を打ち、其各頂から中央の頂



池園と花卉

自然の趣味の趣向の來てる池園の風情

中に酸を生成する。

(二) 花卉栽培に適當な土壤

(イ) 石灰質土 三割以上の炭酸石灰を含み、良好なものであるが本邦には少ない。

いので、風に飛散し易いが、堆肥や厩肥を施して粘着性を増せば壤土に劣らないものである。

(二) 培養土 腐壤と埴土と砂土とを略等分に混合したもので、最も適當である。腐壤とは

に鎖又は太い繩を連結して、夫に纏絡性の花卉を纏はせ天幕の様にする。尚ほ花卉を植る出すところとしては、海外ではロック・ガーデンやドライ・ウォール・ガーデンなど特殊なものもあるが、日本では公園などの外、家庭ではあまり用ゐない。(第五十三圖参照)

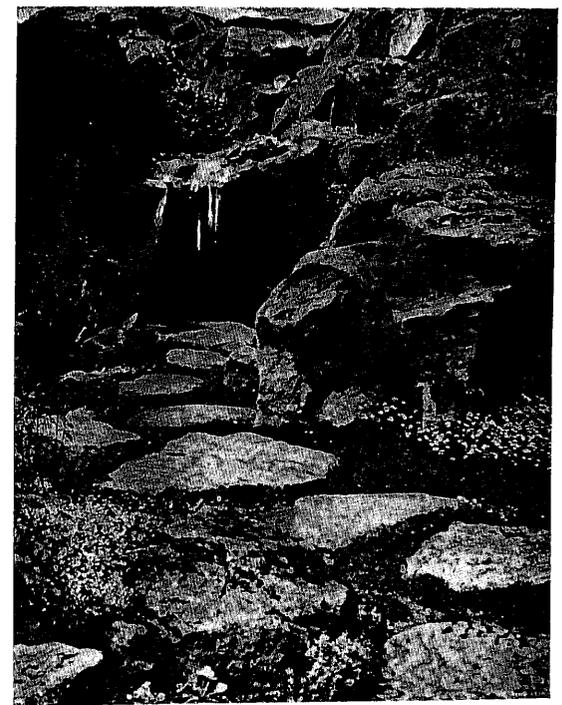
右のやうに花壇の種類は色々あるが、花壇を造る場合何れにも共通した必要な注意は、花色の配合と草丈を揃へること、花を絶やさない事とである。次には花壇の設計上輪廓とその大きさと色彩とに就いて、特に注意を要する事項を述べて置かう。

花壇の輪廓は周囲の通路や芝生や建築の平面等と調和することが最も大切である。又輪廓はなるべく簡單にして、同種類のものを大きく集中するのが有効である。

次に花壇各部の幅は、二尺より狭くしない。然し如何に大きな花壇でも二間以上の幅をもたせてはならぬ。要は建築や露壇の側面や平面、全庭園の平面などと比例を保つことが必要である。

色彩に就いては先づ色の對比のことを考へなければならぬ。若し周囲が冷色(紫、青緑)の場合には花壇の花は温色(橙、黄、赤)のものを多くし、温色であつた時には冷色の花卉を選ぶ。又同一花壇では中心に黄色の花を置けば、周囲は紫の花で圍繞するといふ様に、補色の

第三十五圖



ラ、ヤグルマサウ、スパートビー、ルピナス、シネラリヤ、千日草、アサガホ、バラ、クワ、ケイトウ、チューリップ、カンナ、水仙、ダリーヤ、トリトマ、フクジュサウ、百日草、バラ

關係にある花をとり合はせる。次には色の調和のことも必要である。調和に必要な条件はなるべく接近した色彩のものを配合することである。次に主なる花卉を色彩によつて分けて見よう。

- (一) 白色の花 ヒヤシンス、アネモネ、百合、グム、アルメリヤ、フロックス、バラ
- (二) 青色の花 ヒエンサウ、ヤグルマサウ、シネラリヤ、キキヤウ、アサガホ、アネモネ、花菖蒲、パンジー、アルターナンセラ、オダマキ
- (三) 紫色の花 花菖蒲、シオン、菊、アゼラタム、アルメリヤ、フロックス、バラ

- ラジララス、スノードロップ、アマリリス、カイユ、ジンジャ、夏水仙、フリジャ、サフラン、オキザリス、ダリーヤ、グロキシニヤ、サギ草、オーニソグラム、花菖蒲、イリス、芍薬、牡丹、バラ、キク、ランタナ、フロックス、スパートビー、ルピナス、カンデタ

- ラ、ヤグルマサウ、スパートビー、ルピナス、シネラリヤ、千日草、アサガホ、バラ、クワ、ケイトウ、チューリップ、カンナ、水仙、ダリーヤ、トリトマ、フクジュサウ、百日草、バラ

(五) 紅色の花 チューリップ、ヒヤシンス、ポタン、シヤクヤク、バラ、キク、コスモス、百日草、千日草、カンナ、カーネーション、サルビヤ、スパートビー、グビジンサウ、ホーセンクワ、アネモネ、グラジオラス、シクラメン、アルメリヤ、フロックス、シネラリヤ、マツバポタン、アサガホ

さて花壇の色彩に就いては對比や調和が必要であるが、更に留意すべきことは色彩の大まかな取扱ひをすること、無闇に對比を用ゐないことである。次にリボン花壇の配色の順序の一、二の例を示して置かう。

- (一) 紫—藍紫—白—淡青—黄—橙黄—紅—靑—石竹—白—淡青—靑
- (二) 赤—眞紅—橙黄—黄—淡綠—白—淡青—靑

四 鉢栽培

栽培困難な種類を思ふがまゝに作らうとする時、例へば菊や朝顔の栽培などに行はれるものである。鉢は素焼の瓦鉢が最もよい。栽培に際しては小さな鉢から次第に大きな鉢に移植して行く。鉢栽培は日光の照射を完全にし病蟲害

の驅除や灌水や施肥等十分のことが出来る。従つて花卉はその個性を十分に發揮して最も美しい結果が見られるのである。

五 花卉園の管理

(一) 繁殖法 種子は自家の花園の中から採集するか或は最も信用ある種苗店から購入する。播種の方法には直播、床播、盆播の三通りある。強健な種類は直播、弱いもの及移植を要するものは床播、極微細な種子又は貴重な種類は盆播にする。又播種の方法に撒播、條播、點播の三種類があつて、微細なものは撒播に稍大粒なもの條播に、大粒は點播にするのが並通である。播種の時季は普通春秋二季で、播種の深さは一般に種子の直径の二倍内外を標準とする。

(ロ) 挿木法 枝梢又は葉の一部を切り取つて挿す方法で、簡單には畑に挿すが、多くは挿芽床又は鉢で行ふ。挿芽床には普通砂を用ゐる。これに適當に切つた挿穂を挿し、適當の水分を與へ、日光の直射を防いで置けば、二三週後に挿芽する。時季は梅雨期がよい。

(ハ) 株分法 普通宿根草類に行ふ方法で、各部に發芽發根に差支へない様に刀を用ゐて切離すか、手で分割するのである。此場合最も注意を要する事は、其分割したものに必ず芽を有た

せる事である。時季は春又は秋である。(二) 間引法 花卉の種子は微細のものが多く、種子によつて其善悪を見分ける事は困難である。故に稍多量に播種して苗となつた時に、不良なものを除いて良好なものを残すのが間引である。間引きはなるべく回数を多くするがよい。一時に間引いてしまふと、其後何かの被害を受けた場合、苗の不足を來す恐れがあるからである。又間引きをする時には、靜かに丁寧に他の必要な苗を傷けぬ様に注意しなければならぬ。

(三) 移植法 床で育成した苗は適當な時に園地に植ゑ出すのであるが、次に其場合の注意事項を掲げる。(イ) 移植 掘り上げて深く地中に挿し入れ、十分に土を付けて掘り上げる。その際根を損傷してはならない。

(ロ) 移植 苗の根の根の透を鎮壓し根と土とを密接させる爲に灌水せねばならぬ。(ハ) 移植 掘り上げて日光の直射を防ぐ。(ニ) 移植 掘り上げて日光の直射を防ぐ。晴天の續く時は夕方になければならぬ。(四) 除草及中耕 雑草は著るしく花卉の生育を妨げ、花壇などでは甚だしく其美觀を損ずる。故に常に除草を怠つてはならぬ。中耕は雑草を驅除し地表を鬆軟にし乾害を防ぐに有効である。但し根を害することがあるか

ら注意しなければならぬ。

(五) 施肥 植物に最も必要な肥料成分は窒素、リン、カリの三成分であるが、此中花卉に最も必要なものは窒素である。但し、リン酸やカリも葉を丈夫に育てるものであるから、常に幾分かの混入を必要とする。

施肥の方法には播種又は移植前に施す基肥と生育中に施す追肥との二通りある。基肥は速効性の肥料を用いるとカリとかが此中に混入される。追肥はなるべく速効性のものを用いるので、主として窒素質肥料を稀薄な液肥として施用する。

(六) 支柱 菊やダリアの様に莖が軟弱で然るも大輪の花を着けるものや胡顔やスキートピー等の様な蔓性の花卉には、是非とも支柱が必要である。

支柱材料としては細藪、篠竹、割竹等を使用し、花壇や鉢植えには花卉の莖の色に染めて用ゐる。結束材料には藁、ラフィヤ、棕梠の葉等を使用する。

(七) 灌水 灌水は鉢栽培に特に必要である。灌水上特に注意すべき事項を挙げれば左の諸点である。

一、灌水は早朝又は夕刻にする。但し寒気の強い時には暖かくなつてから行ふがよい。

二、灌水の量は必ず鉢土が全部濡る迄施すこと。

三、灌水の温度は鉢土の温度と同様又は稍高いものを用ゐること。

(八) 病蟲害豫防 豫防法としては日光、空気の流通をよくし、肥料も三成分を適當に與へ、苗の健全な發育を計る。次に園内の清潔を保ち、蟻の巢を滅滅し、害蟲の卵を採集し常に薬剤の撒布を怠らないやうにする。

以上の様な注意をしても、氣候の爲病蟲の發生を見た場合には、薬剤を使用し、或は自身園中を見廻つて捕殺するに努めなければならぬ。

第四節 果樹

一 果樹の種類

果樹は實用と觀賞とを兼ねるもので、其取扱ひの如何によつては庭園材料として相當價值を有するものである。果樹の種類は熱帯から温帯に亘つて殆んど數へ切れない程多數あるが、茲では日本内地で成育し、家庭果樹園に栽培するに適當なもののみを挙げて置かう。

- 第一類 木本果樹 リンゴ、ナシ、ビハ、スモモ、サクランボ、モモ、ウメ、ミカン類、イチヂク、カキ、クリ、ザクロ
- 第二類 蔓性果樹 ブドウ
- 第三類 小果樹 クロイチゴ、スグリ

二 果樹と氣候及土壤

氣候の要素の中、其影響の最も大きいのは温度である。即ち柑橘、枇杷、無花果等は比較的高温を必要とするもので、本邦では關東以南の太平洋沿岸によく、桃、梅、杏、李等は比較的低温に耐へ、關東以南の土地で發育結果する。又梨、葡萄、柿は本州全部、苹果、櫻桃等は最も低温の地に適し、奥羽、北海道方面で好結果が得られる。

次に果樹は特に光線を必要とする。十分な光線がなくては完全な結果は望まれない計りでなく、果物の色彩も果實の受ける光線の量によつて其良否が定まるのである。故に果樹園は花卉園と共に最も日當りのよい位置を選ばねばならぬ。

更に氣候上の條件として風がある。微弱な風は色々の點で有効であるが、強風は常に禁物である。故に防風は果樹園には忘れてならぬ問題の一つである。

次は土壤であるが、果樹栽培上土壤の見方に二つある。一つは物理的性質、他は化學的性質である。

物理的性質とはその土壤が水分を保持し得るか否かに關する性質をいふので、果樹の發育結果上其影響するところは甚大である。そしてこの點から見た理想的土壤は、淺い粘質壤土で、

幾分礫を混じ、心土は排水良好な礫質土である。

そこで家庭果樹園を造る時には、土質を調べ不適當と見たらば改良する。即過濕の場合は排水溝を造るか盛土をする。同時に植ゑる果樹も淺根種即小果樹類や梨や苹果等か或は濕地に耐へる無花果等を探る。又粗鬆で乾燥に過ぎる場所では灌水するか粘質土を混する。そして其處には桃や葡萄の様に乾燥を好むものを植ゑる。次に化學的性質から見た適土は、常に中性か微アルカリ性の反應を呈するものである。特に枇杷、櫻桃、葡萄等は酸性を嫌ふ故注意しなければならぬ。而して酸性土壤の改良法は石灰を混するか、或は時折中耕して土を空氣に晒すかである。

三 果樹園

(一) 苗木の採定 苗木を求めるときには價の如何を論ぜず、常に完全なものを採定しなければならぬ。次に良苗としての條件を列記しよう。

- 一、品種の特長を有すること
- 二、全く病蟲害のないこと
- 三、發育中等で揃つてゐること
- 四、細根に富み乾燥してゐないこと
- 五、將來整枝に必要な所に芽を有すること
- 六、矮性砧木に接したもの
- 七、苗の年齢は四五年生位のもの

(二) 採集期 家庭果樹園ではなるべく年中絶え間なく果物を供給する様にしなければならぬ。これは地方や、地勢の關係等で多少の相違のあるのは勿論であるが、大體の標準は次の様である。

第五十四圖 採集期表

種名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
種名												
櫻桃												
枇杷												
李												
桃												
杏												
無花果												
葡萄												
和梨												
洋梨												
苹果												
柿												
蜜柑												
甜橙												
夏蜜柑												

(三) 植付距離 苗木の植付に就いて、最初に考へねばならぬのは、植付距離である。

- 梨、苹果、葡萄 柵造り整枝 方二間
- 桃、梨、苹果、李 盃形整枝 方二間
- 柑橘、柿、栗、梅 自然形整枝 方二間—方三間
- 葡萄 垣造り整枝 株間 六尺
- 枇杷、櫻桃 自然形整枝 方二間—方三間

- 無花果 自然形整枝 方二間
- ザクロ 自然形整枝 方二間—二間半
- スグリ 自然形整枝 方二間

(四) 果樹の配列 次に果樹の配列には次の四つの種類がある。

- (イ) 正方形植 管理に便であるが土地不經濟。
- (ロ) 互の目植 管理稍々不便。
- (ハ) 正三角植 間引きによつて配列が亂れる。
- (ニ) 五本植 正方形の四つ角と中央に植ゑる方法で管理不便であるが土地最も經濟。さて家庭果樹園に於ては土地を最も有効に用ゐなくてはならないし、その管理は最も周りに行はれる筈であるから、以上四つの中五本植を撰擇するがよい。

以上は植栽面積と管理とを眼目としての論であつたが、次は異種の果樹を混植する場合を考へて見よう。

(五) 果樹の配植 家庭の果樹園には色々の種類を一緒に植ゑる必要がある。そこで夫等の樹は如何に配植したなら樹の成長や結果に適當であるか又地積の經濟ともなり美觀をも呈するかといふことを考へなくてはならぬ。それには色々の方法があるが、原則としては觀照者の立點に近く、又南方に矮性ものを仕立て、遠ざかるに従つて長大なものとする。そして常緑

果樹を一群として植ゑたならば、次は落葉果樹といふ様に配つて、色や形の變化などにも注意する。それから塙垣或は道路に沿ふては、垣根造りの葡萄や梨や李又はスグリやキイチゴなどの矮生種を植ゑる。其他地積の利用や美觀の上から道路の上に葡萄や梨や苹果の棚を造るなども面白い。尚ほ果樹は庭木として單獨に芝生や蔬菜園内に植ゑ出すことも出来る。

(六) 植付時期 果樹の植付時期は春と秋との二回である。けれども常緑果樹の外は秋植ゑが宜しい。常緑果樹を秋植ゑにすると兎もすれば冬の寒さの爲に被害を受けることがあるが、落葉果樹は此憂ひがなく、却つて春の成育期迄に十分の準備をととのへる爲に夏になつていつも發育が宜しいのである。

(七) 植付法 果樹を植付けるには根の剪定を行ふのであるが、これは種類によつて其方法を異にする。即ち梨、苹果、桃、李、杏、櫻桃、無花果、ザクロなどは大根を切りつめて植ゑると結果期を早めるが、柑橘、柿、葡萄、栗などの根を切りつめると、それが爲に著しく樹の發育を悪くする。何れにしても根を切るには切口が下になる様に切る事を忘れてはならぬ。次に植付の深淺に就いて云へば、一般的にはなるべく淺い方がよい。然し氣候や土質や枯木によつて幾分違ふ。重粘土の所は輕鬆土の所より淺く、寒冷な所では溫暖地より、乾燥地では

濕潤地より、土砂の流出する場所は無い所より、矮生樹木に接いだものは其砧に接いだものより深く植ゑるのである。さて根の剪刀と同時に、上部にも其仕立方に應じて適當な剪定を行ふ。そして植場所に根が入つても十分餘裕のある程の穴を掘る。この穴の底は中央部を少しく高くする。次に支柱を要するものでは其中央より少しく外れた所に支柱を打込み、幹を中心として根を四方に丁寧に配置して土を覆ひ、十分踏み固め掛き固める。次に支柱を立てた場合にはそれに苗を結び付けて終るのである。

四 果樹園の管理

(一) 剪定及整枝 剪定及整枝の目的は樹勢を調節して收穫を増し品質を改良し、隔年結果を防ぐ爲と、樹形を正しくして土地及空間の利用を平等ならしめ、同時に管理に便ならしむるに在る。そして其目的を達する爲には色々な法が行はれるので、その中成育期に行ふ作業として夏期剪定、摘芽、摘葉、彎曲、鋸刻、剥皮、斷根、縱傷等があり、休眠期に行ふ作業に冬期剪定、植換、剪根等がある。

右の中夏期剪定は夏季枝の伸長が良過ぎる時に行ふので、枝の先端を摘除し或は枝を中途から半折にしたり捻つたりして徒長を止め、枝の發育を充實せしめるのである。又摘芽、摘葉、

彎曲等は枝の勢力の調節の爲に行ふ方法で、強過ぎる枝は短かく摘むか葉を除くか或は彎曲してその勢力を抑へるのである。鋸刻は芽の生長を促す爲或は抑へる爲に行ふので、芽が伸びない時にはその上部に、枝が伸び過ぎる時には枝の下部に、深き木質に達する切り傷を付ける。剥皮及縱傷は花芽を着ける爲に行はれる方法で、前者は幅一分位に枝を廻つて樹皮を切りとり、後者は枝幹に縦に木質に達する傷を付けるのである。

次に冬季剪定には、主枝剪定と側枝剪定とあり、何れも強大なものは弱小なものより長く剪定するの原則とする。

(二) 仕立方 樹型に就いて一々述べる邊がないので、こゝでは單に仕立上の注意事項を擧げて置く。

樹勢に不平均を來したり、空所が出来たりした時には、誘引及接木によつて調節する。即ち強い枝は成長中はなるべく水平に誘引し、弱い枝は垂直に導くか他の勢力の強い枝を呼び接ぎにする。又或主枝が枯れた時には、側枝又は徒長枝をそこに導いてこれに代らせるか或はその部分に接木をする。時期は秋又は春早くする。

(三) 肥料及敷草 果樹の肥料は結果期に達する迄はなるべく窒素質の多いもの、例へば豆粕、油粕、魚肥、或は堆肥の類を多くし、結果期に達してからは燐酸質、加里質の肥料、例へ

ば米糠、過燐酸石灰、魚肥、草木灰等を多くする。又基肥には遲効性のもの即ち豆粕、油粕、魚肥、米糠、堆肥等を追肥には速効性のもの例へば硫酸アンモニア、智利硝石、過燐酸石灰及び人糞尿などを施すので、基肥は無くてもならぬもの、追肥は結果が多過ぎて基肥だけで養分の不足を來したやうな時に施すのである。次に敷草は乾燥地に限つて行はれる。土地が乾燥したり固まつたりするのを防ぎ雑草の發生を妨げる爲に、樹の根際又は一面に乾草、藁、厩肥などを敷くのである。

(四) 古皮むき及幹の縮れ 普通葡萄に行はれる方法で、樹が老衰して外皮が硬化し、爲に幹の肥大するのを妨げ、又はその部分に害蟲などが潜むのを防ぐ爲に行はれる。又枝幹に繩や針金を巻いて、とる事を忘れて居ると、そこが縊れて風などで折れる。注意して早く手當をせねばならぬ。

(五) 間引き 間引きには花すぐりと實すぐりの二種類がある。其中花すぐりは一回でよろしいが、實すぐりは數回に亘つて行ふ。而して施行上の注意としては、日光空氣の流通よく、強大な發育をしてゐる處は多く、然らざる處は少なくすることが肝要である。梨、苹果などは一ヶ所に一個、桃なども一ヶ所に二個以上残すことを避けるのである。

(六) 病蟲害豫防及び驅除 病蟲害に對する

豫防法として最も必要なことは、樹木をして病蟲害に抵抗し得る様に頑健に育てることである。それには、土地の撰定上水分過多に陥らしめぬこと、十分の光線と通風を與へること、施肥上窒素質肥料を多く施さず、なるべく燐酸、加里質肥料を多く與へること等が必要である。尚果樹の附近を清潔に保つことは必要な注意で塵芥、雑草の除去を怠つてはならぬ。次に藥劑を施すことであるが、病氣防止の爲には二斗乃至四斗式石灰ボルドウ液、石灰硫黄合劑を、害蟲驅除には石灰硫黄合劑、石油乳劑、二硫化炭素等を施用する。其他常時注意して病葉や害蟲を蒐集焼却することも甚だ有效な豫防驅除法である。

第五節 蔬菜

一 蔬菜の種類

蔬菜は人類の生活上必要のもので、其栽培の歴史も極めて古い。従つて種類も非常に澤山である。次に本邦に普通な主なる蔬菜を擧げて置かう。

- 第一類 根菜類 ダイコン、ニンジン、ゴボウ、サツマイモ、ワサビ
- 第二類 莖菜類 クワキ、サトイモ、パレイシヨ、ハス、シヨウガ、タマネギ、ネギ、リ

- 一キ、ニラ、ユリ、アスパラガス、ウド
- 第三類 葉菜類 チサ、セリ、タマナ、ホレンサウ、ミツバ、シソ、タウガラシ
- 第四類 花菜類 ハナヤサイ、キク、チヨウウセンアザミ
- 第五類 果菜類 キウリ、マクワウリ、シロウリ、カボチャ、スキクワ、トウガン、ユウガホ、ナス、トマト、タウガラシ、インゲン、エンドウ、ソラマメ、ラツカセイ
- 第六類 雜類 イチゴ、トウモロコシ、洋蔥

二 蔬菜と氣候及土壤

氣候要素中温度と湿度とを本位として蔬菜を分けると四つとすることが出来る。

- (一) 高温を好むもの サツマイモ、ウリ、トマト、インゲン、トウモロコシ
- (二) 低温を好むもの キウリ、ナス、ネギ、イチゴ
- (三) 湿度を好むもの サトイモ、ニンジン、エンドウ、ソラマメ
- (四) 湿度を好むもの ダイコン、カブ、ワサビ、タマナ、チサ、コマツナ

又光線の問題に就いては、蔬菜には一日中五、六時間以上即ち朝の九時頃から午後三時頃迄日光の照射がある所ならば栽培することが出

来る。

次に土壌の良否は蔬菜の生育上に著しい影響を及ぼす。最適土は表土が深く併も十分細粉されてゐる肥沃土であつて、乾濕極端に傾く所及粘重又は輕鬆に過ぎる所は不適當である。又臺地或は急傾斜地も餘り好ましくない。若し止むを得ず傾斜地を蔬菜園とする場合には、畦を同高線と同方向に作ることを忘れてはならぬ。

三 蔬菜園

蔬菜の栽培には普通栽培即ち露地の栽培と促成栽培即ち温室温床内の栽培と、軟化即ち温床又は土窟内の栽培との三つがある。以上の中最も普通に行はれ最も容易に出来るものは露地栽培で、技術と熟練を要して最も栽培の困難なのは促成栽培である。今これ等に就いて大體述べよう。

普通栽培を其の栽培の場所によつて分ければ畑田、流れの三つとすることが出来る。

(甲) 蔬菜園

(一) 播種法 播種法に床播と直播の二つがある。

(イ) 床播 是れは苗床を造つて其上に播種し苗が二三寸の大きさに育つた時畑に移植する法で、床には冷床と温床の二種類ある。

冷床は南向きの暖かい所に地上三四寸の高さに肥沃な壤土五、堆肥三、砂二の割合に配合し

た土を盛り上げ、それに油粕七〇、木灰一〇〇、過燐酸石灰六〇、人糞尿二升の割合で施肥する。

次に温床は新しい厩肥、紡績屑、藁、木の葉等を一、二尺の厚さに踏込み、其上に冷床の時と同様の土を四五寸の厚さに敷込むのである。

(ロ) 直播 直ちに畑に播く方法で、これを分つて散播、條播、點播の三とする。散播は發育の早い成長期間の短かい種類、例へば小カブや菜類に行はれる方法で、普通幅四尺位の床を造り、これに一面に撒布し覆土する。次に條播は畦に従つて一線に間を置かずに播く法で、根菜類、葉菜類に行はれる。又點播はバレイシヨ、ソラマメ、タウモロコシなどの様な枝葉の繁るものに行はれる。

(ニ) 植付法 蔬菜の移植はアカナスやナスやキウリなどは果實の成るのを促し、チシヤ、ハナヤサイ、タマナなどでは花を持たせ結球作用を促すのである。

苗を植ふる場所は一、二週間前から徑七、八寸深さ三、四寸の穴を掘り肥料を入れよく土を交ぜ合はせて低い土饅頭を作つて置き、其中央に植付けるのである。此場合夏であつたら灌水と日覆ひを施し、初春であつたら灌水をせす寒さ避けをするのである。

(三) 作付順序 家庭蔬菜園では出来るだけ多くの種類を作つて、年中絶えず收穫するものと

塗から折り曲けて置くことが必要である。そして收穫前には、灌漑水を十分に排除して、土地を暖める。故に栽培上排水の完全に行はれる場所が好ましいのである。

(丙) 流水

普通此處で作られるものにはワサビとミヅセリがある。ワサビは山間の清流を好むのであるから、山中の別荘や住宅で清流のある場合至極面白い。又ミヅセリは池の排水路等を利用して栽培することが出来る。

(一) 促成栽培 促成栽培には普通木框を用ゐて、これに色々の發熱材を敷込み、其上に栽培土を入れ、發熱物の發する温度によつて冬期蔬菜を得ようといふ方法である。そして木框は普通長さ二間幅四尺、南側の高さ八寸、北側の高さ一尺三寸乃至一尺五寸で、材料には杉などの五分板を用ゐる。

木框を置く場所は日當りよく暖かな乾燥してゐる所で、管理者の住宅に近く使用水に便な所を理想とする。熱源たる發熱材料の一例を挙げれば次のやうなものがあつた。

米糠	八十二貫
人糞尿	四斗
水	三十二貫
	十二三荷

糞は七、八寸の長さに切り、米糠をよく混ぜて人糞尿一尺五寸前後、厚さ一

このやうな材料で、熱の保持期間は三、四週間である。

次に用土は使用六、七ヶ月前から新鮮な厩肥

好ましい。故に各蔬菜の播種期、成育期間等を知つて畑を遊ばせないやうにしなければならぬ。

(四) 連作と輪作 同一の場所で同一の作物を引續き作つて連作といふ。そして連作の結果品質の向上するものにダイコン、ニンジン、ネギ、シヨウガ、サツマイモなどがあり、最も結果を來すものにウリ類、マメ類、ナス、バレイシヨ、サトイモ、スイカ、トマト、トウモロコシ、ラツカセイ等がある。そこで是等不結果を來す種類は年々栽培する場所を變へることが必要であつて、これを輪作といふのである。

(五) 間作 蔬菜の熟期に早晚のある性質を利用するもので、早熟種の間には晩熟種を栽培するといふやうに、順次前種の採收を終らない中に、前種の畦間に播種栽培して行く方法である。この方法は地積の利用上、最經濟的であるが、一面日光や空氣の流通を悪くし肥料を多く要する等、管理上の困難も少くないのである。

(乙) 蔬菜園

蔬菜園に作るものは極特殊なもので、蓮、クワシ等が主である。

クワシは暖地を好み、連作を最も嫌ふもので、灌漑水の深さは一寸内外を程度とする。

蓮には白花蓮と紅花蓮の二種がある。品質は前者の方が良い。灌漑水の深さは三四寸を適度とし七、八寸を越えてはならぬ。又根莖の發育を良くするには、花蕾を除去し、更に花梗を中

一、木葉一、肥沃な畑土〇・五の割合で、幾段にも堆積し、十分水を加へ時々切返す。かうして十分腐熟した上で使用するのである。

さて促成栽培を行ひ得る蔬菜はナス、トマト、キウリ、マクワウリ、シロウリ、トウガン、カボチャ、インゲン、ソラマメ、トウガラシ等で、何れも夫々の種類の中での早生種を撰ぶことを忘れてはならぬ。

(二) 軟化法 此栽培は平地の温暖乾燥な所に、深さ一尺五寸乃至一尺位の穴を掘り、夫を板で圍つて、其中で行ふ場合と、深さ一丈内外の穴を造つて、其中で行ふ場合と二つある。何れにせよ床の中に厩肥、糞、米糠などの發熱物を一尺乃至一尺五寸位に敷込み、促成の時と同様な用土を四乃至六寸厚に入れ、用土に播種或は根株を密に並べる。而して油障子と藁を被うて置くのである。

四 蔬菜園の管理

(一) 除草、中耕及土寄 雜草は空氣、日光の透過を妨げ、肥料分を奪ひ去り、病害蟲の誘ひとなる等、色々な害を與へるものであるから、常に其除去に努めなければならぬ。

又種子を播種した儘に放置すれば、土地は自然硬化して空氣や水の流通が悪くなる。そこで發芽後二、三回は畦の間を耕す必要がある。これを中耕といふ。中耕の最も必要な蔬菜は、茄子

や菜類である。

次にサトイモ、バレイシヨ、シヨウガ、ネギ類は成長に従つて根元に土寄せをする。これは莖の倒伏を防ぎ、養分の吸収を便にし雜草を埋め寒氣を防ぐなどの效がある。

(二) 間引き これは苗に適當な間隔を與へて其成長を十分ならしめようとするのと、悪いものを除いて良いもの計りを残さうといふ目的で行はれる。又一方間引きにより、早くから柔かい蔬菜で食卓を賑はす事も出来るといふ便宜もある。次に間引きの注意を述べよう。

一、間引きは回数も多くすることとし、一時に多數行つてはならない。

二、間引くべきものは目的品種外のもの、劣弱なもの、葉色が濃厚で他に比べて丈高く伸びたものである。

三、蔬菜の種類に定められた株間以上の間隔を作つてはならぬ。

(三) 摘心 これは瓜類に必要なことである。シロウリ及マクワウリ本葉三枚になつた時、二節を残して摘心する。此二節から出た二本に五、六枚の葉が出た時、五節目で摘心すれば、之から出た四本づつ、の孫蔓に雌花が出来る。そして孫蔓は第三節の上で摘心する。カボチャ六、七枚の葉が出た時摘心して四本の枝を出せばよい。結實したら一節おいて二節

目から摘除する。

(四) 支柱 豆類、キウリ、トマト、アスパラガス等に行はれる。材料は男竹の先端、女竹、粗朶等である。

(五) 敷藁 其目的には三つある。即ち

イ、乾害を防ぐ Ⅱ 里芋、茄子等の場合。

ロ、顆實の色澤の悪變及汚れを防ぐ Ⅱ 西瓜、南瓜、冬瓜、越瓜、甜瓜等の瓜類及草苺等の場合。

ハ、雑草繁茂を防ぐ Ⅱ 一般蔬菜の場合。

五 病蟲害の豫防及驅除法

(一) 豫防法

一、肥料として窒素質と共に、磷酸、加里質肥料を十分施與する。

二、日光空氣の流通をよくし、附近を清潔にする。

三、土壤の酸性は木灰や石灰で中和する。

四、石灰ボルドウ液を二週目毎に撒布する。

(二) 驅除法

一、病葉は摘除の上燒却、糞沸、或は家畜の飼料として與へるか、土中深く埋没する。

二、害虫には石油乳劑、煙草石鹼合劑、エキースオール等を撒布する外、蚜、卵等は見付け次第捕殺する。(完)